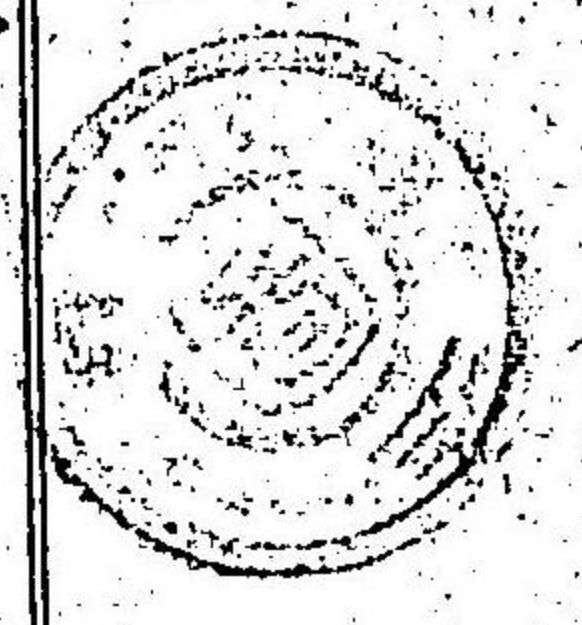


32-57 No 5824/23

岡本武雄君序文
紫山北村三郎著

日耳曼史 全

東京 博文館藏版



日耳曼史序

帶甲百萬、猛將如雲、豺豸如林、始征丁
抹、次伐奧國、終勝佛國、而遂成獨逸帝
國、復興之大業矣、嗚呼、是非維廉帝以
不世出之姿、君臨普國、輔之有比斯馬
克、穆杜傑之相將而能成之者哉、於是

乎獨逸帝國之名赫々耀於宇內稱霸於歐洲其一舉一動至關於全歐之治亂矣其武已然而又法律具備制度整然大之自國家經綸之大法小之至町村自治之体制悉莫不整備他國亦至取範於獨逸蓋亦可謂盛矣獨逸實有

旭日昇天之勢者也其武其文共冠於宇內者也然至徒取範於此而自得則誤矣獨逸致今日之盛者非偶然得之蓋有其素而然也今夫樹木之鬱然者其根固也江河之滔々者其源遠也獨逸之有今日亦然矣不思之而徒慕之

者見樹木之鬱然而不知其根之固望江河之滔々而不知其源之遠之類也蓋亦誤矣欲知獨逸之所以致今日乎不宜不就史究之獨逸人種開歐洲之自由之民也獨逸人種剛健忍耐可用以成大業之民也至中世則不列的力

大王之洪圖乘後世子孫可繼之業矣近則拿破崙之侵略使獨逸人民蹶然起思報復之志矣適有維廉帝出比斯馬力穆杜傑之英傑輔以成今日之大業者亦非偶然也學獨逸者非知之而不徒取其形取其神則適有以禍於其

國而已矣、紫山撰獨逸史其意亦在于此乎、

明治甲寅之歲九月上澣

岡本武雄誌

日耳曼史目次

首編

- 第一章 日耳曼ノ歴史
- 第二章 日耳曼ノ人口及面積

第一編

上世紀

- 第一章 日耳曼人ノ移植——羅馬人ノ來侵
- 第二章 亞美紐ノ獨立戰
- 第三章 日耳曼國內ニ於ケル新邦國
- 第四章 亞拉力羅馬ヲ攻ム——ウンダルス人羅馬ヲ陷
井ル
- 第五章 亞地拉ノ來侵
- 第六章 セオドリックノ治蹟——クロウヂスノ武略
- 第七章 告士人ノ敗衄——胡羅地ノ建國

第八章 「メロウキンヂヤン」朝ノ衰頹——亞的得拉曼ノ來侵

第九章 風俗及宗教

第十章 政治

第十一章 文學

第二編

中世紀 (上)

第一章 查列曼大帝

第二章 查列曼ノ氣風采及品行

第三章 日耳曼帝國ノ分裂

第四章 諾曼人ノ來侵入——アルノルフ王

第五章 顯理一世ノ英畧

第六章 オソ大王

第七章 オソ二世——オソ三世

第八章 コンラド二世——顯理三世

第九章 顯理四世 (其上)

第十章 顯理四世 (其下)

第十一章 第一十字軍

第十二章 顯理五世——コンラド三世

第十三章 第二十字軍

第十四章 啡哩特力一世

第十五章 第三十字軍

第十六章 顯理六世——非立夫及オソ一世

第十七章 啡哩特力二世

第十八章 ハンサ社

第十九章 日耳曼空位ノ時代——ロドルフノ治蹟

第二十章 アドルフス——アルベルト

第二十一章 顯理七世——ルーイス、ゼ、ハワリヤン

第二十二章 查列斯四世

第二十三章 ウェンセスロース——シヂスモンド

第廿四章 コンスタンス宗門會議 || チヨン、ハツス

第廿五章 「ハツサイト」ノ戰

第廿六章 啡哩特力第二世

第廿七章 マキシミリアン一世

第廿八章 風俗

第廿九章 政治

第三十章 宗教

第卅一章 文學

第卅二章 美術 || 發明

第三章

中世紀 (下)

第一章 路易出ツ

第二章 宗教改革ノ原因

第三章 宗教改革ノ發端

第四章 宗教改革ノ氣運

第五章 宗門和議 || 路易ノ永眠

第六章 宗教改革ノ戰爭 || 查列斯ノ辭位

第七章 新舊兩派ノ衝突

第八章 非爾的難多二世

第九章 三十年ノ戰爭 || 第一瓦倫士丁ノ傳

第十章 第二俄斯答亞德弗ノ來攻

第十一章 第三俄斯答亞德弗ノ死 || 瓦倫士丁ノ死

第十二章 第四三十年戰ノ結局

第十三章 路易十四世ノ勢力曼國ヲ壓ス

第十四章 路易十四世ノ侵畧

第十五章 西班牙繼統ノ戰

第十六章 宗教 || 風俗

第十七章 美術 || 文學 || 發明

第四編

近世紀 (上)

第一章 普漏士ノ建國 啡哩特力一世 —— 啡哩特力維廉

第二章 千七百年ニ於ケル曼國ノ形勢

第三章 啡哩特力大王

第四章 七年役ノ始末

第五章 約瑟二世(附波蘭分割ノ始末)

第六章 曼佛ノ戰爭 —— 日耳曼ノ變勢

第七章 普國ノ敗辱

第八章 ソグラムノ役(奧佛ノ戰爭)

第九章 普國ノ改革

第十章 國權恢復ノ戰

第十一章 大喪亂後ニ於ケル曼國ノ形勢

第十二章 日耳曼ニ於ケル內訌(其一)

第十三章 日耳曼ニ於ケル內訌(其二)

第十四章 文學(其一) 詩人

第十五章 文學(其二) 哲家

第十六章 文學(其三) 諸學術家

第五編

近世紀(下)

第一章 普國ノ勃興

第二章 普噠ノ戰爭

第三章 普奧ノ戰爭

第四章 奧國ノ狀勢

第五章 普佛ノ戰爭(其一) —— 普佛ノ兵勢 —— 拿破崙ノ投降

第六章 普佛ノ戰爭(其二) —— 日耳曼帝國ノ建立 —— 普佛ノ和議

第七章 維廉一世 —— 啡哩特力三世 —— 維廉三世

第八章 教育

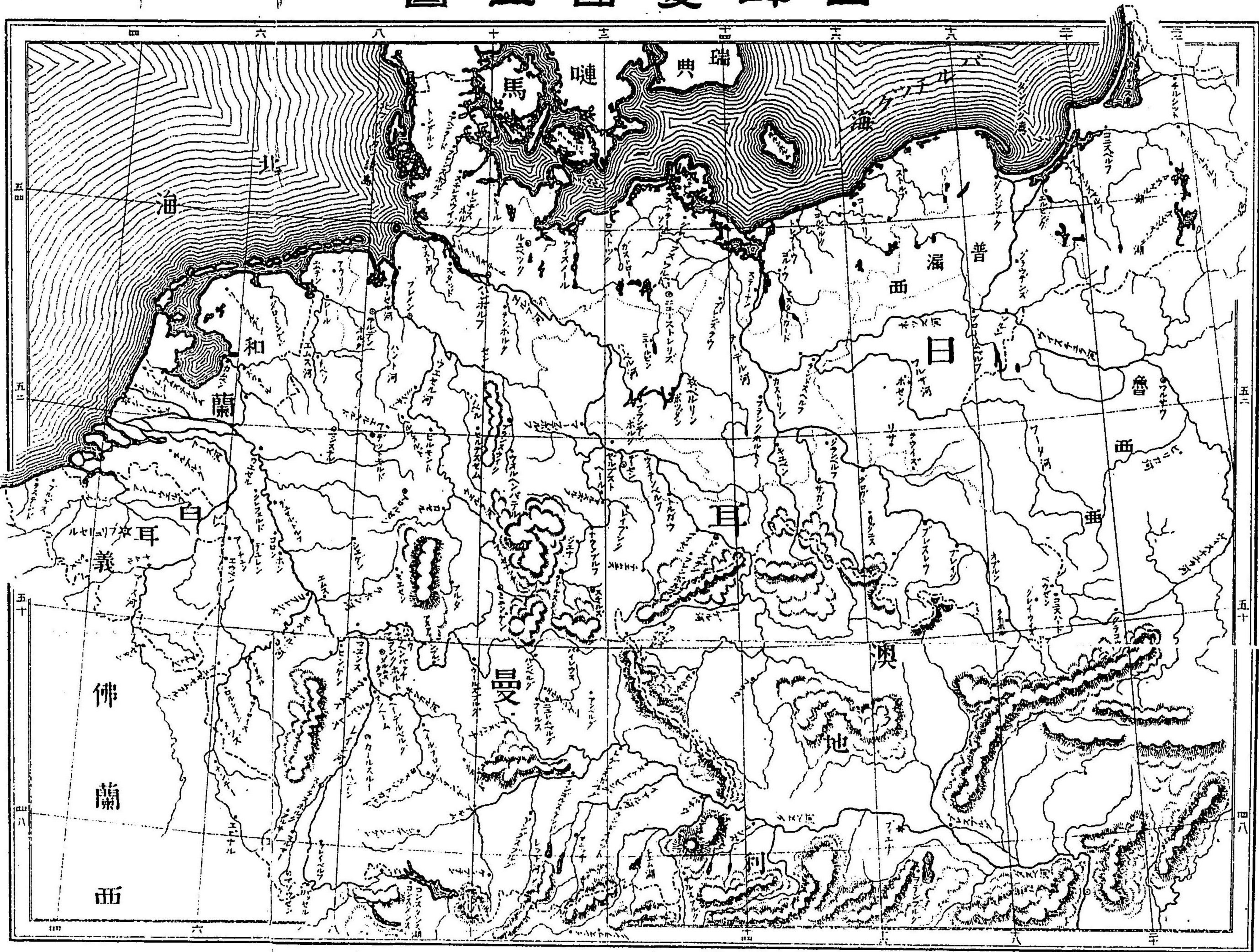
第九章 財政

第十章 兵制

目次

印耳曼史目次終

日耳曼全國圖



日耳曼全圖



日耳曼全國圖



日耳曼史

北村三郎編述

首篇

第一章

日耳曼ノ歴史

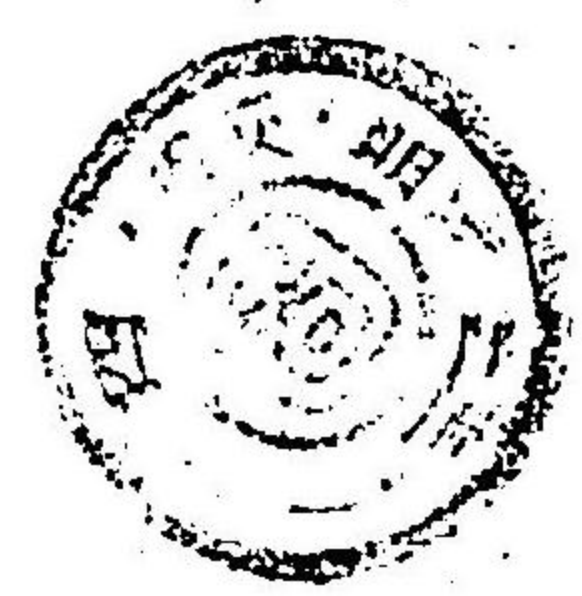


自由ハ日耳曼ノ森林中ヨリ萌生セリトハ羅馬史家ノ語ニ非ズヤ而シテ其自由ノ萌芽ヲ發シテ諸厄羅撒遜人種——即チ英國ノ自由ト爲リ以テ一國ノ正氣ヲ進ラシ積ミテ告爾人種——即チ佛國ノ自由ト爲リ以テ万丈ノ光輝ヲ吐キ歐洲ノ天地ヲシテ一新空濶ノ活世界ヲラシメタリ今日日耳曼ノ歴史ヲ緜キ古ヲ懷ヒ今ヲ稽ヒ往時ノ日耳曼人ヲ

追想スルキハ安ソシ羅馬史家ノ語ニ感慨ナキヲ得ンヤ。

文物煥然宇内ノ精華ヲ萃メ其版圖ハ告爾貌利頗西班牙及ヒ日耳曼諸

日耳曼ノ歴史



紀元後七百三十二年、亞刺比亞ノ豪傑、亞伯得拉曼、亞非利加及び西班牙
 ナ蹂躪シタル威力ヲ負ミ、疾風迅雷ノ勢ヲ以テ、歐洲ヲ經略セントセリ、
 當時此勁敵ニ抗シ、敢往勇毅ノ精神ヲ鼓舞シ、遂ニ無比ノ強鋒ヲ挫キ、回
 々國ノ弦月旗ヲシテ比勒牛山頭ニ翻ス。コトヲ得セシメザリシ者ハ、佛王
 ナヤレス、マーテルノ義勇ニ由レリ、而シテ當時ノ人民ハ、告爾ノ日耳曼人
 種ナリシナリ、亞伯得拉曼ニシテ勝利ヲ獲タリトセン乎、羅馬帝國ノ後
 ナ主宰スルモノハ、或ハ撒拉生人民ニ在リシナラン、日耳曼人ノ歐洲自
 由ノ消長如何ニ關スルヤ、亦大ナラズヤ、

其後、中世ノ間、文明一タビ塞ガリ、自由滅シ、宗教壞レ、學術暗ク、風雲慘愴、
 闇夜ニ燈ヲ失シタルカ如キモノ、年久シカリシト雖、宗教ノ改革ニ理
 學ノ探究ニ器械ノ發明ニ着々其端ヲ日耳曼人ヨリ發シ、歐洲腐壞ノ思
 想ヲ洗ヒ、歐洲守舊ノ精神ヲ破リ、遂ニ歐洲諸國ヲシテ、今日ノ如キ、隆運
 ナ開カシメタリ、誰レカ日耳曼人ヲ以テ、歐洲自由ノ開拓者ニ非ズト謂

フ乎、

日耳曼人ハ、古ヨリ自由獨立ノ氣象精神ヲ以テ活動シタリキ、羅馬史家
 タキッス嘗テ云ヘルコトアリ、

日耳曼ノ民族群衆ノ如キハ、小事ハ其主長之ヲ裁定スト雖、
 大事ニ至リテハ、必ズ兵役ニ堪ユベキ自由民ヲ集メテ之ヲ議セシムルノ風
 俗アリ、

英國ノ史家アルノルド亦近世史ニ於テ、日耳曼人種ノ形跡ヲ叙シテ左
 ノ如ク云ヘリ、

今日日耳曼人種ノ蔓延スルヲ視ルニ、歐洲ハ北ポーシニアノ灣頭ヨ
 リ、最南西齊里ノ海角ニ亘リ、又亞得利亞的海ヨリヘブリツツ嶋及ヒ
 里斯本ニ至ルマデ、悉ク日耳曼人種ノ孽末ニ非ザルハナシ、蓋シ其間
 伊太利、佛蘭西、西班牙ノ如キハ、其言語日耳曼ノ起原ニ非ザルモノア
 リト雖、
 凡人民ノ骨格等、悉ク彼ノ佛朗克ホルゴンヂー、
 西告士、東告士

及ビ「ラムバード」人種(此數種族皆日耳曼人種ト稱スルモノ)タルヲ疑フヘカラザル事實ナリ、且ツ夫レ日耳曼荷蘭、噠馬、瑞士、諾威、瑞典ノ大半、及ビ我大英國ノ如キハ、其言語ニ、骨格ニ、制度ニ、一トシテ日耳曼人種ノ起原タラザルハナシ、加フルニ、南米ハ、凡テ西班牙及葡萄牙人ノ移住シタルモノニシテ、北米及ヒ濠州ハ亦英人ノ遷居シタルモノナリ、既ニ歐洲兩米、及ヒ濠州ノ大半ニ於テ、其言語、制度、骨格等ノ日耳曼人種タルヲ知ル、是レ其人種ノ蔓衍スルヲ偉大ナル所以ニ非スヤ、

日耳曼人ガ、一片自由ノ氣象ヲ披シテ羅馬ノ帝政ニ抗シ、其大帝國ノ文明ヲ承ケ、他ノ歐洲諸國ニ先テテ獨立ノ地歩ヲ占メタリシモノ、豈偶然ナランヤ、

日耳曼人ガ自由ノ精神ニ富ミ、獨立ノ氣象ニ富ムモノ、其人種ノ大ニ發泄シ、四方ニ蔓衍シタル所以ナリ、止々古代日耳曼ノ俚諺、以テ其精神氣象ヲ寫スニ足レリ、曰ク、

Vryheid do ick ju openbar, ((Freedom proclaim i far and wide,))

De Karl und manning vorst verwahr ((Which Charles and many a prince beside))

Deser Stadt gegere hat: ((To this our town hath giv'n indeed:))

Des danket Gott—is min Rad, ((Thank God, therefore, that is my rede (advice))

我廣く我が府の兄弟に告ぐ、查列斯^{チャレス}及び諸王、自由を以て之を我府に與へり、我府の兄弟宜しく之を神に感謝すべし。

嗚呼、日耳曼人ハ、荒寒ノ野ニ在リ、荆棘ノ林ニ臥シタル時ト雖、自由ノ要素アリ、獨立ノ要素アリ、自由獨立ノ要素之ヲ數百年前ニ孕ミテ之ヲ第十九世紀ニ發揚シ、廣大ナル帝國ト爲リ、精整ナル兵備ト爲リ、深遠ナル學術ト爲リ、其經濟ニ運輸ニ器械ニ皆完然秩然、自由ヲ護シ、獨立ヲ保ツ、柱石ト爲リ、維廉大帝ノ徳、春風和氣ノ如ク、俾士麥ノ零、喬岳大川ノ如ク、孟杜傑ノ武、秋霜烈日ノ如ク、日耳曼帝國ヲ擁護シ、歐洲ノ霸權ヲ握

テ愈々其光威ヲ發揮ス、嗟乎歐洲ニ於テ自由ノ實ヲ結ブモノハ其レ或ハ日耳曼人ニ在ラン歟、其レ或ハ日耳曼人ニ在ン歟、

第二章

日耳曼ノ人口及面積

日耳曼帝國ノ版圖ハ古今共ニ大ナル差異ナシ、北ハ唎馬及ビ北海、波羅的海ニ臨ミ、南ハ瑞士及ビ埃太利ニ接シ、西ハ荷蘭、白耳義、及ビ佛蘭西ニ接シ、東ハ埃太利及ビ露西亞ニ接シ、北緯四十七度十八分ヨリ、五十五度五十二分ニ至リ、東經五度五十分ヨリ、二十二度五十分ニ至ル、日耳曼聯邦ノ面積及ビ人口ヲ查スルニ左ノ如シ、千八百八十五年十二月一日ノ調ニ據ル、

聯邦

面積(方基)

男

女

計一萬基ノ人口

普	漏	士	三、四八、三四〇	九三、八九三、六〇四	一四、四四四、八六六	二八三、八、四七〇	八一						
巴	威	爾	七五、八四〇、六五二	三、六三九、三三三	二、七八〇、九五七	五、四三〇、一九九	七一						
撒	遜	遜	一四、九九三、九四一	一、五四三、四〇五	一、六三九、五九八	三、一八二、〇〇三	三三						
瓦	敦	堡	一九、五三〇、六九	九六〇、八二〇	一、〇三四、三七五	一、九五五、一八五	一〇三						
巴	丁	堡	一五、〇八一、〇三三	七八二、〇三九	八二九、二六	一、六〇一、三五五	一〇六						
ハ	ツ	セ	七、六八一、八三七	四七三、七四〇	四八二、八七一	九二七、二五三	一三四						
メ	ク	レ	シ	ア	ル	グ	、	シ	ユ	ウ	エ	リ	ン
一	三、	三〇、	七五	二	八四、	二四〇	二	九〇、	九二	五	五、	一五	三
撒	遜	ワ	イ	ア	ル	三、	五	四〇、	六六	一	五、	九	六
二、	九	二九、	五〇	四	八、	一〇	八	五〇、	三	三	三、	九	四
阿	丁	堡	六、	四	三、	五	三	一	六	九、	〇	四	八
比	命	瑞	克	三、	六	九〇、	四	一	八	六、	一	七	五
二、	四	六、	八、	〇	〇	〇	〇	一	〇	五、	〇	六	一
撒	遜	マ	井	ニ	ン	ケ	ン	一	〇	五、	〇	六	一
一、	三	三、	〇	五	七	六、	五	七	三	八	三、	八	八
日	耳	曼	ノ	人	口	及	面	積	九	一	六	二、	四
一	三	三、	〇	五	七	六、	五	七	三	八	三、	八	八

日耳曼ノ人口及面積

10

撒遜ゴプルグゴツク	一、九五六、五〇	九五、五二一	一〇三、二九八	一九八、八三九	一〇三
アンハルト	二、三四七、三五	二二、六七六	二二五、四九〇	二四八、一六六	一〇六
シエラッブルグ、ローデススタット	九四〇、四二	四〇、七三三	四三、一〇三	八三、八三六	八九
シエラッブルグ、タウチシマンタウ	八六二、二一	三五、九〇六	三七、七〇〇	七三、六〇六	八五
ウハルデツク	一、二二一、〇七	二六、九〇一	二九、六七四	五六、五七五	五〇
ロサス新領	三二六、三九	二七、三〇七	二八、五九七	五五、九〇四	一七
ロサス舊領	八三五、六七	五、九四七	五六、六五一	一一〇、五九八	一三四
シアウンブルグ、リッペ	三三九、七一	一八、五六三	一八、六四一	三七、二〇四	一〇九
リッペ	一、二二五、〇〇	六〇、七六六	六三、四三六	一三三、二二	一〇一
リニベツク	二九七、七〇	三三、六九二	三四、九六六	六七、六五八	三三七
ブレームン	二五〇、五	七九、四六九	八六、一五九	一六五、六二八	六四八
漢堡	四〇九、七六	二五、八五三	二六、七六七	五八、六三〇	一、三六六
アルサス、ローレンヌ	一四、五九〇、四一	七七一、二六九	七九三、〇八六	一、五六四、三五五	一〇八

日耳曼全國 五四〇、六〇八、七八三、九三三、六四三、九三三、〇四〇 四六、八五七、七〇四 八七

又普漏士ノ面積及ヒ人口ヲ查スルニ左ノ如シ(千八百八十五年十二月一日ノ調ニ據ル)

州及地名	方基	男	女	一方基ノ人口
東普漏士	三六、六二〇、四三	九七、〇四	一、〇三三、四六一	一、九五九、四七五
西普漏士	二五、五〇八、七四	六八八、〇六六	七三〇、一六三	一、四〇八、二二九
伯林	六三〇、六六	六三二、八七六	六八三、四〇九	一、三二五、二八七
ブラントンブルグ	三九、八四〇、三二	一、二五六、四九九	一、一八五、九二二	二、三四二、四二一
ポムメルン	三〇、一〇〇、〇〇	七三七、四三五	七六八、一四〇	一、五〇五、五七五
ポーゼン	二八、九五七、七	八三四、九五八	八九〇、六八〇	一、七二五、六三八
シユレシオン	四〇、三〇三、五六	一、九五三、三八五	二、一五九、八三四	四、一一三、二二九
撒遜	二五、二五〇、〇三	一、二〇三、一〇九	一、二二六、二六〇	二、四二九、三六七
シエラッブルグ、ホルスタイン	一八、八四一、三五	五七六、四三三	五三三、八五四	一、一一〇、三〇六

日耳曼ノ人口及面積

11

日耳曼ノ人口及面積

一一一

ハンノーフェル	三八、四八〇、六六	一、〇八四、七四一	一、〇八七、九六一	二、一七二、七〇二	五
ヴェスト、プアーレン	二〇、二〇三、八一	一、一三三、〇九〇	一、〇八一、五〇〇	二、二〇四、五八〇	一〇九
ヘッセンナツサラ	一五、六八六、一〇	七三三、五三三	八二八、八六一	一、五九二、四五四	一〇三
ラインランド	二六、九九〇、七六	二、一七四、六〇六	二、一六九、九三二	四、三四四、五三七	一六一
ホーヘンフォルレン	一、一四三、四	三二、八三〇	三四、八九〇	六、七三〇	五
總計	三四八、三五四、元一三、八九三、六〇四	一四、四三四、八六六	二八、三二八、四七〇	八二	

日耳曼ノ地勢タル自ラ四部ニ分ル。荷蘭ノ境ヨリ露國ニ至リ、漸次低下スル平原地方ヲ一部ト爲シ、中央ノ山岳地方ヲ一部ト爲シ、巴威里ノ高原ヲ包括スル高原地方ヲ一部ト爲シ、南方險峻ナルアルペン山地方ヲ一部ト爲ス。是レナリ、而シテ國內ナニ大部ニ區割シ、南北日耳曼ト稱ス。其地質タル、北日耳曼ノ中撒遜ヲ除クノ外、大約瘠土礫确ニシ、南日耳曼ニ於テモ、亞爾伯山脈、蜿蜒起伏シテ地形平坦ナラザル處多シ、但シ國內、水利ニ富ミ、運輸ノ便ヲ占ムルモノ、五十ニ下ラズ、之レニ溝渠ヲ加フレ

ハ三万五千アリト云フ、

第一篇

上世紀

第一章

日耳曼人ノ移殖ニ羅馬人ノ來侵

獨逸 (Deutsche) トハ國人自ラ稱スル所ノ語ニシテ、英人ハ之ヲ日耳曼 (German) ト云ヒ、佛人ハ之ヲ「アレマン」(Allemand) ト云ヒ、露人ハ之ヲ「テメツ」(Германцы) ト云フ、語音ヨリスレハ、日耳曼人ハ本ト印度日耳曼ナル一大種族ヨリ出テ、其本土ヲ尋ヌルニ、高亞細亞ノ地ニ在リシナリ、而シテ獨逸テフ語ハ今ノ日耳曼人ガ、近キ年代ヨリ稱シタル名ニテ、其時マテハ、羅馬人ヨリモ其他ノ國人ヨリモ、一概ニ日耳曼人トノミ、呼ハレタリシナリ、

二千年前ノ古ニ溯レハ日耳曼ハ、悉ク荒寒ノ野荆棘ノ林ヲ以テ覆ハレ獸挺シテ鳥逸セルノミ、而シテ日耳曼テフノ名世ニ著ハレタルハ、紀元

前百三十年ノ頃ニ始マレリ、當時「シンブリー」テフ種族、伊太利ノ東北界ニ侵入セリ、此種族其ノ初メ伊太利ニ入ルヤ、必ズシモ羅馬府ヲ侵畧セシトスルニ非ズ、唯マノリカムヲ攻ムルニアリシト云フ、ノリカムハ羅馬ノ一州ナルガ故ニ、羅馬ノ「コンシユルパプリユス」ガ兵ヲ率ヰテノリカムニ至リ、其妄ニ國境ヲ侵スヲ讓メタリシニ、「シンブリー」人ノレニ答ヘテ「未ダ曾テノリカムノ羅馬ノ管轄タルヲ知ラス」ト云ヒ、且ツカルボノ歡心ヲ求メタリ、カルボ陽ニ之ヲ容レ、翌日全軍ヲ以テ「シンブリー」ヲ不意ニ襲ヒ、大ニ之ヲ破レリ、然レモ「シンブリー」ノ軍毫モ屈セズ、更ニ勇ヲ奮テ力闘苦戰シタリケレバ、カルボノ軍、遂ニ之レガ爲ニ破ラレタリキ、

伊太利全州、カルボノ敗陣ヲ得テ、震動セシガ、「シンブリー」ハ敢テ伊太利ヲ侵サズ、「チウトン」人ト、兵ヲ合シ、轉ニ「ヘルベシヤ」ニ至リシ頃、「アンブリー」テグリニ「其他ノ諸種族、亦兵ヲ以テ之レニ屬シタリシカハ、「シンブリー」

日耳曼人ノ移殖ニ羅馬人ノ來侵

益々勢ヲ得向フ所前ナカリキ、紀元前百九年、羅馬ノ「コンシユル」ヂユニ
ユス、シラナスノ軍トトランサルピン、ゴールニ戰テ、之ヲ破ル後、十二年
「コンシユル」カシユスノ軍ト日尼波湖上ニ戰テ、又之ヲ破リ、カシユスヲ
斬リ、紀元前百五年、「コンシユル」ノ二大軍ヲガルリヤ、ナルボ子シスニ
破レリ、是ヲ最後ノ大捷ト爲ス

羅馬ハ、「シンブリー」ノ勢、猖獗ナルヲ以テ、將軍マリユスヲシテ、大兵ヲ卒
井テ「シンブリー」ヲ「ゴール」ニ拒カシメタリ、此時「シンブリー」既ニ軍ヲ發
シテ南ノ方、羅馬ヲ襲ハント欲シ「チウトン」ヲ「ゴール」ニ留メラ專ラマリ
ユスニ當ラシメタリ、紀元前百二年、マリユスノ軍、「チウトン」トプロベン
スノ「エーゾ」ニ邀ヘ戰ヒ、大ニ之ヲ破リシガ、當時「シンブリー」ハ既ニ亞爾
伯山ヲ越ヘテ、羅馬ニ入り、未タ其敗報ニ接セザリキ、己ニシテ、マリユス
大軍ヲ率井テ之レニ迫リ、其降ヲ要シケレバ、「シンブリー」人傲然トシテ、
マリユスニ應テ曰ク——汝早ク土地ヲ我等及ビ我同盟「チウトン」ニ獻

シテ、和ヲ乞フニ、若カズ——トマリユス之ニ答ヘテ——汝ガ同盟「チウ
ト」ハ既ニ永ク歸ラヌ旅ニ入レリ——ト云ヒ、且ツ其俘虜ヲ出シテ、之
ヲ「シンブリー」ニ示セシカバ、「シンブリー」軍大ニ怒リ、進テ敵軍ヲ衝キ
シガ、羅馬ノ軍、紀律嚴肅堅ク地歩ヲ占メ、容易ニ挫ケズ、「シンブリー」ノ軍、
遂ニ利アラザリキ、

已ニシテ日耳曼人ハ、エルブ河ヨリ萊因河下流ニ掛ケテ、家屋ヲ造リ、土
地ヲ耕ヘシ居リシガ、「スウエブエ」ノ黨ノ侵入スル所ト爲リ、又黨魁アリ
ナグ井ストハ自ラ公ト稱シ、悉ク上萊因河ノ諸部落ヲ併畧シタリ、羅馬
ノ豪傑ウニユス「該撒」兵ヲ率井テ日耳曼ニ入り撃テ之ヲ降シ、萊因河ノ下流
及ビ「モールセル」河ノ諸部落ヲ徇ヒヌ、(此諸部落ハ總稱シテ「ベルゲー」ト名
ケタリ)紀元前五十四年會長アンピオリギス、アルテンチス林ヨリ起リ、
「ベルゲー」ヲ鼓動シテ再タビ羅馬ノ羈絆ヲ脱センコトヲ謀リシカバ、該撒
ハ破ル所ト爲リ、「ベルゲー」遂ニ羅馬ニ屬スルニ至リキ、

日耳曼ノ移殖—羅馬ノ來侵

紀元前三十一年、^{アウグストゥス}奧古斯都武ヲ四境ニ耀カシ、其義子ドルザスヲシテ兵ニ將トシテ、萊因河右ノ地ヲ畧セシム。ドルザス遂ニ進テウエビル河ニ至リシガ、一部落アリ「チエルシー」ト稱シ最モ勇悍ニシテ、林ヲ以テ城ト爲シ、堅固ニシテ其勢俄ニ侵スベカラズドルザス乃チ萊因河ニ沿ヒテ四十餘ノ城砦ヲ築キ、更ニ進ミテ將ニエルブ河ヲ涉ントス、適々神ニアリ、飄然トシテ軍門ニ來リ、謂テ曰ク「汝ノ死期、近キニアリ、宜シク速ニ去ルベシ」トドルザス軍ヲ班ヘシ、マイン河ニ至ラザルニ、馬ヨリ墮チテ死セリ、

ドルザス已ニ死シテ、日耳曼稍々一日ノ安ヲ得タリシガ、其弟テベリユス其後ヲ繼キ、日耳曼ニ入り、遂ニ萊因、エルブノ間ヲ以テ羅馬ノ版圖ト爲シタリキ、テベリユス^{ガッルス}波路ヲシテ、北部ヲ管治セシメシガ、波路才幹アリ、時務ニ練達シ、多ク道路ヲ開キ、城砦ヲ修メ、其萊因地方ニ於テハ、頗ラシ土人ノ驢心ヲ得タリ然レモ其既ニウエセル河ヲ涉リテ「チエルシー」ノ地ヲ畧シ日耳曼人ノ自由的ノ習慣ニ反シ羅馬ノ法律ヲ行ントスルニ至リテ、民怨群起シ、大ニ土人ノ心ヲ失ヒタリキ、

第二章

亞美紐ノ獨立戰

日耳曼ノ羅馬ノ羈絆ヲ蒙ルヤ、國土ノ半ハ、悉ク羅馬守兵ノ占領スル所ト爲リ、國民ハ皆羅馬人ノ爲ニ奴隸視セラレタリ、愛國志士ノ徒、義氣餘リアリト雖モ、兵士ノ強弱器械ノ精粗如何ハ、戰ハズシテ、其勝負如何ヲ測ルニ足レリ、故ニ日耳曼人ハ羅馬ニ向ヒテハ、人ガヲ以テ之レニ勝ツベカラザルモノト思ヒ居リタリキ、

茲爾タル野蠻人ノ間ニ、一英傑ヲ生ス、^{アミニウス}亞美紐其人ナリ、亞美紐ハ元ト貴族ノ子ナリシガ、曾テ久シク羅馬ノ軍隊ニ入り、親シク羅馬人ノ驕傲ニ

流レ、文弱ニ傾キタルヲ見テ、恢復ノ師ヲ發セシトスルノ志アリ、尋テ國ニ
 還リ我國人ガ羅馬官吏ノ侮辱ヲ蒙レルヲ目撃シ、悲憤措クヲ能ハズ、心
 ナ苦メ思キ焦カシ、國人ヲ鼓舞シ義氣ヲ激發セシメ且ツ其計ヲ深密ニ
 シ事ヲ發スルノ日ニ至ルマデ羅馬人ヲシテ之ヲ知ラシメザリキ、當時
 亞美紐ハ、一ノ堅城ナク、一ノ強堡ナク、軍器ト糧食トチ欠キシモ、唯、獨
 立ノ楯ト報國ノ劍トヲ以テ、精銳ナル敵軍ヲ破ントシテ、中夜壯士ヲ深
 林ニ會シ神ヲ呼ビテ曰ク、——羅馬ハ、俱ニ共ニ天ヲ戴カザル仇ナリ、我
 輩苟モ其兵ヲ殲スニ非ザレハ決シテ我劍ヲ鞘ニ歛メズ、——ト因テ潛
 ニ波路ノ間隙ヲ窺ヒケリ、

是時、日耳曼ノ部落叛クモノアリ、波路其報ヲ聞キ將ニ三大隊ヲ率井テ
 之ヲ伐ントス、日耳曼ノ酋長悉ク之レニ從ハンコト約シ、亞美紐モ亦其
 ノ中ニアリ、セゲステスナルモノ、同シク日耳曼ノ酋長ナリシガ亞美紐
 ノ羅馬ニ服從セズシテ叛者ヲ煽動シタル罪ヲ訴ヘシガ波路之ヲ信セ

ズ、亞美紐ヲシテ軍ニ從ハシメタリ、亞美紐名ヲ捷路ヲ取ルニ託シ、軍ヲ
 誘テウエゼル河トヘルホルドトノ間ナリ、山中ノ險路ニ入ラシメ、遂ニ

チリトボルグ林ニ達セリ、

チリトボルグ林

獨僱ブレイト曾テ該地ノ景況ヲ記シテ曰ク、——土地高燥ニシテ四面

皆凌雲ノ峻嶽ニ圍繞セラレ、谿間ノ諸川盛夏ニ至レバ水勢大ニ漲ス
 然レ秋冬ニ至リテハ復其舊ニ復シ奔流急湍殆ント涉ルベカラザル
 カ如シ山頂ニハ多ク楡櫟ヲ生シ且ツ土地ノ高低一ナラズ老木道ヲ
 遮キルノ故ヲ以テ人馬通行スルヲ能ハズ云々——ト

日耳曼ノ兵林中ニ伏シ交々起テ羅馬ノ軍ヲ衝キシカ、適々風雨驟然ト
 シテ至リ、泉流奔溢シ、溪路ハ陝隘ニシテ輕重ヲ運轉スルニ由ナク、兵士
 大ニ之レニ窘メリ、日出ノ頃ニ至リテ、波路輜重ヲ燒キ軍ヲ引テ、トモ
 ルヤノ山林ニ退キシニ、大澤アリ得テ越ユヘカラス、敵兵雖チ接シ、風聲
 鶴唳、其喊聲ヲ助ケ羅馬軍肝腦地ニ塗レ、波路遂ニ劍ニ伏シテ死シ、其縛
 ニ就キタルモノ僅ニ數人ナリト云フ、

波路ノ敗聞羅馬ニ達スルヤ、全國皆震動セザルハナシ、殊ニ奧古斯答斯ハ其齡已ニ老ヘケレハ、痛ク波路ノ凶報ヲ傷ミ鬚髮上リ衝キ恰モ狂人ノ如ク、其衣ヲ裂キ、頭ヲ以テ壁ニ觸レ、叫呼シテ曰ク、波路ヨ、波路、吾ニ我軍隊ヲ返セヨ、ト羅馬ノ人民、魂魄盡ク褫ハレ、苟クモ死刑ヲ以テ之ヲ強ユルコト非サレハ、再々ヒ兵役ニ就キ、曼人ト戰フヲ欲セザルニ至リケリ、

奧古斯答斯及ヒ其後嗣ハ日耳曼征服ノ志ヲ絶ナタリシカ、紀元前十四年トルザスノ子セルマニキユス兵ヲ卒サテ、萊因河ヲ渡リ、進ミテ波路敗滅ノ處ニ至レリ、亞美紐、羅馬ノ軍ト戰フヤ、先ツ僞リ走リテ、隘溪ニ入り、已ニシテ軍ヲ返シ、大ニ之ヲ破レリ、紀元十七年ニ至リ、セルマニキユス戰艦ヲ整ヒ、エムス河ニ溯リ、亞美紐トウエセル河上ニ戰ヒ、ミンテソノ側ニ於テ、大ニ之ヲ破リシカ、亞美紐ノ軍、尙ホ之レニ屈セス、再々ヒ散兵ヲ収メテ、苦戰セリ、羅馬ノ軍、遂ニ利アラズ、皆船ニ乘ンテ逃レシカ

後チ大風アリ、船舶破壊スルモノ十ガ八九

セルマニキユス亞美紐ト戰フ時、亞美紐ノ弟、フラビユース、常ニ羅馬ノ軍ニ從ヘ、所々ニ苦戰シ、一目ヲ傷ケ、其明ヲ失ヒタリ、然レモ屢々奇功ヲ奏シタルヲ以テ、該軍中ニ於テハ、貴顯ナル官職ヲ有シタリキ、亞美紐、單騎河上ニ出テ、フラビユースヲ呼ビテ、共ニ會話セン、トテ請ヒ兄弟河ヲ隔テ、相語リヌ、亞美紐問テ曰ク、汝一日ハ、何處ノ戰ニ於テ之ヲ失セシヤ、而ソ此傷害ニ由ツテ如何ナル賞ニ與リシヤ、トフラビユース其受傷セシ場所並ニ其景況ヲ詳明シ、亦其韋服ヲ舉ケテ、其勳功ニ由テ高官ヲ得タルヲ證セリ、亞美紐冷笑シテ曰ク、是レ奴隸ノ標號ノミ何ゾ、以テ名譽ト爲スニ足ンヤ、トフラビユース大ニ怒リ、日耳曼ヲ罵リ、羅馬ノ威武及ビ其寬大ナルヲ誇稱シケルヲ亞美紐ハ、日耳曼國神及ヒ生母ノ名ヲ稱シ、其父母ノ國ヲ去テ敵國ヲ助ケルノ不義ヲ論シ、且ツ自由ノ國ヲ忌ミ、專制ノ風ヲ慕フノ愚ナルヲ罵リタリ、フラビユース大ニ怒リ、大ニ叫テ曰ク、速ニ我ニ馬ト弓矢トヲ與ヘヨ、我將ニ河ヲ涉リテ、彼ノ不文無知ノ日耳曼人ヲ射殺スベシ、ト羅馬ノ將ステルチニ、ユース走リ出テ、之ヲ止メケリ、

亞美紐ハ屢々羅馬ノ兇威ヲ挫キ國ノ獨立ヲ鞏固ナラシメタリシガ不幸ニシテ内訌起リ戚族ノ爲ニ刺殺セラレ、年三十七ヲ以テ死セリ、實ニ紀元二十一年ナリ、是レヨリ日耳曼諸部落分裂シテ永ク統一セザリキ、

第三章

日耳曼國內ニ於ケル新邦國

紀元二十一年亞美紐ノ死セシヨリ、三百七十六年ニ至ルマデ、日耳曼國內ノ形勢大ニ變革スル所アルヲ見ズ、但々羅馬帝オーレリユス、アントニウス屢々日耳曼ノ軍ヲ破リ、殊ニ其一部落「カデー」ヲ破リテ大ニ武名ヲ博シタリキ(其「カデー」ヲ破ルヤ、風雨ニ乘シテ其ノ功ヲ奏セシニ由リ)後チ此事實ニ本キテ雷神隊(Thundering Legion)テフ奇談ヲ作ルモノアリ(其後チ日耳曼ノ部落ニテ告爾ヲ侵スモノアリシガ、羅馬帝プロブス

告爾ヲ援ケテ日耳曼人ヲ逐ヒ、萊因河ヲ涉リエルブ河ニ至リシニ向フ所其鋒ニ當ルモノナカリキ、帝ハ專ラ後日ノ邊患ヲ防ガン爲ニアドリヤンノ築キタル長城ヲ修メ、(此城ハ多惱河ヨリメーン河ニ達シ殆ソト二百里ニ亘リス)又萊因河ノ左多惱河ノ右ニ沿ヒテ城砦ヲ築キ且ツ多ク橋梁ヲ架シテ日耳曼人ノ侵掠ヲ禦キケリ、帝又萊因河邊ニ於テ始メテ葡萄ヲ植エ兵士ヲシテ之ヲ培養セシメシガ、兵士其勞ニ堪ヘズ、怒テ帝ヲ弑セリ、
是時ニ當テ日耳曼ハ荒漠無邊ノ野ニシテ、群族割據、甲部落ノ族、乙部落ニ轉シ乙部落ノ族、甲部落ニ轉スルモノアリ、朝ニ羅馬ノ州郡ヲ侵シテタニ其本土ニ還ルモノアリ、然レモ未タ遠圖雄畧地ヲ他國ニ零シテ國基ヲ建立スルモノナカリキ、而シテ其之レアルハ、三百年代ノ終ニ始マレリ、羅馬漸ク衰ヘ、日耳曼各部落ノ種族各々崛起シ、進取ヲ謀リ、歐洲ハ全土ニ縱横シ、瓜分シテ王國ヲ建立シ、タリ、是レソ、歐洲各國ハ基礎ニシ

テ方今基布星羅ノ勢實ニ此ニ本ツクナリ、

(第一)撒遜人ハ初メエルブ河口ノホレスターンヨリ起リ後チ境ヲ擴メテ日耳曼ノ北部ヲ畧セリ、貌利頓王グオルチゼルン之ヲ其國ニ招キテ「スヨツ」及「ビクツ」ノ侵掠ヲ拒ガシム、是ニ於テ四百四十九年撒遜ノ一郡ヘンヂスト及「ビホルサ」ヲ將トシテ、貌利頓ニ入り、盡ク「ビクツ」ヲ逐ヒテ自ラ其地ヲ畧シタリキ、又遜撒ノ一部ニ「諸厄羅」ヲ種族アリ、英倫ノ名之レニ基ツクト云ス、

(第二)佛朗克人ハ撒遜ノ西南ウエゼル河ト萊因河トノ間ニ在リ、性獷悍ニシテ武ヲ好ミ威ヲ四境ニ振ヒ、後チ告爾ヲ畧シ、一大國ヲ建立シ名ケテ佛蘭西ト云フ即チ之ヲ佛朗克ノ名ニ取レルナリ、

(第三)アルレマン人ハ日耳曼ノ中央ニ在リテ萊因メイン及「多惱河」其部落ヲ周繞セリ、二百年代ノ始メ「スウエウ」ヲ種族アリ、各種族ヲ慕リ、心ヲ協セ力ヲ戮セテ外侮ヲ禦キ且ツ劫掠侵畧ヲ逞クセン「フナ」約

シ、遂ニ聯合部落セリ「アルレマン」トハ總人員ノ義ニシテ現今佛人ハ猶日耳曼ヲ稱スルニ「アルレマン」ノ名ヲ以テセリ、

(第四)告士人及「ワンダルス」人此二種族ハ、日耳曼ノ東部ニ在リ、紀元二百五十年羅馬帝マシヌスノ時、告士多惱河ヲ渡リテ羅馬ノ境ヲ侵セリ、初メ告士ハ「斯卡メデナ」ヲ起リシモノニシテ、諸テウトン種族ハ皆告士ヨリ出デタリシナリ、告士分レテ二部ト爲リ一チ東告士ト云ヒ、一チ西告士ト云フ、「オスト」(東)「ウヰ」(西)ノ語ハ、其故國、斯卡メデナノ出デ波羅^{ハル}シ時、其地位ニ由テ、名ケタルモノナリ、告士斯子的那維亞ヲ出デ波羅^{ハル}的海ヲ踰エテ、ウヰ「ス」ヲ河口ヲ領セシハ遠ク紀元ノ初メニアリシガ、又「ゼビ」ト名ケタル種族アリ、告士ト相合シテ日耳曼ニ入りケリ又「ワンダルス」ハ波羅的海ノ沿岸ヲ略シ「ボルゴ」ン「ヂアン」ハ「オー」デル」河ニ起リ、「ロ」ン「バル」デー「ヘル」リハ「噠」馬ニ起リタリキ、君士但丁帝甚ダ兵士ヲ愛シ、君士但丁堡ノ近衛兵ヲ「ラン」ヂアン隊凡ソ四万人許皆告士人ニ

シテ、其酋長之ガ將ト爲リ、士卒ノ訟争ヲ聽斷シタリキ、
 告士人ハ東ノ方境域ヲ擴メテユーキヤン海ニ逼リ、二百七十二年、羅馬
 帝オレリアンヨリダシヤ全洲ヲ領スルコトヲ許サレ、三百七十六年、其酋
 長ヘルマンリツクノ時ニハ其版圖波羅的海ヨリ多惱河ニ達シ、頗ル強
 大ノ勢アリキ、此歲匈奴ノ族其境ヲ侵セシガ、告士其驍悍ニシテ能ク馬ニ
 乘リ能ク戈ヲ投スルヲ見テ、大ニ驚愕シ連戰ノ餘敗衄シ、殆ト全軍ヲ殲
 セリ(ヘルマンリツク其國ノ滅ブルヲ見テ自殺ス)其後此役ニ逃レタ
 リシモノ書チ羅馬僧正オルヒラスニ贈リテ、羅馬帝リレンスニ説カシ
 メ多惱河右ノ地ヲ得テ匈奴ノ侵掠ヲ避ケンコトヲ請ヒタリシニ羅馬帝
 之ヲ許シ更ニ官吏ヲ置キ、告士ヲ監視シ之レヲシテ其約ヲ踐マシメタ
 リ、然ルニ官吏貪婪ニシテ盡ク告士ノ所有ヲ掠奪シ亦其妻孥ヲ窘辱シ
 タリケレバ、告士人憤怒ニ堪ヘズ、是ニ於テ東西南ノ告士兵ヲ併セテア
 ドリアノ上ブルヲ攻メタリ此戰ニ敗レタリシモ、紀元三百七十八年又

兵ヲ舉ケテ其舊敵匈奴ノ兵ト合シ、進ミテアドリアノ上ブルノ平原ニ
 戰ヒシガ、兵士殆ント百万、其勢迅雷疾風ノ如ク、羅馬ノ軍一敗地ニ塗レ、
 ワレンスハ重傷ヲ負ヒ、送テテ茅房ノ中ニ至リ、焚死シタリキ、

第四章

亞拉力、羅馬ヲ攻ム

陷井ル

紀元三百九十五年、羅馬帝セオドシユス崩シ、二子ホノリユス、アルカヂ
 ヌス帝國ヲ兩分シ、ホノリユスハ、伊太利ニ居テ西帝國ヲ管治シ、アルカ
 チユス君士但丁堡ニ在テ東帝國ヲ管治シタリキ、是時告士ノ中ニ於テ、
 亞告士ノ王ト爲レルモノハ、亞拉力ト云ヘル兵士ナリシガ、幼ヨリ勇武
 突然希臘ヲ侵シテ多ク其主府ヲ掠メケレバ、東帝アルカヂユス、
 ヴンダルス

亞拉力、羅馬ヲ攻ム
 ヴンダルス入羅馬ヲ陷井ル

ルス人スナリコナシテ之ヲ伐チ其侵地ヲ返サシメタリ是ニ於テ亞拉力ハ兵ヲ轉シテ西帝國ヲ侵セシコ又スナリコノ破ル所ト爲レリ時ニ人アリスナリコナシテ陰ニ亞拉力ニ通セルヲ以テセシカバ遂ニ殺サル亞拉力之ヲ聞キ機會遂ニ失フベカラズト兵ヲ進メテ羅馬ニ薄リ之レガ降ヲ要シケレハ羅馬和ヲ求メケリ亞拉力乃チ黄金五十磅自銀三万磅珍寶之レニ適ヒ以テ之ヲ納ルレハ其ノ和ヲ聽カン然ラザレハ戰ヲ要スルノミト云ヒシニ羅馬人罵リテ曰ク是レ我ヲシテ乞巧クテシムルコ非ズヤ今我レ之ヲ與フレハ我ニ於テ何ノ餘ス所ツ

ト亞拉力怒リテ汝猶生命アリト云ヒケルニ羅馬人切齒シテ曰ク我兵猶多シト亞拉力曰ク來レ草彌々繁ケレハ之ヲ變ルコ愈々易シト應答罵詈時ヲ移シタリシガ已ニシテ羅馬人遂ニ其要求ニ從ヒケリ亞拉力亦其言ヲ食マズ秋毫モ犯ス所ナク轉シテホノリエス帝ヲラウエンナニ圍ミ其拔クベカラザルヲ知リ兵

ヲ返シテ再タヒ羅馬ニ薄リ遂ニ之ヲ陷ル實ニ紀元四百九年八月廿三日ノ夜ナリキ羅馬ノ市民皆告士人ノ劫掠ヲ恐レタリシガ豈圖ンヤ亞拉力優ニ降人ヲ待シケレハ市民皆蘇生ノ思ヲ爲シタリキ

亞拉力羅馬ヲ陷ル後チ伊太利ノ南部ヲ徇ヘ更ニ船ニ乘ン亞非利加ニ至ントセシニメニヤニ於テ船壞シテ果ザズ後チ頓ニ死シ其義弟アドルフス嗣キテ亞告士ノ王ト爲リヌアドルフス伊太利ヲ去リテ告爾ノ南部西班牙ノ北部ヲ徇ヘ一王國ヲ建立シトローロニスニ都シホノリエス帝ノ妹ヲ娶リテ后ト爲セリ

是時ニ當テ「グンダルス」ハ羅馬軍ノ西班牙ヲ去リ歸リテ伊太利ヲ守レルヲ見テ大ニ諸部落ト力ヲ戮セテ「イプロ」河畔及ビ西班牙半島ノ西南部ヲ畧シ部落ヲ建テタリ四百二十九年亞非利加ノ主事欲チ西班牙ノ「グンダルス」ニ通シ「グンダルス」王センセリクヲ招キテ亞非利加ニ入ラシメタリ「グンダルス」人直チニ亞非利加ヲ定メ加達頓ニ都シ多ク戰艦

ヲ製シテ類ニ伊太利及ヒ西班牙ノ海岸ヲ侵シ、地中海ニ横行セリ、四百五十五年、ゼンセリック海ヲ渡リテ伊太利ヲ侵シ、羅馬ヲ陷ルレ、之ヲ取リシモ、敢テ其市坊ヲ毀ラズ、唯々盡ク其金銀財貨ヲ取メテ之ヲ其國ニ送り、加達額ヲ増修シタリキ、ゼンセリックハ四百七十八年ヲ以テ、天年ヲ終リヌ、

第五章

亞地拉ノ來侵

紀元四百五十一年ニ當テ、匈奴ノ酋長亞地拉、歐洲ニ侵入セリ、當時亞地拉ノ版圖タル、之ヲ今日ニ徵スルニ由ナシト雖、大抵多惱河、黑海以北、及ヒ高加索山以東ニ於ケル、達遠ノ地方ニシテ、其中許多ノ人種ヲ管轄シ、多惱河以南ハ「ソ」河ヨリノ「ビ」(方今歐洲土耳其機ノ中ニアリ)ニ至ル

マテ、亦其屬地ト爲セリ、是レ實ニ紀元四百四十五年ニ於テ亞地拉ガ首府ヲ多惱河畔ノ「ブグ」ニ創建シテ、獨立ノ政ヲ爲シタル一大帝國ナリキ、是ヨリ先キ匈奴屢々羅馬ヲ侵シ、進ミテ諸城ヲ陷レタル「ア」リシガ、其勢熾盛ニシテ文弱ナル羅馬人ハ固ヨリ云フニ及ハズ、勇武ノ氣象ト自由ノ精神トニ富メル日耳曼人ト雖、皆其勢ノ強大ニシテ、猛悍ナルニ寒心セザルモノナク、終ニ惡鬼ヲ以テ之ヲ目スルニ至リケリ、

歐洲史家ノ傳フル所ニ據レハ、亞地拉性深沈、大度ニシテ、特ニ兵力是レ頼ムノ徒ニ非ズ、善ク人民ヲ恤服シ、自ら處スル「ア」嚴端ニシテ、裁決流ル、カ如ク、冤猛其宜ヲ得タリ、苟モ事ヲ議セバ、沈思默想、維レ日モ足ラザルカ如ク、之ヲ實行スルニ當ラハ、雄斷決行シテ、疑ハザルガ故、ニ人民其心ヲ安シセリ、然レモ人民ニシテ反覆スルモノアレバ、之ヲ族滅スルモ猶ホ足レリトセザリキ、又其版圖ヲ擴ム、モハ、其國情風俗習慣等ヲ揣リ、機ニ投シテ人望ヲ博スルノ具ト爲ス、是ヲ以テ、臣民皆亞地拉ヲ仰テ、天縱ノ英傑ト爲シ、外敵モ亦亞地拉ヲ目スルニ天日降レル鬼神ト爲スニ至レリ云云

紀元四百四十五年、東帝セオドリック、亞地拉ヲ暗殺セシメ、謀リシカ、事覺ハレテ果サズ、是ニ於テ匈奴ノ大軍、一時西帝國ノ侵攻ヲ緩クシ、專ラ東帝國ニ當ントセリ、此時黑海以北ノ匈奴部屬中、反スルモノアリケレバ、亞地拉之ヲ戡定シ、四百五十年、始メテ歐洲西部ニ侵入スルニ至リヌ、初メ亞地拉ノ西帝國ヲ攻メントスルヤ、東帝ヲシテ西帝ト離間セシムルノ策ヲ運ラシタリシモ、竟ニ果サハルヲ以テ、斷然意ヲ決シ、先ツ東帝國ヲ破リテ西帝國ニ入ラントセリ、適々西帝ハレンテヤンノ妹、ホノリヤ公主、竊カニ婚ヲ亞地拉ニ求メ、羅馬ノ帝權ヲ併セテ之ヲ許サント欲ス、帝此密約ヲ發見シ、直チニ公主ヲ禁錮シタリ、是ニ於テ亞地拉、始メテ兵ヲ西帝國ニ出スノ名義ヲ得タリケレハ、愈々其士氣ヲ鼓舞シ、公主ヲ縲繼ノ中ヨリ救フヲ願言セリ、

亞地拉ノ軍、七十萬勢威大ニ振ヒ、萊因河ヲ乱シ、直チニホルゴンヂー王ノ軍ヲ破リ、是ヨリ兵ヲ三軍ニ分チ、一軍ハ北西ドングリス及ヒアルラ

スニ進ミ、一軍ハ佛國ノ諸府ニ向ヒ、自ラ一軍ニ將トシテモセルニ侵入シ、ヘサンコン及ヒボルゴンヂーノ諸府ヲ陷キレケリ、是レヨリ先キ羅馬ノ將エーナアス銳意シテ軍隊ノ編制ニ從事シ、西告士王セオトリック王モ亦大ニ籌畫スル所アリ、各州ノ酋長皆之ニ應援セリ、四百五十二年、東西兩軍、マル子河上カローンスノ曠原ニ會シ、歐洲ノ安危興亡ヲ一舉ニ決セントセリ、奮戰苦闘更々勝敗アリ、セオトリック自ラ督戰セル際、不幸ニモ、投鎗ニ中リテ馬ヨリ墮チ、遂ニ死セリト雖、凡、匈奴ノ軍利アラザルヲ以テ退キタリ、

翌年匈奴復々亞爾伯山ヲ超エテエウクレヤ府ヲ取リケレハ、府民フレシテ、河口ニ逃レ、府ヲ建テテ威尼斯ト名ケタリ、亞地拉是レヨリ直ニ羅馬ヲ攻メントセシモ、軍中病者多カリシヲ以テ、果サハルキ、後チ幾ナラスシテ亞地拉殂シ、叛民四方ニ起リ、國內分裂シ、數百年來雄武ヲ西歐洲ニ轟カシタル匈奴ノ威名モ、此英主ト共ニ没シ、浪焉トシテ聞ユルコトナ

カリキ、

史家クレシ、此役ヲ評シテ曰ク、羅馬帝國ノ勝ヲ制シタルモノ屈指スルコト違フラスト雖、能ク天下ノ大勢ヲ左右シテ人世ノ福祉ヲ登固ナラシメタルモノ、未タ此役ニ若クモノアラス人或ハ云ントス、此役ニ由テ敢テ必スシモ帝國ノ衰運ヲ挽回シタルモノニ非ス、當時羅馬帝國ハ業ニ已ニ希臘ノ文明ヲ繼承シテ、又已ニ之ヲ後世ニ讓與シ、政治上ノ一大範圍ヲ解キテ、地中海沿海ノ諸種族ヲシテ各自獨立ノ境域ヲ限ラシメ、制度文物ヲ以テ之ニ遺シタル後ナレハ、決シテ此戰捷ニ由テ天下ノ大勢ヲ左右スルカ如キ餘力ナシト、然レモ試ニ眼ヲ轉シテ他ノ一方ニ觀察ヲ下スルハ、此役ノ大ニ天下ノ大勢ヲ左右シタルノ關係アルヲ知ルヘシ、何トナレハ羅馬帝國ノ其文明ヲ世襲スルニ於テハ、已ニ其責ヲ盡シタルカ如シト雖、其文明ヲ以テ之ヲ日耳曼人種ニ與ヘテ、歐洲諸國今日ノ基業ヲ興サン平將テ之ヲ中央亞細亞ノ蠻族ニ掠奪セラ

レテ、竟ニ之ヲ湮滅セシメン乎、一太關節ニ至テハ、未ダ嘗テ此役ノ勝敗ニ決セスナラズ、故ニ此役ニ於テセオドリックガ彼ノエーチアスト連衡ノ匈奴ヲカ、イロノ平原ニ破リタルハ、獨リ羅馬ノ末路ヲ當時ニ全滅セシメザリシノミナラズ、亦實ニ日耳曼人種ヲノ其光威ヲ保タシメタリ、然ラハ則チ此役ヤ、歐洲今日ノ文明ヲ煥發セル一大功戰ナリト云ハザルヘカラズ、ト

第六章

セオドリックノ治蹟、クロウ井スノ武畧

是時ニ當テ、西帝國大ニ衰ヘ、其危急且タニ逼リ、告土ヴンダル人皆羅馬ニ入り、縱ニ其廢立ヲ行ヒ、二十一年間九タビ君主ヲ更代スルニ至レリ、一ヘルリ人オドセル、羅馬帝ロムルス、オーガスタスニ事ヘ、日耳曼ノ備

兵ニ將ヲリシガ、遂ニ帝ヲ廢シ、其位ヲ篡ヒ、十二年間之ヲ保チタリ、四百八十八年、「オストロゴス」ノ酋長、セオドリック來リ侵シ、オドールセルヲ破リ、四百九十三年、遂ニ「オストロゴス」ノ帝國ヲ創建シ、南ハ伊太利、西齊里ヲ包括シ、北ハ萊因多惱河ニ限リ、東ハ馬基頓^{マシヤ}ニ接ス、セオドリック已ニ位ニ即キ、オードセルヲ斬ラシメ、タルラシチ城ニ居テ、專ラ日耳曼諸部落ヲ聯結スルコトヲ以テ志ト爲シ、兵ヲ休スルヲ三十年農ヲ勸メ、商ヲ通シ、ボントーン沼ヲ決シ、多ク耕地ヲ作り、又セオドリックハ大王ト稱セラレ、「チウトン」ノ稗史ニ「デイトリック、ウオンベルント稱スルモノ是レナリ、蓋シウエロナノセオドリックテフ義ナリ、

セオドリックノ伊太利ヲ治ムルニ當リ、テ、佛朗克^{フランク}人俄ニ勢力ヲ得テ、日耳曼ノ西部ニ雄視スルニ至レリ、抑モ佛朗克ハ諸部落ノ聯合セルモノニシテ、各部ニ酋長アリ、未ダ統一ノ君主ヲ置カザリシガ、四百二十年ニ至リテ、其二種族、「サリー」^{リニア}「リニア」^{リニア}弱小ノ諸部落ヲ併セ、佛朗克ヲ兩分シ

テ各々其一ヲ占有セリ、「サリー」ノ王族ヲメロウ井ンチヤント稱ス、即チ「フアラモンド」ノ裔メロウ井ツクニ取レルナリ、四百年代ノ末、「サリー」ノ王チナル德里ツクト曰ヒ、メロウ井ンチヤンノ族ナリ、千六百五十四年其陵ヲトリルチニ得タリシニ、陵中多ク珍寶ヲ藏メ、就中金蜂アリ、拿破崙之ヲ収メテ家號ト爲セリ、ナル德里ツクノ子クログウ井ス幼ヨリ大志アリ、豪邁ニシテ細節ニ拘泥セス、常ニ日耳曼諸邦ヲ併吞センヲ謀レリ、四百八十六年クログウ井ス兵ヲ發シテ悉ク羅馬人ヲ逐ヒ、然ル後チ「スリンヂヤン」部落ニ要シテ其歲貢ヲ納レシメ、遂ニ「アレマン」族トトル「バヤク」ニ戰ヒヌ、トル「バヤク」ハ當時「コログ」テヨリ「トレヴ」ニ至レル羅馬官道ノ驛站ナリキ、此時「アレマン」ノ兵善ク戰ヒ善ク拒キ、クログウ井ス苦戰スルモ、僧之ヲ破ルヲ能ハザリシガ、結局之ニ克ツヲ得タリ、此時クログウ井スハ祖先ノ宗教ヲ捨テ、新ニ耶蘇教ヲ奉セシガ、^{ウヰジエツ}西告士^{ウヰジエツ}アリユス派ノ説ヲ信シ、頗ル羅馬僧正ノ忌諱ニ觸レシカバ、クログウ井ス之ヲ機

會トシボイテールノ近傍、グキールニ於テ鏖戰シ、躬ラ其王アラリックヲ斬リ、其國ヲ徇ヘ、轉シテボルゴンヂーヲ擊テ、全ク之ヲ破ル。得ザリシト雖、厄猶ホ之レヲシテ歲貢ヲ納レシメタリキ。クログス、コログチノサイヂボルト同盟タリシニ、又欺キテ之ヲ殺セリ。是ニ於テクログス、遂ニ全佛朗克ノ王ト爲リ、其版圖日耳曼ノ數郡ヲ兼テ、告爾ノ全國ヲ併セ、告爾ノ名ヲ更メテ佛朗西ト稱セリ。

クログス、四子アリ、其國ヲ四分シテ、各々其一ヲ有セリ、長チセールリト稱シ、最モ大國ヲ受ケ、其他萊因地方ヲ包括シ、之ヲガーストラシヤト名ク、即チ東部ノ義ナリ、メツツニ都ス、其餘ハ之ヲ三子ニ分チ、次子ハ阿里安ニ、三子ハ巴里ニ、四子ハソイリンスニ都ス、巴里ニ都セシモノチバ、常ニ佛朗西王ト云フ、後チ三子ノ州ヲ通稱シテニユストリヤト名ケタリキ。

初メオストロゴスノ王セオドリックハ日耳曼諸邦ノ閥閥管ナラザルヲ愛ヒ、結婚ヲ以テ之ヲ聯合セント欲シ、屢々自ラ此例ヲ行ヒ、遂ニクログ

スノ妹ヲ娶レリ、クログスモ亦其意ヲ奉シ、其一女ヲ西告士ノ王ニ嫁シ、女チボルゴンヂー王ニ歸シ、妹ヲ以テ「グンダルス」ノ王ニ與ヘ、姪ヲ以テ「スリンヂヤンス」ノ末王ヘルマンフリードニ與ヘヌ、然ルニセオドリック殞シテ英主其人ナク、日耳曼諸邦聯合ノ策、セオドリックノ死ト共ニ廢絶シタリキ。

第七章

告士人ノ敗衄——朗罷地ノ建國

告士王セオドタスノ時羅馬帝ヂヤスチニア^{ウツ}其將ベリザリユスチシテ兵ヲ率テ伊太利ニ入ラシメタリシガセオドタス性怯懦ニシテ、ベリザリユスノ入ルト聞キ、罪ヲ謝シ位ヲ避ケン。チ求メリ、然レ、厄告士人之ヲ聽カズ、日耳曼ノ古例ニ仍リ楯ヲ取テウキチテ其上ニ載セ

立テ、王ト爲シ、セオドラスヲ斬レリ、ベリザリユス間ニ乗シテ、羅馬ニ入リシカバ、ウヰチヂ大兵ヲ盡シテ之ヲ圍ミ、兩軍奮戦、互ニ勝敗アリ、已ニシテ、告士戰ニ倦ミ、且ツベリザリユスノ武畧絶倫、遂ニ勝ツベカラザルヲ知リ、欸ヲ通シテ告士ノ王タランコヲ請ヒシガベリザリユス素ヨリ廉潔ノ人ナリケレバ、固辞シテ聽カズ、唯ダ告士人ニウヰチヂスヲ廢シラヴエンナヲ以テ、降ルベシト云ヘリ、告士人之ニ從ヒ、トイテラヲ立テ、王ト爲セリ、トイテラ勇武ニシテ屢々功アリ、直チニ南伊太利ノ南部ニ至リ、那^{ナブル}不兒ヲ屠レリ、是レヨリ先キベリザリユス聲名赫々タルヲ以テチヤスチニア^ンノ疑フ所ト爲リ、希臘ニ還リケルガ、此ニ至テ、再ダビ希臘ヲ發シ、精兵ヲ率ヰテ、伊太利ニ入り、已ニ羅馬ヲ取リシガ^レ復タ^シ譏ニ由テ伊太利ヲ去リヌ、是ニ於テ、トイテラ遂ニ羅馬ヲ屠リ、希臘羅馬ノ兩軍ヲラヴエンナノ側ニ破リ、ア^ンコナヲ除クノ外、盡ク伊太利ノ地ヲ畧シタリ、チヤスチニア^ン之ヲ聞キ、其將サ^ルセ^スチシテ伊太利ヲ伐タ

シム、此時朗龍^{朗龍}地ノ部落、初メテ伊太利ニ入り、其兵六千人ヲ以テナルセ^スニ屬セリ、ナルセス大ニ勢ヲ得テ、告士人トレ^ミニ^ノ側ニ奮戦スルヲ兩日トイテラ重傷ヲ蒙リ、走ルヲ十英里、馬ヨリ墮チテ死セリ、告士人衆民ヨリ擇テテイヤスヲ立ツ、是ヲ告士最後ノ王ト爲ス、告士人再ダビ兵ヲ集メテナルセスノ軍ト戦ヒ、衆皆奮激、死力ヲ出シテ苦闘セシカ^レ、テイヤス之レニ死シ、全軍盡ク潰散セリ

伊太利ノ地、遂ニ希臘ノ版國ニ復シヌ、チヤスチニア^ン乃チナルセスヲ以テ其知事ト爲シ、ラヴエンナニ居ラシム、ナルセス威望アリ、頗ル力ヲ國家ニ盡セシガ、チヤスチニア^ン亦タ之ヲ禮セズ、遂ニ希臘ニ返ラシメ、且ツ其妃ソヒヤノ意ニ由リ、詔中侮慢ノ語ヲ書クニ、汝劍ヲ帶ンヨリハ、寧ロ紡機ヲ執レニト云ヘリ、蓋シナルセスノ身体軟弱ナルヲ嘲リシナリ、ナルセス之ニ答テ曰ク、謹テ命ヲ奉ス、臣若シ紡機ヲ執ラバ、其出ス所ノ絲、陛下之ヲ繰ルモ、終ニ其端末ヲ見ルヲ能ハクニト遂ニ使チ

朗罷地ノ王アルボインニ遣ハシ之ヲ招キテ伊太利ニ入ラシム、五百七十二年アルボイン大軍ヲ率テ直ニ亞爾伯山ヲ越エ山下ノ平原ヲ徇ヘ之ヲ朗罷地ト稱シ、ボイ河ノ上、險隘ノ地ニ據リ、バグヂヤニ都セリ、アルボイン殘忍無道其妃ノ父セビデ「ノ王クニマンドヲ殺シケレハ、妃大ニ憤怒シ死士ヲシテ之ヲ刺殺セシメタリキ、其後、十年朗罷地人オーサリスヲ立テ、王ト爲ス、王死シ其寡婦セオリンダ立ツ、セオリンダノ時國內大ニ治マリ、文物典章燦然タリ、此時期罷地ノ版圖北ハタイロル、サヴオイヲ包ミ、南ハベチヴエントニ至リ、殆ント伊太利ノ全土ヲ併セタリキ、

朗罷地ノ鉄冠ハ、蓋シ法皇アレゴリ大王ノ朗罷地女王セオリンダニ與フル所ナリ、而シテ其鉄ヲ以テ名ケタル所以ノモノハ、薄鉄ヲ以テ其冠裏ヲ裝ヒタルハナリ、世ニ傳フ、此鉄ハ元ト耶蘇ノ礎架ノ釘ニシテ羅馬ノ女帝ヘレナノ神國ヨリ取レル所ナリト、由テ往々此冠ヲ稱シテ「イルサクハンオド」ト云ヘリ、冠ノ形ハ、頸環ノ如ク、其幅三寸弱、接

處ハ、金ヲ以テ之ヲ結ビ、諸處ニ碧玉紅玉イメラード（珠名其他寶玉ヲ着ク、玉皆彫琢ヲ加ヘズ、玉間ニ金ノ花英ヲ布置シ、此冠ヲ被リシモノ）三十四王アリ、曼帝查列斯第五世、拿破崙第一世ノ如モ、亦之ヲ被レリ、

第九章

「メロウヂンヂヤン」朝ノ衰頹 亞伯得拉曼ノ來侵

シロウヂスノ第四子クロテールハ、其兄ノ夭死シタルヲ以テ、獨リ全國ノ王ト爲レリ、ケロテール殂スルニ及ビテ其四子佛國ヲ四分シテ各々其一ヲ領セシガ、爾來骨肉相噬、傾軋鬭爭止ム時ナク、此ノ如キモノ、五十年、遂ニメロウヂンヂヤン家ヲシテ紅血淋漓タル中ニ漂ハシメタリキ、

斯クテ王家相傾軋セル際、宮内長ノ威權ハ、次第ニ熾シ、羅馬末世ノ近

衛大將ト同シク、天子ヲ廢立シケレハ、堂々タルメロウヰンヂヤンノ子孫ハ唯ダ深宮ニ安坐シテ虛位ヲ弄スルニ過キザルノミ、六百二十三年シロテール二世其子ダゴベルヲ以テ埃太利ノ王ト爲シ、リीडノ傍ナルランデンノペピンヲ以テ宮内長ト爲ス、後チメロウヰンヂヤン朝ニ代レルカルロウヰンヂヤン朝ハ即チペピンノ後ニシテ五世ノ子孫查列曼ニ至リテ遂ニ西帝ノ尊號ヲ冒スニ至レリ、

六百二十八年シロテール歿シ、ダゴベルト佛蘭西ノ王ト爲リ、巴里ニ都シ、常ニ奢侈ニ耽リ、セントデニス寺ヲ創建シテ僧侶ヲ聘シ大ニ其國帑ヲ流費セリ、此時セイントルイト稱スルモノアリ、能ク金ヲ陶冶スルヲ以テ著ハルダゴベルト好ミテ宮殿ヲ粧飾シ、人民之レカ爲ニ、大ニ困弊セリ、六百三十八年、ダゴベルト死シ、内訌頻ニ起リ、メロウヰンヂヤン朝ノ名、永ク地ニ委セリ、ダゴベルトノ後、百餘年間王タルモノ十世、皆不肖尸位ニシテ聞ユルヲナカリキ、六百八十七年ニ至リテランデンノペピンノ曾孫ヘリスタルノペピン、其王セールレ三世ニ叛シ、攻メテ之ヲ破リ、ストライニ於テ之ヲ破リ、佛蘭西元帥兼宰相ノ官ヲ冒セリ、其子チヤレス、マール之ヲ襲キヌ、

此時ニ當テ、ムール即チ亞刺比亞人(其一ムールマニヤ即チ摩洛哥ヲ經テ入りシガ故ニ此名アリ)勢熾シ、既ニ西班牙ノ西告士^{ウジゴツ}ヲ滅シ、其猛將亞伯得拉曼^{アブドレマン}勝ニ乘シテ、ピレニス山ヲ越エテ、エクトーンコ入り、將ニ歐洲諸國ヲ侵畧セント欲ス、(亞刺比亞人ノ著書ニ據レハ、亞伯得拉曼ハ性英武、雄畧アリ、獨リ軍事ニ長スルノミナラズ、亦眞摯篤實ノ摸範ト爲スベキ人ナリシト)其勢猛烈精悍ナルコト、匈奴モ亦當ナラザルナリ、是ニ於テ埃太利、スリンヂヤ、スウヰヤ、ニーセルランド及ビ萊因河邊ノ諸國皆兵ヲ發シテマールノ旗下ニ集マリ、之ヲ推シテ總督ト爲セシガ、ルードランドモ亦耶蘇教國ヲ救ント欲シ、朗罷地ノ兵ヲ率ヒテ之レニ會セリ、

都爾波低爾ノ地ハ、弦月ト十字トノ成敗ヲ決シタル戰場ナリキ、七百三十二年、兩軍都爾波低爾ノ間ニ相會シ、奮戰苦闘、各々其精銳ヲ盡セシガ、亞伯得拉曼百戰百勝ニ狂レ、輕急ニ失シ、其結局マールノ敗ル所ト爲リ、全軍潰散シ、亞伯得拉曼人ノ刺ス所ト爲リテ死セリ、實ニ百十五年ナリキ、史家曰ク—亞刺比亞人、其猛將ノ死ヲ聞キ、一夜ニシテ皆逃散セリ、基督教徒等、敵兵明旦必ズ帳幕ヨリ出テ、猛擊ヲ試ムルナラント思ヒ居リシニ、豈圖ンヤ、天明レハ、一人ノ敵ヲ見ズ—ト又僧侶ノ著作家曰ク—此役ニ於テ南軍死スルモノ三十七万五千人、北軍死スルモノ千七人ナリ—ト、

マールノ奇捷ハ、實ニ歐洲ノ運命ヲ一舉ニ決シ、亞刺比亞人ヲシテ復邊境覬覦ノ念ヲ絶タシメタリ、然ルニ歐洲ノ史家、往々之レニ異議ヲ挾ムモノアルハ、何ツヤ、獨リアールノルド氏ノ言取ルニ足ルモノアリ曰ク—一舉ニシテ數世ノ禍福ニ係ル、古今ノ偉蹟ヲ尋ヌルニチアレズ、マ

ールノ勝利ノ如キ、即チ其一ニシテ、亞美紐ハ勝利モ亦之レニ及ハザルヤ、違シ—ト確言ナリ、

マール此役ニ於テ、親ラ埃太利ノ精兵ニ將トシ、鎧楯ヲ執テ敵兵ノ頭腦ヲ擊テ之ヲ殺ス、無算ナリキ、故ニ其ノ勇武絶群ノ標號トシテ之ヲ楸ノ義ニ取リ「マール」ト稱セラル、其後チ「マール」セテ「社」ヲ起シ、野猫ヲ以テ其社ノ記章ト爲シ、之レニ「イキザル」ト、ホミリスノ語ヲ銘セリ、蓋シ「ゼテ」Geneta ハ野猫ノ義ニシテ、「イキザル」ト、ホミリス Exaltationis ハ弱ヲ助ケルノ義ナリ、

七百四十一年チヤレスマール殞シ、其子ペピン宮内長ノ全權ヲ握レリ、ペピン身体短小ナリケレバ、字シテ「ゼ」シヨルトト稱ス、然レモ膂力アリ、才幹アリ、後チ遂ニ佛蘭西王ト爲レリ、又メロウヤン朝ノ末王チル德里ッ、位ヲ奪ハレテ、寺庵ニ入リ、メロウヤン朝滅ヒ、カルカウヤン朝之ニ代レリ、七百六十八年、ペピン殞ス、二子アリ、一チ「カ

ルロマン」ト云ヒニユーストリヤヲ受ケ、一ヲ查列斯チヤレス（史家之ヲ查列曼ト云ヒ、即チ查列斯大王ト記ス、獨逸語ニテ云ヘハカール大帝ナリ）ト云ヒ、埃太利ヲ繼ギヌ、

第十章

風俗及宗教

日耳曼人ハ、天性犢悍ニシテ、身体肥大ナルヲ他ノ歐洲人ノ企テ及ブ所ニ非ズ、専ラ游獵戰闘ヲ好ミ事ナキハ、熊皮ヲ舖キテ其上ニ醉臥シ、以テ游獵戰闘ノ時ヲ俟チ、一朝事アリ、獵或ハ軍ヨリ歸ルハ、相集リテ酒宴ヲ開キ、大盞ヲ舉ケテ相祝シ酒ハ麥酒及ビ蜜酒ヲ用ヒ此宴ニ於テ常ニ國事ヲ議シタリ、然レモ之ヲ決スルハ、次會ヲ期セリ、又博奕ヲ嗜ミ、其負ケタルモシハ、屢々其武器衣服妻子奴婢等ヲ失フニ至ルヲアリ、

然レモ日耳曼人、酒宴ヲ開クハ一ノ食卓ヲ共ニ用ユルヲナク、人毎ニ粗惡ナル席ヲ設ケ、唯ダ木製ノ椅子、食卓及ビ角盃匙箸等ヲ供ス、貴族ハ矛戟及ビ刀槍ヲ擔ヒタルモノヲ扈從シ、己レハ劍ヲ腰間ニ帶ビ、如何ナル時ト雖モ之ヲ他人ニ託スルヲナカリキ、
日耳曼人ハ、女メ性ヲ尊敬スルヲ亦他ノ歐洲諸國ノ及ズ所ニ非ズ、此氣風後世ニ傳ハリ、中世武士ノ盛ナルニ當テ益々之ヲ養成シ、遂ニ歐洲婦人ハ氣風ヲシテ、古昔希臘羅馬ノ婦人ヨリ高カラシムルニ至レリ、蓋シ其婦人ヲ尊敬スルヲ此ノ如クナル所以ノモノハ、婦人ト共ニ大事ヲ謀リ之レカ裨益ヲ得ルヲ少カラザルヲ以テナリ、
日耳曼人ハ野獸ノ皮ニテ製シタル衣服ヲ着シ之ヲ「サガ」ト稱シ肩ヨリ垂下スル方面ノ毛氈ナリシガ、當時此品高價ナルニ由テ唯ダ首長ノミ之ヲ着用セリ、背心ハ表衣裏衣共ニ亞麻製ノモノニシテ其丈ケ凡ソ膝ノ上部分マテ掛リ、一般ニ線ヲ綵縫シ、一筋ノ帶ヲ結ビ付ケ平常此衣服ハ

袖ナケレハ首長ハ時トシテ袖ヲ着セリ、但シ衣服ノ模様、人種ノ殊異ナルニ由テ同一ナラザリキ、

日耳曼人ハ、日月火ノ三象ヲ拜シ、大約深林ヲ以テ拜場ト爲シ、之レカ殿堂ヲ設ケズ、或ハ曰ク獨逸ノ國祖ナスウヰスコト名ケ、後チ祭テ神ト爲シ、且ツ其名ニ由リ、國ヲ稱シテ「トエチ」又ハ「ドエチ」トヘリ、今日日耳曼語中ニモ猶此語アリ、然レハ羅馬人ハ、此名ヲ以テ之ヲ呼ハス、或ハ各部落ヲ別稱シ、或ハ概シテ之ヲ「ゼルマニ」ト名ケヌ、蓋シ「ゼルマニ」テフ語ハ、兵士ノ義ニシテ、或ハ獨逸語ノ告爾語ニ轉訛セシモノナリ、又女神アリ、エルサト名ク地ノ義ナリ、大洋ノ一嶋ニ在リ、嶋中ニ湖アリ、林アリテ之ヲ環繞ス、エルサ此林中ニ居リ、又屢々林ヲ出テ衆民ヲ濟度ス、其出ルヤ、乘車壯麗、白馬之ヲ曳キ、湖濱ニ至リテ之レニ浴シ、從僧浴ヲ助ケ、且ツ奴ヲシテ之ヲ助ケシメ、禮終リテ盡ク奴ヲ殺スト云フ、其他「ウ」デント稱スル福神アリ「サル」ト稱スル軍神アリ「フライア」ト稱スル婚姻ノ神アリ、

而シテ「ウエチスデー」〔水曜日〕「サーズデー」〔木曜〕「フライデー」〔金曜日〕ハ此三神ニ取リテ名ゲタルモノナリ、

告士人ノ其本國斯干的那維亞ニ在ルヤ、其奉スル所ノ教法他ノ「チウト」〔諸部落ニ異ナル〕「ナカリキ」三神アリ「オーデン」〔ウーデント同シ〕軍神ナリ、二ニ曰ク「アリツガ」即チ「フレイヤ」オシオンノ夫人ニシテ北地ノ「ウエナス」ナリ、三ニ曰ク「ウエナス」ハ希臘ノ女神、三ニ曰ク「サル」ナリ、即チ万物ノ元質ヲ管シ、寒暑ヲ定ム、二百年代ノ頃告士人東南ノ地方ヲ畧シ、羅馬ノ耶蘇教人ニ接近スルニ及ビテ漸ク此宗ニ化セシモノアリ、後チ「チウト」人モ亦耶蘇教ニ入りヌ、

三百六十年、オルヒラスハ「モエツ」ゴシツク語〔告士語ノ一種〕ヲ以テ耶蘇經典ヲ譯シ、由テ深ク告士ノ人民ヲ教化シタリキ、今日尙ホ存スル告士書中、オルヒラスノ書ヲ以テ最モ古ルキ者ト爲ス、千六百四十八年瑞典ノ將ク「ニグスマー」クト云フモノ「プレーグ」ニ於テ之ヲ得、オプサル

大學ニ移セリ初メオルヒラヌノ此書ヲ譯スルヤ、告士ニ於テ末ダ文字
アラザルヲ以テ告士音中、羅馬、希臘ノ文字ニ適セザルモノヲ檢出シ新
ニ四字ヲ製シテ此音ニ適セシメシト云ヘリ、

第十一章

政治

日耳曼人ノ俗、新ニ土地ヲ畧スレバ、籤ヲ抽テ之ヲ分チ、酋長自ラ其若干
分ヲ取リ、部下各々其力ノ強弱ニ從ヒテ其若干分ヲタリシモ、酋長ノ
威權益々熾ンニ、武ヲ偃セ弋ヲ藏ムルノ後ト雖モ、其權ヲ把持シテ部
下ヲ統轄シ、別ニ方法ヲ設ケテ悉ク其畧地ヲ取リ、夷ニ地ヲ割キテ部
下ヲ封シ、緩急共ニ臣子ノ分ヲ盡サシメタリ、然ルニ初メテ此法ヲ行ヒシ
モノハ唯ダ強大ナル酋長ニ限リタリシニ、弱小ノモノ亦漸ク之レニ倣

ヒ、各々其地ヲ割キテ之ヲ其部下ニ與ヘ、地ヲ得ルモノハ、皆獨立シテ酋
長ト爲リシガ故ニ、日耳曼全國瓜裂シテ、各々割據ノ勢ヲ爲シ、其弊害實
ニ亦少トシト爲サレリキ、但シ之レガ爲ニ頗ル戰鬥上ノ勇ヲ養ヒシカ
ハ、當時未ダ封建ノ弊ヲ言フモノナカリキ、此時國王ノ輔相ハ、庶務總匠
掌室管家等ニテ其初メ皆其名稱ノ如ク、各々賤役ニ服シケルガ、其後國
家般富奢侈ノ風行ハル、ニ及ビテ、皆國家ノ大權ヲ掌握スル官ト爲リ、
九百年代オリ第一世ノ位ニ即キシ時、二人ノ諸侯大總匠大庶務ノ名ヲ
以テ其禮ヲ助ケシト云フ、
上古日耳曼ニ法律アリト雖モ、所謂習慣的ノ法ニシテ、未ダ之ヲ書冊ニ
登載セシメナカリシガ、爾來人文漸ク開ケ、六百年代ニ至リテハ、羅甸語
若クハ獨逸語ヲ以テ其法律ヲ編纂スルモノアリ、クログサス王モ亦獨
逸語ヲ以テ、サリツキ法律ヲ編ミ、タリシガ、此法ハ後ニ傳ハラズ、唯ダ其
存スルモノハ、羅甸語ヲ以テ記シタルモノノミ、蓋シ獨逸ノ法律中、自主

人律、奴隸人律、頗ル羅馬法ト相逕庭スル所アリ、獨逸法ハ罵詈ヨリ、人命ニ至ルマデ各犯ニ付キテ各種ノ刑ヲ設ケシコ例セハ均シク是レ竊盜ナレバ、豚ヲ盜ムモノハ贖金幾何ヲ科シ、他ハ若子ヲ科シ、均シク是レ人ヲ殺スモノナレバ、竊奴ヲ殺スモノハ三十五志^{シテリク}科シ、自主人ヲ殺スモノハ三百志ヲ科スルカ如シ、若シ犯者貧ニシテ、其ノ罪ヲ贖フコト能ハザレバ、神ヲ呼ビ、地上地下我資産ノ我罪ヲ贖フベキナシト誓ヒ、其所有地ヲ四隅ヨリ土塊各々一掬ヲ取リ、之ヲ其親戚ノ臨席スルモノニ投シ、之ヲ以テ其資産ト負債トヲ併セテ親戚ニ交付スルコトヲ表シ、然ル後、其褌衣ヲ脱シ、手ニ一挺ヲ提テ、其所有地ノ四周ヲ巡リ、此禮ヲ終レバ、親戚其負債ヲ擔當シテ、之ヲ辨償セザルベカラズ、若シ親戚皆赤貧ニシテ之レヲ辨償スルコト能ハザレバ、本犯即チ死刑ニ服ス、又「リアアリー」ニテハ、家屋土地ヲ賣買スルニ奇異ノ禮ヲ行ヘリ、其法買者其家屋土地ノ大小ニ從ヒ、三人若クハ六人若クハ十二人ノ證人ト同員ノ童子ヲ携ヘ

テ其地ニ赴キ、證人ノ面前ニ於テ價金ヲ賣者ニ交授シ、然ル後、掌ヲ以テ、各童子ヲ拍チ且ツ其兩耳ヲ傷リ、終身之ヲ忘レザラシム、又罪犯ヲ審案スルニハ、公ニ會審員ヲ選ハシメ、此員皆被告ト同位階ノ人ナリ、若シ又被告ノ罪狀殆ント明瞭ナレバ、其證ヲ得ザルニ由テ之ヲ斷決スルコト能ハザルハ、或ハ之ヲシテ其朋友ト同シク誓ヲ爲シテ其冤ヲ證セシメ、或ハ試法ヲ以テ之ヲ審鞠ス、其法タル、或ハ素手ヲ以テ烙鎖ヲ握ラシメ、或ハ熱湯ヲ探ラシメ、或ハ原告ト毆鬪シテ雌雄ヲ決セシメ、若シ其手焚ケス爛レズシテ能ク一撃ヲ以テ原告ヲ瘡スモノハ並ニ無罪ト爲シ、神之ヲ加護スルト稱シ、然ラザレハ之ヲ有罪ト爲シ、神之ヲ殛罰スルト稱ス、後チ耶蘇教ヲ行ハル、ニ及ビテ、別ニ種々ノ試法ヲ設ケ、就中水試アリ、神水ヲ執テ、被告ニ飲シメ、水能ク其喉ヲ降り、罪アレハ水注キテ喉腐潰スルト看做シタリキ、
日耳曼諸國皆民會ヲ設ク、諸厄羅撒遜^{アンソロキ}ニテハ之レヲウヰテチモツ

(Witenagemos)ト稱ス(即チ賢人會議)佛朗克ニテハ之ヲ「マールズヘル
 デル」(Marsfelder)ト稱ス(三月郊會)蓋シ此月郊原ニ於テ此會ヲ行フニ取
 レルナリ此ノ如ク諸州皆國會ノ名チ異ニスレバ總テ此會ニ於テハ和
 戰ノ利害ヲ論シ議若シ開戰ニ決スレバ國王全國ノ男子ヲ徵發シ之ヲ
 シテ皆兵伏戎裝ヲ整ヒテ來會セシメ侯伯ヲシテ各々其國兵ヲ率キシ
 メ國王親ラ全軍ヲ統ベテ出ツ諸厄羅撒遜ニ於テハ陸軍ヲ「ランド、ヒル
 ド」(Land-fyrd)ト稱シ海軍ヲ「シツプ、ヒルト」(Scyp-fyrd)ト稱ス。
 (日耳曼ノ古語ニ國王ヲ「クニ」(Kuni)ト云ヘリ蓋シ國王ハ全國家族
 ノ首長ナルニ取レルモノナリ)

第十二章

文學

上古日耳曼ノ文字ハ之ヲ「ルーンズ」(Runes)ト名ケ諸部落皆之ヲ知ラザ
 ルハナシ而シテ告士、スクリヴオニヤチ以テ巨壁ト爲ス文字ヲ書スルニ
 筆ヲ用ヒズ刀ヲ以テ之レヲ石若クハ木ニ彫刻シ木ハ專ラ黃楊木ヲ用
 ヲ曼國ノ古語之ヲ名ケテ「フツク」ト稱ス方今曼英ノ兩語中書籍ヲ「フツ
 ク」ト稱スルハ實ニ此ニ基ツク「ルーンズ」ハ專ラ之ヲ神事ニ用ヒタリ
 キ(彼ノ僧正オルヒラスノ文字ヲ製スルニ及ビテ「ルーンズ」ハ全ク廢
 物ト爲リシカニ上古ハ全國一般ニ文字行ハレズ唯ダ群神ノ功德ヲ頌
 シ英傑ノ行事ヲ述ベタル歌曲等ニ用ヒタリシニ過キザリシナリ北方
 ノ種族ハ殘暴ナリシカニ又極メテ歌曲ヲ好メリ嘗テ一個ノ詩人或ル
 酋長ノ許ニ至リ其堂ニ於テ歌曲ヲ奏セシニ其曲皆絕妙ナリ第一曲ハ
 滿座歡欣手ノ舞ヒ足ノ蹈ムヲ知ラズ皆起テ舞樂ヲ盡セリ第二曲ハ

滿座悄然皆涕泗ノ襟ヲ沾ホスヲ知ラズ第三曲ハ、滿座ノ人々感動最モ甚シク、怒氣激發互ニ毆鬪シテ殺傷スルニ至リシト云フ、獨逸ノ歌曲ハ希臘羅馬ノ歌曲ト異ニシテ辭數ヲ以テ句法ヲ爲サズアルリテレリシヨン〕(Alliteration) (語頭聯韻)ト云ヘルヲアリ、句中數語、其首ニ類音ヲ置ク、又ライム(Rhyme) (句末聯韻)ト云ヘルヲアリ、句末ニ類音ノ語ヲ用ヒテ其韻律ヲ爲セリ、加フルニ歌曲專ラ簡短ノ字句ヲ用ヒ間波瀾ヲ挿ミ以テ通常文章ト其音節ヲ分ツ、未ダ文字ノ行ハレザルニ當リテハ音ニアルリテレリシヨン〕(語頭聯韻)ヲ以テ言語ヲ裝飾セルノミナラズ、又之ヲ以テ記憶ノ裨補ト爲セリ、左レハ獨逸ニテ口傳ヲ以テ慣習的ノ法律ヲ行ヒシ、時ハ記憶ヲ便ニスルカ爲ニ往々法律ノ語ニアルリテレリシヨン〕ヲ用ヒタリキ、方今獨逸語中ニ獨リ、此韻法存スルノミナラズ、英語中ニモ、往々存スルモノアリ、日耳曼ニテ文學未ダ開ケズ、其歴史完全ナルモノナク、建國ヨリ四百年

代ノ末迄マデノ歴史ハ皆希臘史家ノ力ニ由テ存セシナリ、然ルニ希臘ノ史家ハ親シク事實ヲ聞見シタルニ非ズ、加フルニ自ラ開化國ノ人民タルヲ自負シ、深ク日耳曼人ヲ輕蔑シタリケレハ其述ブル所往々其眞ヲ失ヒ、確證ト爲スニ足ラズ、五百年代ノ末ニ至リ、テ佛朗克人グレゴリ一(トールス)ノ大僧正(西教會史)ヲ著ハシ、五百九十一年マデノ事ヲ記セシモ事實精確ナラズ、妄誕往々人ヲ欺クモノナキニ非ズ、然レモ當時ノ歴史中ニ在リテハ最モ引證スベキモノナリキ、

第一篇 (上)

中世紀

第一章

查列曼大帝

日耳曼ハ一新ノ氣運ニ赴キタリ、古代ノ政治法律漸ク廢絶セラレ、諸州ノ獨立セシモノ皆混同シテ一大帝國ト爲リヌ、而シテ其氣運ヲ導キ此ノ勢形ヲ制シタリシモノハ實ニ查列曼大帝ノ力ニ由レルモノトス、

カルロマン禍ニ罹リテ歿シ、查列曼之レニ繼キ、盡ク其諸子ヲ逐ヒ、獨リ佛國ノ王ト爲ル、實ニ七百七十一年ナリキ、此時期罷地ノ王デシデリユス、查列曼ノ諸子ヲ驅逐セシテ宛トシ、羅馬法王ニ請ヒテ之ヲ立ンコトヲ謀レリ、查列曼之ヲ聞キ曰ク、彼レヨリ爵ヲ開ク、我レ豈躊躇スベキノ理アラシヤ、ト由テ兵ヲ率キ、亞爾伯山ヲ越エテ伊太利ニ入レリ、叔父ベルナルト道ヲモンズ、テヨグサスニ取リ進テ之レニ合セシガ、爾

來モンズ、テヨグサスヲ改メテセントムルナルトト名ケタリ、斯クテ朗罷地ノ人民ハ佛軍來ルト間キ、皆逃レテ諸所ノ城砦ニ入り、王デシデリユスハ巴威里城ヲ守リテ敵兵ノ來ルヲ待チタリシガ、未タ幾ナラズシテ、查列曼既ニ巴威里ニ達シタリケレバ、デシデリユス高樓ヨリ遙ニ其風采凜然威儀人ニ逼ルヲ見、左右ニ語テ曰ク、我レ速ニ樓ヲ下ラン、我レ其顔色ヲ見ルニ堪ズ、ト其樓ヲ降レリ、後チ數日糧盡キテ城陥リ、查列曼朗罷地王ヲコルグエーソ寺ニ遷シ、其鍔冠ヲ収メテ自ラ之ヲ被レリ、實ニ紀元七百七十四年ナリキ、

已ニシテ、查列曼羅馬ニ至リ未タ市門ニ達セザル、千歩ニシテ馬ヨリ下リ、徒歩シテ、聖彼得寺ニ詣リシガ、法王親ラ之ヲ前廊ニ迎ヘ、兩手ヲ以テ之ヲ抱キ、其功勞ヲ賞シ、伶人、神歌ヲ奏ス、神ニ代リテ此ニ來ル、人能ク其多福ヲ享ク、ト唱ヘリ、是ヨリ相携ヘテ宮ニ入り、聖僧ベートルノ棺前ニ於テ共ニ拜禮ヲ行ヒタリキ、是ノ時ニ當リテ朗罷地人デシデリユス

ノ子アダルヂシユスナ推シテ父ノ位ニ登ラシメタリシガ、再タヒ其征服スル所ト爲リ、一敗地ニ塗レ、アダルヂシユス國ヲ去リヌ但シ威内斯ノ人民ハ尙ホ屈セズ能ク其攻兵ヲ破リテ永ク其獨立ヲ保チタリキ、伊太利全國盡ク查列曼ノ威風ニ靡キタリシモ、獨リ撒遜人亞爾伯山外ニ據テ降ラザリキ、是レヨリ先キ佛朗克屢々撒遜ヲ控キ之ヲシテ屬國タラシメントシ、且ツ耶蘇教ヲ以テ之ヲ化セントセシガ、撒遜人深ク舊教ヲ信シ嚴シク之ヲ拒ミ、屢戰スルヲ數次其後七百七十二年ニ至リテ查列曼一國宗門議院ヲ開キ、撒遜ノ事ヲ議セシニ、滿院皆開戰ニ左袒シタリ、查列曼モ亦以爲ラク、宗教ノ爲ニ兵ヲ用ユルハ亦曰ムヲ得サル所ナリトテ親ヲ兵ニ將トシテ萊因河ヲ涉リ、向フ所前ナク、地ヲ畧シテウセエルニ至レリ、然ルニ當時朗罷地人兵ヲ擧ケテ叛キタリ、查列曼乃チ兵ヲ轉シテ朗罷地ニ入り、先ツ之ヲ破リ又撒遜ヲ攻ム、初メ撒遜ノウエスハリヤ侯ウキトキンド兵ヲ發シテ佛軍ヲ拒ク、前後三十年戰敗ル

、キハ、遠ク深林ノ中ニ逃レ、更ニ衆ヲ集メテ神ニ誓ヒ、再タヒ出テ、佛軍ヲ衝キ、隨テ敗レハ、隨テ匿レ、此ノ如クナルヲ幾回ナルヲ知ラザリキ、然ルニ最後ノ二戰潰敗殊ニ甚シク、ウキトキンド力盡キ、佛國ノアツナグニ一ニ來リ、自ラ洗禮ヲ受ケ、遂ニ耶蘇教ヲ奉シタリキ、八百三年查列曼ウキトキンドトセル河上セルズニ會シテ和約ヲ結ビヌ、其後ウキトキンド刺客ノ爲ニ殺サレタルヲ以テ查列曼撒遜ヲ分チテ、マンスラル、オスナボルグ、パデルボルン、ミンデン、ブレメン、ヴエルデン、ヒルデセルム及ビハルベルスタットノ八區ト爲シ、之ヲ僧正區ト爲セリ、查列曼是レヨリ日耳曼全國ヲシテ悉ク耶蘇教ヲ奉セシメ、且ツ苛法ヲ設ケテ大ハ異教ニ入ルモノヨリ、小ハ四十日齋ニ肉ヲ喫スルモノニ至ルマデ、皆之レヲ罰スルニ死刑ヲ以テシタリキ、查列曼ノ撒遜ヲ征セル際、ムール人西班牙ニ入り、サラコフサノ知事イブナルアラビヲ驅逐セリ、七百七十八年查列曼イブナルアラビノ請ニ

依リ親シク西班牙ニ入り、ムール人ヲ攻メテ盡ク其イプロ河東ノ地ヲ奪ヒ、カタロニヤヲ以テ、佛蘭西ノ侯國ト爲シ、イブナルアラビヲサラコツサニ復シリ、此戰ニ佛將ローランド歸路ランセスワルスノ間道ヲ過キ、將卒皆魚貫セシガ、敵兵ノ殲ス所ト爲レリ、翌年查列曼、ムール人ヲマチヨルカ及ビミノルカノ二嶋ヨリ逐ヒ、猶進ミテ之ヲ難キ、盡ク之ヲ歐洲外ニ驅逐セントセシガ、撒遜人ノ猖獗ニ由テ遂ニ其功ヲ奏セザリキ、七百八十七年、ブレウエント侯查列曼ヲ推シテ霸王ト爲シ、サレルノニ於テ附屬ノ盟ヲ爲セリ、後チ波蘭人、波希米人及ビ「アヴルス」人皆降チ乞ヒ、歲貢ヲ納レンコトヲ約セリ、

查列曼ノ武畧赫々トシテ、八荒ニ振ヒ、南ハイフロ河ヨリ北ハラーフ、チシスノ兩河ニ至リ東ハベチウエントヨリ、西ハアイデル河ニ至ルマデ日耳曼ノ諸部落皆一ニ歸シ、其他羅馬ノ餘屬及ビスクラ、ホニヤン及ヒ「アヴルス」ニ部落中ニモ多ク欸ヲ送リシモノアリ、查列曼ノ版圖羅馬帝

國ニ比スレバ、更ニ廣大チ加ヘ、唯ダ日耳曼部落ノ中ニテ諸厄羅、撒遜及ヒ諾威、瑞典、噠馬ヲ領シタル、斯干的那維亞人未タ之レニ從ハザリシノミ、查列曼ハ、斯ル太國ニ臨ミ、之ニ耶穌ノ一教ヲ以テシ、西班牙、亞非利加、亞細亞ノ回教ヲ拒キ、以テ「ノルマン」^{ノルマン}、「アヴルス」^{アヴルス}、「スクラボニアン」^{スクラボニアン}ノ外教ヲ絶ンコトヲ期シタリキ、

七百九十九年、羅馬法王查列曼ヲバテルホルンニ訪ヒヌ、翌年查列曼羅馬ニ至リケルガ、法王レオ三世親ラ之レニ冠ヲ授ケ、庶民皆呼テ曰ク、
 || 明神位ヲ羅馬帝カロルス、オーガスタス(カルロスハチヤレスト同シ)ニ賜フ帝ノ德至大、人民由テ以テ安シ、嗚呼帝能ク敵ヲ破リ、永ク其壽ヲ享ケヨ ||
 ト其後千六年ノ間、日耳曼ノ帝ト爲レルモノハ、皆此冠ヲ受ケテ、日耳曼ヲ統轄セル證ト爲セシナリ、

查列曼既ニ西帝ノ位ヲ得、又東帝ノ位ヲ併セント欲スルノ志アリ、適々

東帝崩シ、其寡妃アイレ子獨リ政權ヲ執リケレハ、乃チ使チ遣ハシテ之ヲ娶ント欲セシガ、使未タ君士但丁堡ニ達セザルニニセホルスト云ヘルモノ、アイレ子ノ位ヲ篡ヒテ帝號ヲ僭セリ、查列曼之ヲ聞キ、心中大ニ不快ヲ感シタリキ、

第二章

查列曼ノ氣風采及品行

查列曼、膂力人ニ絶シ、就中游泳ニ長シ、其身極メテ長大ニシテ其ノ冠今マ藏メテ、維納ニ在ルモノヲ觀レハ、其徑頗ル大ニシテ巨人ニ非ザレハ之レニ適スルヲ能ハズト云フ、性節儉平生唯マ水獺皮ヲ以テ製シタル一個ノ背心衣ヲ着スルノミ、然レモ大禮ノ時ニハ衣服ヲ壯麗ニシ至尊ノ風彩ヲ顯ハシ、金衣ヲ着シ、玉鞋ヲ履ミ、胸ニ金飾ヲ施シ、頭ニ金冠ヲ戴

キ、之レニ綴ルニ寶石ヲ以テシ、大刀ヲ帶ビ時様ノ股衣ヲ穿チ、數色ノ緝紐ヲ以テ之ヲ緝紐シ、巧ニ彩紋ヲ爲セリ、

查列曼餘暇アレハ、博士ヲ集メ、食時必ズ命シテ古史、若クハ神學ヲ朗誦セシメ、又博士ニ勸メテ居テ宮中ニ營マシメタリ、查列曼能ク羅旬語ヲ以テ說話シ、又能ク希臘語ヲモ解セシカモ、之ヲ以テ說話スルヲ能ハザリキ、查列曼書ヲ能クスルニ志アリテ、常ニ之ヲ學ビ、寢時筆硯ヲ枕頭ニ置キ、眠ニ就カザルキハ、必ズ書ヲ習ヒケルガ、其手常ニ劍ヲ握リ矛ヲ操ルニ慣レテ屈伸自ラ自在ナルヲ能ハザリシカバ、心手相應セズ、遂ニ其志ヲ達スルヲ得ザリキ、

查列曼善ク人ヲ用ユ、博士中最モ秀デタルモノハ、英吉利ノ桑門アルクインニシテ、查列曼初メ之ヲ羅馬ニ見、遂ニ載セテ歸リ、アルクインハ學識アリ、昔ニ帝ノ諸子ヲ教ヘシノミナラズ、又帝ノ師ト爲リ、侍僧兼寺院事務顧問ノ職ヲ奉シタリキ、又インダンハドト稱スルモノアリ、勇ニ

シテ智ニ富ミ查列曼ノ傳ヲ編シ當時ノ史ヲ著ハセリ又ボールト稱スルモノアリ朗罷地ノ學者ナリシガ世多ク其字ヲ呼ビテダヤユナスト云フ又僧正タルピシト稱スルモノアリ查列曼ノ傳ヲ著ハセリ又アンデルベルトト稱スルモノアリ查列曼ト勿頸ノ友タリキアルクイン以下皆查列曼ノ學師ト爲リ常ニ其側ニ侍シテ諸科ノ學ヲ講シ政治ノ得失ヲ論シ家事ト國政トニ論ナク皆此博士ノ論ヲ採リテ之ヲ施行シタリケレハ嘗ニ博士ノ多キヲ以テ朝廷ヲ粧飾シタルノミニ止ラズ實際ニ於テ裨補スル所甚タ少ナシト爲サザリキ

查列曼五回妃ヲ娶リヌ而シテ其家ヲ治ルル頗ル寛ニ失シタリキ查列曼長子ヲ查列斯ト云ヒ次子ヲベピント云ヒ皆蚤ク死シ末子路易立テ太子ト爲リシガ三子ノ中ニテ最モ不肖兒ナリシナリ

第三章

日耳曼帝國ノ分裂

查列曼ノ大業ヲ繼クモノハ亦查列曼ノ如キ英雄ナカレバカラス苟モ其人無クハ日耳曼ハ分裂セシト必至ハ勢也而シテ查列曼ノ嗣路易ハ性溫柔ニシテ到底蟠根錯節ヲ割斷スベキ人ニ非ザリケレバ查列曼ノ死ト同時ニ紀綱忽チ弛ビ政令行ハレザリキ路易モ亦自ラ大國ヲ統御スル任ニ堪ヘサルヲ知リ曾テ父ノ賢臣父ニ己ノ甥ベルナルドヲ立シテ勸メシテ怒リベルナルドノ面目ヲ挾出セシヲ悔ヒ自ラ其位ヲ遜レ閑居身ヲ終ヘント欲シ位ヲ其諸子ニ讓ンヲ乞ヒシモ法王及ビ僧徒皆路易ノ溫柔ヲ利トシ之ヲ許サズ却テ之レヲシテ全國會議ニ出テベルナルドヲ虐使セシヲ謝セシメケルニ路易ハ大ニ宗教ニ惑溺シタリケレバ堂々タル帝王ノ身ヲ以テ會員ノ面前ニ叩頭シ謝罪ノ式ヲ行ヒ禪讓ノ事遂ニ止ミニケリ

路易三子アリ長ヲロテルト云ヒ次ヲベピント云ヒ三子ヲ路易ト云フ、父路易豫シメ死後ノ計ヲ爲シ、國ヲ三分シロテルニハ伊太利及ヒ萊因河邊ニ至ルマテノ地ヲ領シテ、帝號ヲ稱セシメベピンニハ佛蘭西ヲ與ヘテ帝號ヲ稱セシメ、路易ニハ日耳曼ヲ與ヘント定メシガ、後ヲ第二妃ヲ娶リテ第四子查列斯ヲ生ミケレバ、之ニモ、土地ヲ與ヘント欲シケレバ、既ニ餘地ナカリシヲ以テ、三子ニ諭シテ、三分ノ約ヲ更メシメント欲ス、三子皆之ヲ怒リ、父子ノ義ヲ破リ、兵ヲ舉ケテ、父ヲ捕ヘ之ヲシテソイソンスノ一寺庵ニ於テ謝罪ノ式ヲ行ヒ、謝文ヲ朗讀シ其僞誓強盜人命ノ三律ヲ犯シタルヲ誣服セシメ、百方脅迫ノ上ニテ、庵寺ノ誓ヲ爲シ、僧ヲラソフヲ要シタリシガ、父路易、庵寺ノ誓ヲ爲スヲ拒テ聽カザリキ、

其後ヲベピン路易其兄ロテルノ富饒ナルヲ羨ミ、之ヲ傾ケント欲シ、再タビ父ヲ位ニ復シ、改メテ地ヲ分チロテルニハ尺地ダモ與ヘザリシガ、幾クモナクベピン死シケレバ、ロテル遂ニ繼母ニ説キ、弟路易ヲ除キ、末弟查列スト共ニ帝國ヲ分タンフヲ謀リシガ、父路易喜テ之レヲ諾シ、遂ニ其罪ヲ宥メ帝國ヲ兩分シ、ロテルト查列ストニ各々其一ヲ與ヘ、路易ニハ地ヲ與ヘザリケリ、路易父路易ノ無道ヲ怒リ、再タビ兵ヲ舉ゲテ之ヲ討セシガ、父モ亦兵ヲ進メテ萊因河畔ニ至リシ頃、劇疾ニ罹リテ進ムヲ得ス、因テ命シテ、萊因河畔ノ小嶼ニ於テ、木葉ヲ集メテ、小屋ヲ作ラシメ、床ニ臥シテ、流水ノ滌々タルヲ聞キ、溘焉トシテ逝ケリ、時ニ紀元八百四十年ナリキ、

查列斯ハ路易ト力ヲ戮セテ兵ヲ舉ケ、ロテルトボルゴンヂーノフオンヲチニ盛戰シ、遂ニロテルヲ破リシカ、八百四十三年兄弟三人ロルレオンノウオルタンニ相會シ、查列曼帝國ヲ三分シテ、各々其一ヲ有、チ長兄ロテルハ伊太利ヘルヴェシヤ及ヒ萊因河西ノ地ヲ得テ帝號ヲ稱シ、此河西ノ地ヲ名ケテロルレイント名ク、查列斯ハ、ロルレオンヲ除キ、佛

蘭西全國ヲ受テ、王號ヲ稱シ、路易モ亦日耳曼全國ヲ領シ亦王號ヲ稱セリ、ロルレーンハ後チ他國ニ併セラレテタルコアリシカニ、佛國ト曼國トハチヤレスフアットノ在位間(暫時)ヲ除クノ外、此ノ時ヨリ今日ニ至ルマテ全ク別國ト爲リヌ、(路易ハ號シテゼルマント云ヒ、查列斯號シテポールドト云ヘリ)

第四章

諾曼人ノ侵入ニアルノルフ王

路易、日耳曼ノ王位ヲ繼ギシ時ニ當テ、諾曼ト稱スル種族アリ、日耳曼ノ境ヲ侵セリ、此種族ハ、専ラ海賊ヲ以テ業ト爲シ、其酋長モ亦多クハ、一定ノ住所ナク、常ニ船舶數隻ヲ以テ、曼佛ノ沿海ヲ巡航シ、其村落ヲ侵掠シ、又脚艇ニ駕シ、河流ニ泝リテ深ク内地ニ入り、城ヲ拔キ市ヲ掠メ若シ戰

利アラザレハ、直ニ退キテ船ニ駕シ、瞬間ニ外洋ニ泛ビ、出沒變幻得テ追躡スベカラズ、曼佛兩國ノ民、其害ヲ蒙ルコト虚歲ナカリキ、初メ查列曼萊因河上インゼルヘームニ在リシキ、宮窓ヨリ諾曼人ノ狀貌ヲ見、其勇悍ノ氣象ヲ察シ、後世必ズ國患ヲ爲サンコトヲ豫言セシガ、其言果シテ驗アリキ、諾曼人毎歲ブリランダヲ侵シ、其酋長ノ一人ロルト稱スルモノ、佛國ノ北部ヲ畧シ、遂ニ國ヲ建テ諾曼的ト號セリ、

八百七十六年、路易死シ、三子路易、カルロマン、查列斯、父ノ喪ニ當リテ、叔父佛王查列スト伊常ルテルノ後チ爭ヒ、兵ヲ擧ケテ之ヲ伐チ、萊因河上ノアンデルナッソニ戰ヒテ、大ニ之ヲ破レリ、後チ路易カルロマン二人死シ、皆嫡子ナカリケレハ、查列斯獨リ末弟ヲ以テ、日耳曼及ビロルレーンノ兩國ヲ併セタリキ、此時佛王チャレス、シンプル年猶幼カリケルガ、諾曼人ノ猖獗益々太甚シキヨリ、人民皆幼冲ノ王ヲ喜ハズ、因テ曼王查列斯ニ佛王ヲ兼チンコトヲ請ヒ、曼佛兩國再ダヒ一君ノ治ヲ奉スルニ至

查列斯、噠馬ノ酋長ゴットフレイチフリランダ侯ニ封シ、後チ欺テ之ヲ死ニ陥ラシメタリ、是ニ於テ諾曼人大ニ怒リ、兵ヲ發シテ之ヲ攻ム、查列斯大ニ驚キ、鉅万ノ金ヲ以テ蕃賊ニ賂ヒ、之ヲ縱シテ、巴里ニ入リ、セー
 ン河ヲ航セシムルヲ約シ、僅カニ講和ヲ得タリ、查列斯國辱ヲ蒙リタ
 ル、此ノ如クナリシカバ、佛人全ク欲望シ、曼人モ亦其卑怯ヲ怒リ、兩國
 人遂ニオツペンヘームノ傍トライブルニ會シ、查列斯ヲ廢セリ、(查列斯
 後チ二年ニシテ死ス、號チファットト云フ、肥大ノ義ナリ)斯クテ曼佛兩
 國長ク相分レ、各々其王ヲ選ビ、八百八十八年日耳曼ハカルロマン(ルイ
 ス、セルマンノ長子)ノ庶子アルノルフヲ立テヌ、アルノルフ位ニ即キ、諾
 曼人ト戰ヒ、大ニ之ヲ破リシカバ、諾曼人はレヨリ萊因河畔ヲ窺フノ念
 チ絶チタリキ、
 是時ニ當テ、マヂヤルス族(日耳曼人ハ之ヲ「ホンガリヤン」ト稱ス、即チ匈奴

ノ一族ナリ)パンノニヤニ侵入セリ、(パンノニヤハ「ロンバルツ」ト「アヴル
 ス」ノ兩蕃族相繼キテ領セシ所ナリ)初メ東帝レオウ加牙人ト戰ヒシ時、
 援チ「ホンガリヤン」ニ請ヒ、之ヲ引テ、其國ニ入ラシメシガ、後チ漸ク西
 ニ進ミ、遂ニパンノニヤニ來リシニ、此時曼王アルノルフ「摩拉維亞」王
 ヲウサントバルトト隙アリ、亦之ト約ヲ結ビテ、其軍ヲ援ケシメタリ、
 又當時伊太利ノ帝位、朗罷地ノ王位、共ニ其主ナク、諸侯各々之ヲ爭ヒシ
 ガ、八百九十四年アルノルフ法王ノ請ニ依リ、兵ヲ率ヰテ伊太利ニ入り
 ベルガモヲ圍ミ、急ニ攻メテ之ヲ拔キケルガ、佛王ノ兵ヲ日耳曼ニ出ス
 ト聞キ、之ヲ禦カンガ爲ニ、兵ヲ退ケ八百九十六年、再タヒ亞爾伯山ヲ踰
 ニ、進ミテ羅馬ニ至リシニ、都人市門ヲ閉テ之ヲ入レザリケリ、アルノ
 ルフ力ヲ盡シテ屢々之ヲ攻メシモ、拔ク能ハザルヲ以テ、退軍ノ準備
 チ爲シタル時、守兵大ニ罵詈ヲ試ミシカバ、再ビ進テ之ヲ攻撃セシニ、守
 兵支フル能ハズ、市門遂ニ破レタリ、アルノルフ乃チ羅馬ニ入りシガ、

法王親ヲ冠ヲ捧ケテ之レニ授ケタリキ、八百九十九年アルノルフ毒ニ
 中リテ歿ス、時人皆之ヲ伊人ノ所爲ニ歸セリ、
 アルノルフノ後衆皆其嗣ヲ選ビ、其幼兒路易ヲ立テ、撒遜侯オソマエン
 スノ大僧正ハツト之ヲ抱キテ位ニ登ラシム、路易號シテチヤイルドト
 (孩兒ノ義ナリ)ト云フ、路易名ハ帝タリト雖モ一切ノ政權、オソトハツト
 トニ歸セリ、當時ホンガリヤンス益猖狂ヲ逞クシ、日耳曼ノ諸境ヲ侵シ、
 其鋒當ルベカラズ、路易之ヲ恐レ、ホンガリヤンニ十年間貢稅ヲ納レン
 ヲ約シタリキ、路易九百十一年ヲ以テ死シ、人民フランコニヤン侯コ
 ンラツドヲ選ビテ之ヲ立ツ、コンラツド嗣ナク、撒遜ノ顯理ヲ迎ヘテ之
 レカ位ヲ繼カシム、

第五章

顯理一世ノ英畧

顯理一世ハ日耳曼ニ於ケル撒遜王統ノ祖ナリ、コンラツトノ死スルヤ、
 イヘルハド使ヲ遣ハシタリシ時、顯理ハルツ山ニ在テ、游獵シケルガ、
 使者ヲ此ニ延キテ之ニ接見セリ、因テ號シテフアオレル(フアオレルハ
 獵鳥者ノ義ナリ)ト稱ス、顯理此報ヲ聞キフランコニヤ及ビ撒遜兩國ノ
 豪族ヲ集メテ、後嗣ヲ議セシニ、豪族等皆顯理ヲ推シ、古禮ニ由テ之ヲ楯
 上ニ載セ、其位ニ即カシメタリキ、(マエンスノ大僧正神油ヲ注キテ祝貯
 ナ行ントセシニ、顯理之ヲ辞シテ曰ク、神油ノ如キハ宜シク之ヲ貯
 へ、盛徳ノ人ノ我ニ代ルヲ俟テ更ニ祝褻ヲ行フベシ、)
 初メ查列曼ノ國ニ當リシ時、專ラ君權武權ヲ擴張シテ、諸侯ハ驕肆ヲ抑
 制シ、之レヲシテ跋扈スルヲ能ハザラシメ、列國ヲ統合シタリキ、然ルニ
 子孫暗弱ニシテ、能ク其基業ヲ繼クモノナク、或ハ諸侯ニ依テ外寇ヲ拒

キシヨリ、諸侯益々勢威ヲ張り、九百年ニ至リ、巴威里ニ一侯ヲ封シ、匈加利人ノ侵掠ヲ禦カシメ、撒遜ハ日耳曼中最モ噠馬人ノ爲ニ害メラレタルニヨリ此州ニモ亦一侯ヲ置キテ之ヲ守ラシメ、フランコニヤ及ヒロルレーンノ兩州ニモ各一侯ヲ置キ、又スワビヤニハ、查列曼ノ時ニ知事兩員ヲ置キシガ後チ亦獨裁ノ權ヲ僭シ、擅ニ政治ヲ實行シ、更ニ他州ノ諸侯ト異ナルヲナカリキ、是ヨリ日耳曼五部ニ分ル、曰ク撒遜スリンヂヤ、曰クフランコニヤ、(萊因メイン)ノ兩河畔ヲ包括ス、曰ク、スワビヤ、(萊因河ヨリレツナ河ニ亘レリ)曰ク巴威里、(レツナ河ヨリ匈加利ノ境ニ至レリ)曰クロルレーンはレナリ、此ノ如ク各州猶群雄割據ノ勢ヲ爲シ、王權ノ衰ヘタルニ乘ジ、愈々跋扈陸梁ヲ逞クセントスルノ志アリ、顯理位ニ即キシ時、撒遜、フランコニヤハ之ヲ助ケシカモスワヴヂヤ及ヒ巴威里ハ即位ノ會ニ列セザリキ、然レモ顯理毫モ之ヲ以テ、意ニ介セズ、斷然諸侯ノ驕傲ヲ制シ、併セテ匈加利及ヒ噠馬人ノ猖獗ヲ挫カント欲シ、專

ラ心力ヲ此ニ盡シタリキ、
 顯理、思慮周緻ニシテ果決ナリ、先ツ小ヨリ大ニ及ボサント欲シ、主トシテ兵ヲスワビヤノ知事ニ加ヘタリシガ、及ニ嗣ヌラズシテ之レヲ征服シ進ンテ巴威里侯アルノルフヲ伐ントシ未タ戰ハザル前ニアルノルフハ、顯理ト會シ、顯理ノ言ヲ聽キ、覺ニス涕泣シ、中心ヨリ之レニ服シ、永ノ其臣屬タラントチ請ヒタリキ、是ニ於テ、日耳曼全國皆顯理ニ歸シ、唯タロルレーンノ一州、降ラザリシガ、尋テ佛國ト絶チ曼國ノ臣屬ト爲リケリ、
 顯理已ニ我ヨリ進ミテ群雄ヲ制シ、政權チ一ニ歸セシメ、諸侯ニ親戚相會シテ同盟ヲ爲ス、チ許シ、之ヲ以テ其歡心ヲ結ヒ、又其橫肆ナラントチ恐レ、侯國毎ニ必スカウンント、バラテン(即チ王家ノ地ヲ守リ、詔ヲ聞クノ官)一員ヲ置キテ、王家直隸ノ地ヲ管理シ、王ニ代リテ其爭訟ヲ聽斷シ、且ツ諸侯ノ動靜ヲ監視セシメタリキ、顯理此制ヲ定ムルト同時ニ、
 八一

ガリヤンヌ」ヲ伐テ其王ヲ捕ヘシガ匈人ノ請ニ由テ之ヲ放テ、毎歲之レニ貢稅ヲ納レ、九年間ノ休戰ヲ約シタリキ、匈加利人、專ラ騎兵ニ熟練シタリケレハ、日耳曼モ亦之レニ備ヘサルヲ得ス、顯理最モ意ヲ此ニ注キ、凡ソ人民ノ馬ヲ畜フニ足ルモノハ、日ヲ期シテ相會シ、騎兵ノ操練ヲ爲サシム、是レ即チ「トールナメント」(比武ノ義ナリ)ノ初メニシテ、豪家ノ婦女、此ニ會シ、諸士ノ技ヲ角スルヲ觀、其優劣ヲ評シタリキ、查列曼ノ死後、兵備漸ク施ビ、歩兵モ亦宜シク之ヲ訓練セサルヘカラス、顯理乃チ令ヲ下シテ男兒齡十三ニ至レハ、必ス兵器ヲ帶ビ、之ヲ使用スルノ法ヲ學ハシム、又曼人ノ匈人ノ爲ニ害ヲ蒙リタリシハ、其城砦ニ乏キニ由レリ、顯理乃チ廢砦ヲ修メ、新壘ヲ築キ、諸市府ヲ防禦シ、罪囚ヲ以テ守兵ト爲シ、又全國九男毎ニ一丁ヲ取リ之レヲ耕耘ヲ廢シテ、城砦ヲ守ラシメ、農産ノ三分ノ一ヲ城砦ニ収メ、之ヲ以テ其守兵ニ給セリ、兵備漸ク嚴固ト爲リケレハ、顯理匈加利人ヲ討ント欲シ、休

戰ノ期將ニ滿ソトスルニ及ヒテ、貢稅トシテ疥癬ヲ患ヒタル犬一頭ヲ送リ之レニ謂テ曰ク、**我ノ汝ニ與フヘキモノハ、唯々此犬アルノミ、今ヨリ後チ更ニ與フヘキモノナシト、**

九百三十三年、匈加利人、兵ヲ二軍ニ分テ、日耳曼ニ入リケレハ、顯理、撒遜ノ兵ヲシテ其一軍ニ當ラシメ、親ラ兵ヲ將トシテ、其一軍ニ當ントセシカ、匈加利人ノ一軍、ソソナルシヨセシニ於テ、撒遜人ノ破ル所ト爲リ、匈加利人散兵ヲ集メントテ、所々ノ小山ニ登リ、烽火ヲ以テ號ト爲シケルニ、顯理令ヲ發シ、三軍ヲ鼓舞シ、天使ミチエールノ肖像ヲ畫キタル牙旗ヲ陣頭ニ樹テ、進ミテ匈軍ヲ擊チシ、曼軍ハ神慈ヲ祈願ス (Ky rieele *kyriele*) ト大喝シ大ニ之ヲ破リ、キエールノ邊ニ於テ一人ノ匈加利人ヲ見ザリシト云フ、

キエールスシボルク戰ノ後、三年、即チ九百三十六年、顯理ハスリンヂヤノメムレベンニ死シ、年六十、長子オソ位ヲ嗣ク、顯理ノ銘ニ曰ク

“Ad vindictam tardus, ad beneficentiam velox”

(怨ヲ報ユルハ、緩ヲ貴ビ、恩ヲ施スハ急ヲ貴ブ)

第六章

オソ大王

オソ父ノ死セシ時、年二十四、已ニ議院ノ選擇ヲ受ケテ、位ヲ嗣クベキニ定マリシカニ、衆皆以爲ラシク再タビ會議ヲ開キ、更ニ公選ニ當ルニ非ザレハ、祝祓ヲ受ケ位ニ登ルヲ得ズト、乃チエーズ、ラシヤベルニ於テ會議ヲ開キ、諸州ノ貴族皆先ツ誓ヲ取リ、臣屬ノ禮ヲ行ヒ、更ニ宏大壯麗ノ儀ヲ以テ即位ノ禮ヲ行ヒタリ、此禮ノ最モ盛大ナリシヲハ、全國強大ノ諸侯ト雖モ、各々宮内ノ一職ヲ奉ゼシコトニテ知ラレタリ、

オソ即位ノ後、内訌外患交々起リ、ヌバ威里ノイヴエラードハ兄ノ後ヲ

嗣ギ、立テ侯ト爲リシガ、敢テ臣屬ノ禮ヲ奉セズ、波希米侯モ亦王命ヲ拒ミ、乱ヲ謀ントセリ、匈加利人其露ニ乘シテ日耳曼ヲ侵サント欲シ、既ニ其南部ニ入り、進ミテ佛國ノ境ヲ蹂躪シタリケレハ、國內洵々トシテ、土崩瓦解ノ勢ヲ生ズル許リナリキ、オソ智畧絶世興望ニ背カズ、自ラ兵ヲ率キテ、イヴエラードヲ破リ、之ヲ廢メ、其弟ヲ立テ、又波希米ヲ撃テ、十四年ニシテ、之ヲ降シ、頗ル民望ニ適シタリ、然レモオソノ最モ愛ヒシ所ノモノハ、外諸侯ニアラズシテ、内、骨肉ニ在リシナリ、

此時ニ當リテ、フランコニヤ侯、ロルレーン侯、マエンスノ大僧正、皆ニオソヲ廢シ、其弟顯理ヲ立ント欲シ、相議シ、顯理ヲシテ反セシメタリ、オソ兵ヲ發シ、ロルレーンニ向テ之ヲ追ヒ、萊因河ニ至リシガ、直ニ兵ヲ加ヘズ、先ツ使ヲ遣メ和戰何レカ欲スルヤヲ問ハシメ、且ツ小船數雙ニ兵士百人ヲ載セ、之ヲ海外ニ送ントテ、已ニ河中ニ泛ビシガ、使者歸テ反者戰ヲ欲シ、王師ヲ拒ムト告ケケレバ、オソハ、河中ノ兵士ノ敵ノ爲ニ殘殺セ

ラレンノヲ危ミシガ、兵士ノ中數人窃ニ敵背ニ出テ、佛語ヲ以テ逃レヨ
 逃レヨト叫ビ之ヲ撃テケルニ、敵ハ後ヨリ大軍攻襲スルカト思ヒ、隊伍
 ナ乱シテ逃レケリ、此時萊因河畔ノ諸貴僧ハ皆王ニ背キテ反者ニ與ミ
 シ其勢危急ニ危急ヲ加ヘケレハ、諸將多クハ兵ヲ退ケテ時ヲ待ツニ若
 カズト諫メシガ、オソハ斷然トシテ之ヲ拒ミ、兵ヲ退ケザリキ、此時敵兵
 已ニアスデルナクヨリ萊因河ヲ渡リ、オソノ牙營ヲ襲ントテ、已ニ其近
 傍ニ進ミ、高屋建瓴ノ勢ニ乗ジ、スワビヤ侯、オソヲ援ンカ爲メニ、此地ニ
 達シ、奮戰シテ大ニ之ヲ破リ、其兩將ヲ斬リシカハ、賊ハ爭テ河ヲ渡リ遁
 レ去リニケリ、

又當時伊太利ニ於テ、查列曼ノ族ニ王位ヲ繼クベキモノナク、諸侯相爭
 ヒ各々名義ヲ唱ヘテ王位ヲ得ンヲ謀リ、全國分裂シ、禍乱止ム時ナカ
 リキ、殊ニイヴレア侯ベレンガリユスハ、久シク王位ヲ得ント欲シ、先王
 ノ寡妃アデライデニ説キ己レガ子ニ妻サンヲ謀リシモ、其聽ク所ト

爲ラザリシカバ、大ニ怒リ遂ニ之ヲ捕ヘテラゴマガルタ河上ノ城中ニ
 禁錮シタリ、桑門マルテン篤實ニシテ義ニ勇ムノ人ナリシガ、大膽ニモ
 城壁ヲ穿テ、遂ニ之ヲ城外ニ逃レシメシカハ、アデライデハ別ニ頼ル
 ベキ人モナカリシカバ、四方ニ漂泊シ、晝ハ艸中ニ伏シ、夜ハ暗路ニ迷ヒ、
 遂ニ一個ノ漁家ヲ得テ男子ノ扮装ヲ爲シ、數日此ニ止リケルガマルテ
 ン諸所ヲ巡リ、之ヲ其黨ニ報シケレハ、皆集リテ妃ヲ奉シ、之ヲカノツサ
 城ニ遷セリ、ベレンガリユス之ヲ聞キ、大兵ヲ率ヰテ、之ヲ圍ミシガ、城中
 皆畏怖シ、遂ニ曼王オソノ援ヲ得ント欲シ、寡妃ヲ納レ且ツ以太利ノ王
 位ヲ捧ケンヲ乞ヒタリ、オソ如何ツ此佳報ニ接シテ喜ハザランヤ、直
 ニ之レヲ聽キ、兵ヲ發ンベレンガリユスヲ破リ、アデライデヲ携ヘ、巴威
 里ニ入り、婚禮ヲ行ヒ、自ラ伊王ノ位ニ即キヌ、實ニ紀元九百五十一年ナ
 リキオソ妃ヲ携ヘテ日耳曼ニ歸リシニ、豈圖ンヤ、其ノ子スワビヤ侯ロ
 ドルフ兵ヲ起シテ叛シ、マエンスノ大僧正及ビ王ノ婿コンラドト力ヲ

戮セ、父ニ抗シテ戰ヒシガ、事成ラザルヲ知リ、父ノ所ニ至リ其罪ヲ謝シケレハ、オソ其國ヲ除キ、之ヲシテ伊太利ニ入り、ベレンガリユスヲ擊タシメタリキ、

九百五十五年、匈加利人、大舉シテ再タビ日耳曼ヲ侵シ、勢威凛々、八荒ヲ震動シ、オーグスボルグ府ノ側ニ陣シタリ、此時曼軍、匈加利人ニ比スレハ、僅少ナリシト雖、勇兵猶八大隊アリ、オソ第五隊ニ將トシテ、天使ミチユールノ肖像ヲ表シタル大牙及ビ神戟ヲ樹テ、侍衛兵ヲシテ之ヲ掌ラシメ、レツナ河上ニ陣シケルニ、匈加利人ハ、河ヲ渡テ、曼軍ノ後ニ出デ、弓手ヲ以テ、波希米ノ兵ヲ襲ヒ、矢ノ降ルコト繁キハ、雨ノ如ク、戰ノ激スルヲ疾キハ、風ノ如ク、波希米ノ兵之ヲ支フルヲ得ズ、輜重ヲ棄テ、走リケリ、オソ之ヲ見テ、コンラドニ命ジ、フランコニヤノ騎兵ヲシテ之ヲ擊タシメ、ツガ、兩軍奮戰、龍虎ノ相嚙ムカ如ク、流血淋漓々トシテ、杵ヲ漂ハシ、積屍累々トシテ、山ヲ築ク許ナリキ、匈加利ノ史ニ據レハ、此役ヤ其兵

六万人ナリシガ、生キテ家ニ歸リ、敗報ヲ告ゲタリシモノ、唯ダ七人ノミ、然レ、是レ亦鼻ヲ截レ、耳ヲ傷ケラレタリト云ヘリ、オソハ勝利ヲ得シカ、其兵士ノ死スルモノ、亦少カラザリキ、是戰、オソノ雄畧、一世ノ傑出シ、其威、日耳曼ニ振ヒ、是レヨリ後、匈加利人、大ニ之レニ畏服シ、今ニ至ルマデ、兵ヲ擧ケテ、日耳曼本部ヲ侵セシ、ナカリキ、

オソ已ニ匈加利人ヲ掃攘シ、更ニ日耳曼ノ外敵タル、スラボニア人ヲ循撫シ、之レヲシテ、全ク日耳曼ノ政令ヲ奉セシメタリ、又オソノ長子ロドルフハ、父ノ命ヲ奉シ、兵ヲ率テ、伊太利ニ入り、ベレンガリユスヲ攻メシガ、病ニ罹テ死シ、ベレンガリユス再ダヒ勢ヲ得、人民ヲ抑壓シタリケレハ、國人援ヲオソニ乞ヒヌ、オソ乃チ兵ヲ率テ、伊太利ニ入り、進テ、巴威里ニ至リ、遂ニベレンガリユスヲ廢シ、再タビ伊王ノ位ヲ兼テ、巴威里ヨリ羅馬ニ至リシニ、法王約翰十二世、帝冠ヲ捧ケテ之レニ與ヘタリ、實ニ紀元九百六十二年ナリキ、其後羅馬人約翰十二世ノ驕侈ニ苦ミ

之ヲ廢セシメテヒシカバ、オソ再々ビ羅馬ニ入り、約翰ヲ廢シテ、レオ
 八世ヲ立テ之レニ代ラシメタリキ、
 オソハ伊太利全國ヲ平定シ、其末年ニ及ビテ數年此地ニ駐リ、其羅馬ニ
 在リシキハ、常ニワヂカシ（羅馬法王ノ宮殿）ニ住セリ、抑モ日耳曼王ノ帝
 號ヲ稱セシハ、オソヲ以テ、第一ト爲シ、其父顯理及ビ先朝コンラド（查列
 曼ノ子孫）ハ、皆法王ヨリ帝冠ヲ受ケザリシカバ、唯ダ王ト稱スルノミニ
 テ未ダ帝ト稱スルヲ得ズ、故ニ伊太利ノ史家皆之ヲ稱シテ王ト云ヒ、
 日耳曼諸帝ノ内ニ列セシヲナシ、オソ帝冠ヲ受ケシヨリ帝王ノ分、自ラ
 定マリ、日耳曼王ガ議院ノ選擇ヲ受ケテ、以太利及ビ羅馬ノ王タルモノ
 ハ、之ヲ稱シテ王ト云ヒ、既ニ議院ノ選擇ヲ受ケ、伊太利、羅馬ノ王ト爲リ、
 又帝冠ヲ受ケタルモノハ、之ヲ稱シテ帝ト云ヘリ、
 オソ紀元九百七十三年五月六日ヲ以テ殂ス、オソ英武絶倫、兼テ治國ノ
 才アリ、末年民富ミ國豊カニ、且ツ當時ハルツ林邊ニ於テ、銀坑ヲ鑿出シ

マリケレバ、國家益々富饒ト爲レリ、日耳曼ニ於テ銀坑ヲ得クルハ、是ヲ
 始ト爲ス、

第七章

オソ二世 || オソ三世

オソ二世年十九ニシテ父ノ位ヲ嗣ク、オソ、レツド（赤ノ義）ト號ス、性聰敏
 ニシテ武アリ、オソ位ニ即シヤ、巴威里侯顯理（リ）叛セシカバ、オソ兵ヲ率テ
 テ之ヲ征シ、遂ニ之ヲ擒ニシタリキ、翌年佛王ロテルノ弟查列斯兄ノ威
 チ藉リ、兵ヲ率テロルレーンヲ侵シ、謂テ曰ク || 我佛國ノ兵馬ヲシ
 テ日耳曼全國ノ河流ヲ飲ミ盡サシメン || トオソ亦大言シテ曰ク ||
 || 我葉帽ヲ以テ佛蘭西全州ヲ覆ハン || ト是ニ於テ兩軍遂ニユーズ
 ラシキベルニ奮戦セシガ、結局オソノ勝利ニ歸シヌ、查列斯ヲシテ臣屬

オソ二世 || オソ三世

ノ禮ヲ執ラシメ之ヲロルレインニ封シ、兵ヲ退ケシメタリキ、
 此時羅馬人クレセンチユス自ラ統領ト稱シ、法王ボニツエース六世ヲ
 廢シ、ボニフエース七世ヲ立テケルニ伊太利人、オソノ義ヲ慕フモノア
 リ、是ニ於テオソ直ニ羅馬ニ入リ、宴ヲ聖彼得寺ノ前庭ニ開キ、盡ク羅馬
 ノ貴紳ヲ招キ、其反兆アルモノヲ捕ヘテ之ヲ死刑ニ處シ、遂ニ伊太利ヲ
 鎮定シタリ、是ヨリ先キ、希臘帝セオハニヤノ嫁賞トシテ地ヲ割キテオ
 ソニ與ヘント約シタリシニ希臘人之レヲ拒ミ、約ヲ破ラント謀リシ
 カバ、オソ乃チ兵ヲ發シテ伊國ノ南部ニ入リ、希臘及ヒ撒拉生人ノ兵ト
 戰ヒ、大ニ敗績シ、快々トシテ樂マズ、九百八十三年ヲ以テ崩ス、年二十九、
 オソ三世三歳ニシテ父ノ後ヲ嗣キ、祖アデライダ、母セオハニヤ之レカ
 傳タリ、然ルニ此時オソ二世ノ葬事未タ終ラザルニ、巴威里侯顯理幼主
 オソノ位ヲ篡ントセシガ、貴族輩之レニ應スルモノナクメンツノ大僧
 正ウヰルリヂス其巨魁ト爲リ、顯理ヲ征討スルニ決シタリ、顯理大ニ驚

キ、遂ニ幼主ヲ返シ、更ニ臣屬ノ誓ヲ取リテ僅ニ其ノ國ヲ失ハザルヲ得
 得タリ、

〔ウヰルリヂスハ車匠ノ家ニ生レ、大僧正ト爲ルニ及ビテ車輪ヲ以
 テ其官章ト爲シ〕 *“Willers, forget not mine origin.”* ウヰルリヂス汝ノ初生
 ナ忘ル、ト勿レト銘シタリキ、

オソケルベルトノ教ヲ受ケ、幼ヨリ聰明學識大ニ進ミ、世人贊嘆皆之ヲ
 稱シ「プロデヂー」……prodigy……ト號セリ、年十五、萬機ヲ親裁シ、法王ヨリ
 帝冠ヲ受ンガ爲ニ、日耳曼ヲ發シ、羅馬ニ至リ、遂ニ法王ヨリ帝冠ヲ受ケ
 歸途羅馬人法王ヲ將トシ、公然反旗ヲ翻ヘシケレハ、オソ還テ羅馬ニ入
 リテ法王ヲ廢シ、其師ケルベルトヲ立テ、之ニ代ラシメ、シルヴユステル
 二世ト稱セリ、
 オソ殂シ、撒遜家ノ子孫殆ト絶ヘ、其存セシモノハ、唯ダ巴威里ノ顯理一
 人ノミ、顯理ノ父顯理オソノ幼時ニ當テ、其位ヲ篡ンヲ謀リシ人ニシ

テ此ニ至テ、子顯理正統ノ故ヲ以テ、位ニ即ント欲シタルニ之ヲ拒ムモノ頗ル多カリシカレ、遂ニ日耳曼全國ヲ平定シ、千四年朗罷地ノ王冠ヲ受ケ、千十四年、法王ノ允許ヲ得テ帝號ヲ稱シ、妃クテグンダト共ニ帝冠ヲ受ケ羅馬ニ至ルヲ前後三次ニ及ベリ、

第八章

コンラド二世—顯理三世

顯理二世死シテ、撒遜家ニ位ヲ嗣クヘキモノナカリシカハ、更ニ其嗣ヲ選ハシカ爲ニマユンストオフヘンヘームノ間ナル萊因河畔ニ於テ議院ヲ開キタリ、其選ニ當ルヘキモノ二人アリ、皆其名ヲコンラドト云ヒ同シクフランコニヤ兼カリシヤ侯オソノ孫ニシテ、一人ハオソノ長子(伯爵)一人ハ次子ノ子(侯爵)ナリ、コンラト伯年猶少ク、コンラト侯年既

ニ長ケ、共ニ輿望ヲ得タリシガ、衆遂ニコンラト伯ヲ選ヒタリキ、コンラト伯號シテ「サリツキ」(「サリ」ハ家ノ義)ト云フ、

コンラト即位ノ初メ、先ツ國內ヲ巡幸シ、諸侯ノ驕傲ヲ制シ、次テ伊太利ニ至リ、帝冠ヲ受ント欲セシニ、伊人ハ「巴」ニ佛王ノ子ヲ立ント欲シ、明日其式ヲ行フニ決セシ時ナリケレハ、如何ゾコンラトノ命ニ應スヘキ、堅ク「パウ」ヤヲ守リテ之ヲ拒ミタリキ、コンラト、パウ「ヤ」ニ止ルヲ、殆ト過年初メテ羅馬ニ向ヒ進ムヲ得タリ、斯テ羅馬ニ達シ、壯麗ノ禮ヲ用ヒテ、其妃「デレサト」共ニ帝冠ヲ受ケ、ホル「ゴン」ヂー王「ロドルフ」斯干的那維亞兼英王「カニユート」皆此盛禮ニ陪シ、カニユートハ其女ヲ以テコンラトノ子ニ妻ハシ、コンラトハカニユートニスクレスウ「ヤ」ツクヲ與ヘテ同盟ノ好ヲ表シタリキ、

コンラト多ク良法ヲ制定シ、令ヲ發シテ曰ク—凡ソ邑ヲ有スルモノハ、大ト小トヲ論セス、父子相授クルヲ許ス(王ヨリ邑ヲ受ケタルモノ

ハ、此限ニ非ス。凡ソ邑ヲ受タルモノ罪ヲ犯ス。アラハ、位階之ニ均シキモノヲシテ會審セシムヘシ。邑ヲ與ヘタル諸侯之ヲ專決スルコトヲ許サス。凡ソ邑ヲ受ケタルモノ告訴スル所アリテ邑ヲ與ヘタルモノ、裁判ニ服セザレハ、之ヲ帝ニ控訴スルヲ許ス。ト此法ハ、第一ニ之ヲ伊太利ニ行ヒ、次ニ日耳曼ニ及ボシタリキ。又コンラドノ世、ボルゴンデールヲ併セタリ、當時佛稜斯^{フロレンス}、ドーヒニ、サヴォーノ全州其他ヘルヴエシヤノ數郡皆ボルゴンデールニ屬シタリケレハ、此等ノ州國皆日耳曼ノ所轄ト爲リス。

コンラド千三十九年ヲ以テ殞ス。其子顯理三世年二十二ニシテ位ヲ嗣ク。ブラツクト號ス。顯理性勇武ニシテ畧アリ。當時伊太利數部ニ分レ、三法王ヲ立テシガ、各法王皆耶蘇ノ代理ト稱シ、相爭ヒテ決セザリキ。顯理、波希米、ボルゴンデールノ反賊ヲ平グ大ニ偉名ヲ得タリシカバ、遂ニ伊太利ニ入り、裁判人ト爲リ、詳ニ各法王ノ爭訟ヲ聽キ、盡ク三法王ヲ廢シ

曼人クレモント二世ヲ立テ、法王ト爲ス大ニ威權ヲ擴張シタリキ。千五十六年佛王顯理一世、ボルゴンデール及ビロルレインヲ領スベシト主張シタリ。曼王單騎之ト戦ント欲シ、アイヴオイスニ於テ、手鎧ヲ脱シテ、之ヲ地ニ投シ、佛王ヲ挑ミケルニ、佛王之レニ應セズシテ止ミタリキ。此年顯理三世瘡疾ニ罹リテ歿ス。顯理、威權赫々、法王ヲ抑制シ諸王ヲ威嚇セシ。日曼諸帝中、未ダ顯理ノ如キモノアラザリキ。
 (千四十六年、顯理將ニ羅馬ニ至シトス。路ニ一隱士アリ、飄然一詩ヲ賦シテ之ヲ獻シタリキ、其詩ニ曰ク、

Una sunamitis

Nupsit tribus:

Rex Henrice,

Omnipotentis vice

Solue connubum

Triforme, dulium.

コンラド二世 顯理三世

スナミに女あり……………

一婦よして三夫……………

大王ヘンリー……………

獨靈の神に代り……………

此三夫の婚を離せ……………

スミナ女ハ以テ法王ノ位ニ譬ヒ、三夫ハ以テベチデクト九世シルヴ
エスタル三世グレゴリー六世ニ比セシナリ

第九章

顯理四世(其上)

顯理四世年甫メテ五歳ニシテ父ノ位ヲ嗣ギ、母后アグチス其政ヲ攝ス、
アグチス性温良ナレバ、剛毅ノ質ニ乏シク、到底治國ノ器ニ非ズ、四方ノ

諸侯其機ニ乗シ、跋扈黨ヲ結ビテ王家ノ威權ヲ殺キ、人民ノ自由ヲ抑ヘ
タリシモアグチス耶蘇教ニ拘泥シ、專ラ寛裕ヲ以テ之ヲ處シ、實ニ反賊
ヲ宥メタリシノミナラズ、之レニ高官ヲ授ケテ歡心ヲ買ヒタリシモノ、
擧ナシト爲サレリキ、

アグチスノ寵臣、顯理、性清廉ナレバ、事ヲ處スルハ酷ニ過ギ、常ニ妃ノ寛
裕ヲ以テ、事ヲ誤ルヲ見テ、之ヲ矯正シタリケレバ、其所爲、妃ノ所爲ト相
反シ、一寛一猛、政令齟齬シ、益々民心ヲ失ヒ物情洶々タリキ、フコログチノ
大僧正、ハンノ奇計ヲ以テ、母后ヲ廢セント欲シ、耶蘇ノ祭日、母后及ビ顯
理四世ヲ萊因河ノ一嶋インペロルスアイスルニ饗シ、宴ヲ終ルニ及ビ
テ幼主ヲ騙シ、游船ニ乗ラシメ、之ヲコログチニ送り、ハンノ之レガ傳ト
爲リ、僭シテ攝政ト爲レリ、
ハンノ國人ノ或ハ己ヲ罪センコトヲ恐レ令ヲ發ンテ曰ク、凡ソ僧正
區ノ行在所ト爲ルモノハ、該區ノ僧正區タルベシ、ト、然レバ貴族ノ

輩己チ歴倒セントチ慮カリ、ブレメンノ大僧正アデルベルトノ助チ得
 ント欲シ、之ト約シテ曰ク、若千年間、共ニ政ヲ攝シ、期滿ツレバ、卿ノ
 區ヲ以テ行在所ト爲サソ、ト是レヨリ兩人、政權ヲ掌握シ、各々其性
 ノ僻スル所ヲ以テ、互ニ政ヲ施シタリケレバ、一方ハ至嚴ニ失シ、一方ハ
 至寬ニ失シ、ハンノハ僧侶ノ嚴行ヲ以テ、顯理ニ教ユレハ、顯理忽チ忿戾
 ト爲リ、嚴師ヲ怒ルノ色アリ、アデルベルト之ニ反シテ、驕奢ヲ以テ之ヲ
 教ユレハ、顯理俄ニ放逸ノ人ト爲リ、心ヲ怠リ、行ヲ破リ、轉變一ナラズ、紀
 綱大ニ亂レ、其所爲皆兒戲ニ屬ス、

千六十三年、顯理、攝政アデルベルトト共ニ兵ヲ率テ匈加利人ヲ伐チ、
 大ニ之ヲ破リシカバ、アデルベルトヲ信ズルヲ益々篤ク、其舊師ハンノ
 ヲ輕視セリ、アデルベルト益々王ニ媚ビ、親ラ寺院ノ金銀珠玉ヲ取リテ
 官女ノ粧飾ヲ助ケ、猶宮費ニ給スルニ足ラザリケレバ、近國ノ人民ニ
 課シテ之ヲ補ヒケリ、是ニ於テ怨嗟ノ聲、囂々トシテ全國ニ喧シク、コ

ロクチノ大僧正、マエンスノ大僧正ト謀リ、全國ノ貴族ヲトリブルニ會
 シテ之ヲ議シ、顯理ヲシテ、自ラ其位ヲ避ケシムルニ非ザレバ、其寵臣
 アデルベルトトヲ逐ハシムルニ決シタリキ、然レモ顯理寵臣ヲ棄ルニ忍
 ビス、夜ニ乘シテ國章ヲ取リ、トリブルヲ去ント謀リシモ果サズ、是ヨリ
 再々ビ議院ヲ開キ、顯理ヲシテアデルベルトヲ逐ヒ、伊太利スーザノ女
 ベルサヲ娶ラシメント決シタリケレバ、顯理遂ニ新妃ヲ携ヘ、快々トシ
 テ、コスラルニ歸リス、

顯理マエンスノ大僧正ト約シテ曰ク、卿若シ我カ爲ニ法王ニ説キ、
 我カ離婚ノ許可ヲ得バ、我卿ノ爲ニ師ヲ出シ、卿ヲ助ケテスリンチヤチ
 征スベシ、ト大僧正之ヲ首肯シ、之ヲ法王ニ説キシカ、正聽カレザリ
 キ、ベルサ性温粹ニシテ、終始貞順ヲ以テ之ニ事ヘ、其虐待ヲ恨マザリケ
 レハ、顯理頗ル之ニ感化セラレ、益チ得ル所亦少カラズ、然ルニ千六十九
 年アデルベルト再々ビゴスラルニ至リ、顯理忽チ復々之ヲ驕シタリケ

レハ其品行全ク舊ノ如ク放淫ト爲リス、
 是レヨリ先キ顯理屢々撒遜人ヲ苦シメタリシガ此ニ至テ撒遜人公然兵
 チ率ヰテハルツホルク城ニ迫リ要求シテ曰ク——臣等ノ陛下ニ請ハ
 シト欲スルモノ三アリ陛下ノ築キタル撒遜ノ城砦ヲ撤シ都ヲ遷ス
 一ナリ陛下ノ囚ヘシ所ノ撒遜人マクナスヲ解ク一ニナリ奸臣ヲ放ツ
 一三ナリ若シ陛下之ヲ聽カザレバ臣等義亦陛下ヲ以テ君ト爲サズ
 〓ト顯理恐懼ノ餘策ノ出ツル所ヲ知ズ唯マ面從ヲ以テ反者ノ怒ヲ慰
 メケリ而シテ顯理ハヘルスヘルドニ至リ撒遜ノ貴族ト相會シタリシ
 ガ撒遜人ハ陰ニ王ヲ廢シテスワウヤノロドルフヲ立ントセリ然ル
 ニ諸所ノ商人義ニ仗リ産ヲ投シ主家ヲ翼戴スルニ決シウオルムスノ
 人民先ツ顯理ヲ迎ヘ回復ノ軍ヲ起シ遂ニ撃テ撒遜人ヲ破レリ、
 撒遜人ハ顯理ノ爲ニ破ラレタレバ心之ニ服セズ之ヲ法王グレゴリー
 七世ニ訴ヘシニ顯理モ亦我臣民ノ己レニ服セザルヲ以テ之ヲ法王ニ

訴ヘタリシガグレゴリーハ王權ヲ殺シハ今日ニ在リト思ヒ乃チ顯理
 ノ罪ヲ數ヘ之レ廢シテ羅馬ニ來ラシメ且ツ顯理ヨリ官ヲ買ヒタル諸
 僧正ヲ放チ其宗門ヲ禁シタリケレバ顯理大ニ怒リ曼國ノ僧正ヲウオ
 ルムスニ會シグレゴリーノ罪惡ヲ數メテ其職ヲ放チタリキ此報羅馬
 ニ達スルヤ否ヤヅレゴリー令ヲ發シ顯理ノ耶蘇宗門ヲ禁シ其臣民ニ
 許シテ之ト君臣ノ義ヲ絶タシメ且ツ顯理ノ位ヲ奪ヒシニ顯理初メハ
 グレゴリーノ狂暴ヲ冷笑シタリケレバ幾モナシ曼人多ク已レニ叛キ
 タルニ由リグレゴリーノ威力善ク曼國ヲ壓倒シタリシヲ知リテ漸
 ク畏ルノ色アリキ、
 顯理ハ一大英斷ヲ施シ法王ハ職ヲ褫ヒタレバ善後ノ策ナク今ハ節ヲ
 屈メ法王ニ謁シ其教ヲ得ント欲シ千七十六年ノ冬、沍寒凜烈ノ候貞妃
ベルサト共ニ一兒一僕ヲ携ヘテセニス山路ヲ過ギ峨々タル万仞ノ亞
爾伯山ヲ越エ万死千艱ノ中ヨリ一生ヲ求メ漸ク朗罷地ノ暖地ニ下ル

「ナ得、遂ニ辭ヲ卑クシ、使テ法王ニ遣ハシ謁見ヲ乞ヒシガ、グレゴリー
 傲慢不屈、毫モ畏ル、所ナク、初メハ之ヲ拒ミタレ、遂ニ之ヲ聽シ、顯
 理ハ帽履ヲ脱シ、頭ヲ露ハシ、足ヲ傷リ、且ツ謝罪式ニ用ヒル所ノ髮ニテ
 製シタル襯衣ヲ着シ、カノツサニ赴キシニ、衛士之ヲ令シテ曰ク——汝
 前庭ニ立テ聖父ノ汝ヲ見ルヲ待ツベシ——ト顯理之ヲ奈何トスルコ
 能ハズ、其命ノ儘、寒風飛雪ノ侵スニ任セ、露頭洗足ニテ前庭ニ佇立シ食
 ハザルコト三日三夜、法王僅ニ嚴譴ヲ免シ、再タビ宗門ニ復セシカ、猶之
 ヲ要シテ他日法王自ラ議長ト爲リ、日耳曼ノ全國會議ヲ行ヒ、顯理ヲ位
 ニ復スルヤ否ヲ決定スル迄ハ、國王ノ政ヲ執ルコトヲ行ハザルコトヲ約セ
 シメタリキ、

第十章

顯理四世(其下)

日耳曼ノ貴族輩ハ顯理ノ國ニ在ラザルコトヲ機トシ、スリヴギヤ侯ロド
 ルフヲ立テ、顯理カノツサヲ去リ、本國ニ歸ントスル途上ニ於テ之ヲ
 聞キ、ロドルフノ篡奪ヲ問ント欲シ、己ニ歸リ、議院ヲウオルムスニ開キ、
 ロドルフヲ以テ大逆ト爲シ死刑ニ處スベシト決シタリキ、
 (此時顯理ビユールンノ啡哩特ニスワグザ侯國ヲ與ヘ、寡婦ナル母
 后、アグチスヲ以テ之レニ妻ハシメ啡哩特「ホーヘンストーヘン」ノ城
 ヲ築ク、是レヨリ其子孫皆「ホーヘンストーヘン」ヲ以テ姓ト爲シ、名ヲ
 史上ニ輝カシタリキ)

此時、日耳曼ハ、土崩瓦解ノ勢ヲ生ゼントセリ、顯理ハ、聖僧ベートルノ兵
 (グレゴリーノ兵)トスリンデヤ林ノ南西角ニ戰ヒ、勝敗ヲ決セザリシ
 ガ、顯理ノ一軍ロドルフノ爲ニ破ラレタリ、己ニシテ顯理復ロドルフノ

敗ル所トナリケレバ、グレゴリー乃チロドルフヲ立テ、王ト爲シ、帝璽ノ顯理ノ手ニ在ルヲ以テ、別ニ帝冠ヲ製シ、之レカ銘ヲ爲リテ曰ク

“Petra dedit Petro, Petrus diadema Rudolpho”

ト之ヲロドルフニ與ヘ、永ク法王ノ臣屬タランコトヲ約セシメタリキ、是ニ於テ顯理ハ再タヒ令ヲ發シ、グレゴリーヲ廢シラヴエンナノ大僧正ヲ立テ、之ニ代ラシメ、之レヲクレメント三世ト稱セリ、

千八十年顯理兵ヲ率キテ、イルストル河上ノグロナニ於テロドルフノ軍ト會シ、ロドルフ右手ヲ斫ラレテ地ニ倒レシガ遂ニ死セリ、(ロドルフ右手ノ斫ラレタルヲ見テ、悵然トシ曰ク)——此手即チ是レ我カ天ヲ拜シテ顯理ト君臣ノ盟ヲ爲セシ所ナリ、其斫ラルモ亦宜ナル哉、凡ソ我ヲ誘ヒテ此盟ヲ破ラシメタルモノハ、亦安ゾ、皆神罰ヲ蒙ラザルヲ得シヤ

—— This is the hand which was once raised to swear fealty to Henry, May God's vengeance pursue the traitors who tempted me to commit perjury.”) 此役ヤロドル

フノ軍稍々利ヲ得タリシカニ、其大將ヲ失ヒタルヲ以テ潰散スルニ至リヌ、顯理啡哩特ヲシテ、内乱ヲ鎮定セシメ、親ラ兵ヲ發シ、グレゴリーヲ征センカ爲ニ伊太利ニ入り、進ミテ羅馬城ニ至リ、之ヲ圍ムコト三年、此間顯理陣中ニ於テ或ル大僧正ヨリ冠ヲ受ケテ、曼帝ノ位ニ即キヌ、己ニシテ城遂ニ陥キリ、グレゴリー勢支フルコトヲ得ズ、夜ニ乘シテサレルノニ走リケリ、顯理クレメント三世ヲ、聖僧彼得ノ位ニ即カシメ、更ニ其手ヨリ帝冠ヲ受ケ、兵ヲ退キタリ、

(グレゴリー諾曼人ヲ率キテ羅馬ニ入りシモ、其市街ヲ劫掠シタルヲ以テ、又逐ハレテサレルノニ退キヌ、グレゴリー尋テ死ス、其辭世ノ語ニ曰ク)—— “I have righteousness and hated iniquity — therefore do is die in exile.” —— 我正直ヲ貴ヒテ邪曲ヲ賤メリ、是レ我カ漂蕩シテ死ス

ル所以ナリ、)

顯理ノ伊太利ニ在ルヤ、曼人ルキセンボルグノヘルマンヲ立テ、王ト

ナス、世人之ヲ蒜ガリツク、キケン王……Garlik King……ト名ク、(其之ヲ選ビシ地イ
 スレベンノ傍ニ蒜ノ繁茂セルヲ以テ、之ヲ嘲リシナリ)ヘルマン初メ顯
 理ト争ヒシガ、遂ニ之ト和ヲ講シテ其位ヲ避ケタリキ、
 クレゴリーニ繼テ法王ト爲リシモノハオルハン二世ト稱シ、其議論ク
 レゴリーニ異ナラズ、其黨顯理ノ長子コンラドヲ誘ヒ父ニ抗シテ兵ヲ
 舉ゲシメタリ、顯理屢々諭スニ順逆ヲ以テセシカレ、更ニ悔ユル色ナカ
 リケレバ顯理議院ヲ開キ、コンラドヲ廢セント議決セシニ由リ、コンラ
 ド大ニ失望セシガ幾モナクテ死シタリキ、當時顯理、法王ト相争ヒシ
 ガ、パスカル二世オルハンニ繼ギテ法王ト爲リ、復タ顯理ノ宗門ヲ禁ゼ
 シニ、顯理ノ第二子顯理、儲嗣タリシガ、父ノ不幸ヲ見テ、大ニ喜ビ借シテ
 王ト稱シ、兵ヲ起シ、老帝マエンスニ於テ議院ヲ開キ、其ノ冤ヲ訴ヘント
 欲セシカバ、逆子顯理、詭計ヲ用ヒテコブレンズニ於テ相見ノヲ約シ、
 遂ニ父ヲ捕ヘテ、ピンケン城ニ禁錮シ、之ヲ要シテ禪讓ノ書ニ記名セシ

メ、王位ニ登リ、之ヲ顯理五世ト稱ス、
 顯理、貧窶殊ニ甚シク、其鞋ヲ賣リテ僅ニ口ヲ糊スルニ至シガ、ロール
 ン侯深ク之ヲ傷ミ、兵ヲ起シテ、逆子顯理ヲミユース河上ニ破リ、其勢威
 ヲ復セントスルニ際シ、レーシニ於テ崩シタリキ、
 顯理四世、小才ヲ以テ大局ニ當リ、内ニ謀臣ナク、外ニ勁敵アリ、而シテ王
 ノ所爲、漫書徒設、或ハ之ヲ急躁ニ失シ、或ハ之ヲ懦弱ニ失シ、毫モ一定ノ
 識見ナク、一定ノ政畧ナシ、故ニ或ハ法王ヨリ王位ヲ奪ハレ、或ハ其子ヨ
 リ帝冠ヲ褫ハレ、毎事機ヲ失シ、毎事策ヲ失シ、適々戰勝アリ、英斷アリシ
 ト雖、其結局落魄窮寒自ラ給セザルニ至ル、嗚呼、憐ムヘキ哉、

第十一章 第一十字軍

十字軍ノ役始メテ起リタルハ顯理四世時代ニアリ、當時耶蘇教徒、以爲
 ラク聖地ハ神子ノ教ヲ説キ身ヲ殺シタル地ナルヲ以テ、一タビ其地ニ
 詣リテ禮拜スルキハ必ス天ノ冥福ヲ享クベシト、初メ亞刺比亞人ノ耶
 路撒冷府ヲ有スルヤ、耶蘇教徒ノ感情如何ヲ知り、當ニ其禮拜ヲ禁セザ
 リシノミナラス、却テ教徒ヲ助ケテ寺院并ニ病院等ヲ設立シタリキ、後
 ナ土耳其人高加索山中ヨリ出テ、聖地ヲ領スルニ至リシガ其種族慄
 悍ニシテ耶蘇ノ墳墓ヲ辱メ、教徒ヲ捕ヘ、其暴虐殊ニ甚シカリキ、事直ニ
 歐洲ニ傳ハリシモ、當時法王グレゴリー七世、顯理四世ト兵ヲ構ヘシ際
 ナリケレハ之ヲ援フニ違ナク、又東帝アレキシスヨリモ慘狀ヲ報シテ
 救ヲ請ヒタリシカトモ之ニ應スルコト能ハザリキ、
 其後ヤオルバン二世、立テ法王ト爲ルニ及ヒ、アレキシス再ヒ使ヲ遣シ

テ救ヲ乞ヒヌ、適々ペイトル、ヘルメットト云フ者アリ、ヘルメットハ桑
 門ノ義ナリ、逃レテ以佛ノ各地ヲ巡リ、揚言シテ曰ク、
 聖靈予ニ夷狄
 ナリ、頗ル辨才アリ、慷慨悲歌四方ニ遊説セシカハ、人民爲ニ感激涙ヲ揮
 テ奮起スルニ至レリ、オルバン、ペイトルノ志ヲ成サント欲シ、伊太利ノ
 ビアセンザニ於テ宗門會議ヲ開キタルニ、會スルモノ、頗ル衆シ、家ノ以
 テ容ルコ足ルモノナキヲ以テ外庭ヲ以テ議場ニ充ツルニ至レリ、時ニ
 土耳其人君士但丁堡ノ對岸ニ陣シタレハ、アレキシス亦使ヲ遣シテ援
 ナ乞ヒ其使モ亦此會ニ臨メリ、法王ハ會衆ニ向ヒ慨然トシテ東帝國ノ
 援ハサルヘカヲサルヲ説キシカハ、衆皆憤然トシテ命ヲ奉セシヲ誓
 ヒタリキ、千九十五年オルバンハ亞爾伯山ヲ越ヘ、佛國ニ入リ、宗門會議
 ナオーヘルンノクレシモントニ開キシニ、期ニ及ヒテ會スルモノ、幾千
 ナルヲ知ルヘカラス、内ニ大僧正十四人、僧正ニ百二十五人、住持四百人

アリキ)郊外ニ於テ會議ヲ開キオルバン起テ説テ曰ク——醜夷我カ聖地ヲ侵シ、憚ル所ナク聖墓ヲ穢シ、教徒ヲ苦ム、汝會衆善ク我カ命ニ從ヒ此ノ醜夷ヲ掃蕩セヨ、——ト意氣慷慨聞クモノ覺ニス感憤セザルモノナカリキ、乃チ出兵ノ準備ヲ整ヒ赤氈ヲ裁シテ十字ヲ造リ之ヲ肩頭ニ附シテ以テ表章ト爲セシガ、佛、英、以等ノ人民來リテ軍ニ從フモノ多カリキ、然ルニ貴族ノ輩ハ皆以爲ラク一時烏合ノ衆ニシテ素ト兵事ニ嫻ハサレハ其敗ル、ヤ必然ナリト、之ヲ蔑視シ、其敗ル、ヲ待チテ自ラ土耳機人ノ猖獗ヲ制シ功名ヲ專ニセンヲ期シ敢テ其軍ニ從ハザリキ、千九十六年春ペートル及ビウオルター(ウオルターハペートルノ副將ナリ)ノ兵萊因河ヲ渡リ日耳曼ニ入ル、日耳曼人常ニ佛人ヲ敵視セシカ、今又其兵卒ノ貧窶ナルト兵伏ノ粗惡ナルトヲ見テ輕侮ノ念ヲ起シ其募ニ應スルモノナク唯々之アルハ或ル寺院ノ住持二人ノミナリキ、十字軍初メ匈加利ニ進入セシガ大ニ其土人ノ擊破スル所ト爲リテ、全軍殆

ント殲ントセリ、日耳曼人ハ此時ニ至ルマテ十字軍ヲ以テ漫ニ狂暴ノ所爲ヲノミ爲セシガ其ノ去ルニ臨ミテ其精神行爲ヲ追想シ、漸ク欽慕ノ心ヲ生ヲタリキ、桑門ゴツツチヨ一ク、僧ウオルツマル、レーニンゲン侯イミチヨ一等機ニ投シテ臣屬奴隸ノ徒ヲ率ヰテ、トレイヴスコログ子、マエンス等ヲ襲ヒ、猶太人一万二千人ヲ殺シ、進テ匈加利ニ入リシニ亦土人ノ破ル所ト爲リ死スルモノ無算ナリキ、烏合ノ衆ハ皆破レタリキ、是ニ於テ歐洲各國ノ貴族輩ハ我カ功名ヲ成スノ秋至レリトテ各軍備ヲ爲シタリケリ、其最モ有名ナルモノハロース、ウエル、ロルレーン侯、バイルロン、ノゴットフレ、及ヒ弟フランドルス侯、バルドゥ、ウ、佛國王ノ弟ヒユ、ド、ヴェルマンドイス、英國王ノ弟諾曼的侯、ロツベルト、ダレント侯、ボーマント等ニシテ勇將ノ名アルタルト、侯ノ甥クンクレットモ亦之ニ從ヘリ、ロルレーン侯ハ八万人ヲ率、匈加利ヲ經テ、君士但丁堡ニ至ル、ヒユンド、ヴェルマンドイス、佛國ノ

精兵ニ將トシテ先ツ此ニアリ、諸軍亦漸ク相會セシカハ十字軍ノ兵殆
 ノト六十万ノ多キニ至リ、就中佛兵最モ多カリシヲ以テ東方諸國皆呼
 テ「フランクス」ト稱シタリキ、乃チ「フィルロン」ノゴツトフレイヲ推シテ
 元帥ト爲セシカ、ゴツトフレイ性端嚴ニシテ武畧アリ、善ク其任ニ堪ヘ
 大ニ衆望ヲ得タリ、是ヨリ先キ東帝アレキシス、タレント侯ボーマンド
 ト隙アリゴツトフレイ之ヲ調停シ兵ヲ率ヰテ海ヲ涉リ、小亞細亞ニ入
 リペートル、ヘルメツトニ會セリ、此時ペートルノ兵ハ既ニ匈加利人ノ
 敗ル所ト爲リ存スルモノ甚タ少ナカリキ、乃チ兵ヲ進メテバイシニヤ
 ノナイス府及ヒイテツサ府ヲ拔キ之ヲタレント侯ボーマンドニ與ヘ
 次ニアンテオク府ヲ圍ミシニ、府民善ク拒キ、攻撃頗ル苦ミシカ、敵中欸
 チ通スル者アリテ遂ニ之ヲ破レリ、然ルニ十字軍ノ餘痛未タ全ク復セ
 ザルニ乘シ、土耳其機ノ大軍一時ニ襲撃シ、攻圍數重、軍中糧食全ク盡キ將
 ニ降ヲ乞ハントス、偶マ一僧アリ、ペートル、バルセルミート云フ、衆ヲ勵

シ大呼シテ曰ク——夢ニ我ニ告グルモノアリ、此府ノ古寺ニ、救世主ノ
 磔鎗ヲ藏ム、若シ之ヲ得ハ必ス敵ヲ破ラン——ト因テ大ニ索メテ一古
 鎗ヲ地中ニ得タリケレハ之ヲ壁上ニ建テ、以テ十字軍ノ牙旗ニ代フ、
 是ニ於テ全軍大ニ勢威ヲ挽回シ、突出シテ土軍ヲ衝キシガ、其銳鋒當ル
 ベカラス、土軍多シト雖、遂ニ大ニ敗走セリ、十字軍追躡シテ兵ヲ進メ
 シニ途上飢餓疾病交々至リ、加フルニ敵ノ攻撃止ム時ナカリシト雖、
 終ニ遙ニ耶路撒冷ヲ望ミ之ヲ拜スルヲ得タリ、時ニ疾病戰鬪ニ由テ
 兵ヲ喪ヒ、剩ス所ハ唯騎兵六千五百人步兵二万人ニ過キザリシト云フ、
 然ルニ敵ハ四万ノ大軍ヲ擁シテ、耶路撒冷ノ堅城ニ據ルモノナレハ、長
 途ノ疲兵ヲ以テ之ヲ攻ムルモ決シテ勝算ヲ期スヘキ望モ見エサリキ、
 一日ペートル、ヘルミツト耶蘇ノ死處ナルオリヴス山ニ登リ、慨然トシ
 テ大義ノ存スル所ヲ説キ、以テ其ノ軍氣ヲ勵シ、乃チ兵ヲ發シテ攻戰ス
 ル一二日敵兵善ク拒キシカトモ十字軍ハ深ク神助ヲ受クルヲ信シテ

少シモ屈撓セザリキ、忽チ軍中流言アリ、オリグス山上ニ神使現ハレ
 盾ヲ把テ耶路撒冷ヲ指スモノ、如シト全軍益々奮ヒ、吶喊シテ進ミ、之
 ナ拔ケリ、敵兵猶ホ屈セス、死屍山ヲ築キ流血杵ヲ漂スニ至テ初テ退ク、
 是ニ於テ十字軍ハ脱帽解履、聖墓ノ前ニ詣リ、其神助ヲ謝セリ、
 十字軍既ニ耶路撒冷ヲ得シカハ會議ヲ開テ耶路撒冷ヲ以テ一王國ト
 爲シ、ゴットフレイチ推シテ王トセシカ、ゴットフレイチ辭シテ之ヲ受ケ
 ス、唯聖墓守護ノ任ヲ帶ヒタリキ、イデツサ、アンテナリチ以テ二侯國ト
 シ、ボーモンド及ヒゴットフレイチノ弟バルトウインチ、以テ之ニ封セリ
 後二年ニシテゴットフレイチ卒シ其弟バルトウインチ之ヲ嗣キ後チ病院
 武社等ヲ起シテ外教ヲ防キ永ク聖墓ヲ守ランコト誓ヒタリキ、

第十二章

顯理五世 || コンラト三世

是ヨリ先キ顯理五世位ニ即キ、兵ヲ率テ亞爾伯山ヲ踰エテ羅馬ニ入
 リ、法王パスカル二世ヲ要シテ其僧官ヲ進退スルノ權ヲ奪ヒシカ、羅馬
 ナ去ルニ及ヒ、羅馬人遂ニ法王ヲ要シテ盡ク顯理ノ約ヲ絶チ、其宗門ヲ
 禁ゼシメタリ、千百二十二年、顯理再ヒ法王ト約シ、各々其權限ヲ定メ、僧
 正ヲ選任スルコトハ、該僧正區ノ僧徒ヲシテ之ヲ撰舉セシメ、帝或ハ親ラ
 之ニ臨ミ、或ハ代理員ヲ遣ハシテ之ヲ監セシメ、若シ選舉ニ就キ爭論ヲ
 生スルコトアレハ、之ヲ聽斷シ、既ニ僧正ヲ選ブキハ先ツ之ヲシテ曼帝ト
 君臣ノ義ヲ誓ハシメ、次テ法王僧官ノ表章トシテ指環及杖ヲ附與シ任
 官セシムルコト、セリ、ウオルムスノ約即チ是ナリ、
 其後チ顯理崩シサリ一家系此ニ至テ絶ヘタリ、初メ顯理子ナキチ以テ
 遺書シテ位ヲ「ホーヘンストーヘン」家ニ讓レリ、然ルニ顯理ノ訃國中ニ

傳播スルヤ否ヤ全國ノ貴族、後嗣ヲ選定セント欲シ萊因河ノ左岸ニ集
 マリス、時ニ日耳曼ニ四強國アリ、撒遜尼、スワビヤ、フランコニヤ、及巴威
 里是レナリ此四國ノ兵會スルモノ、大凡ソ六万人、乃チ選擇ノ方法ヲ定
 メ、四國各貴族十人ヲ選ヒ、更ニ各一人ヲ選ハシメ、其當選者四人ヲ以テ
 選帝官ト爲シ、以テ後嗣ヲ選舉セシム、然ルニ先帝ノ義弟スワビヤ侯「ホ
 ーヘンストーヘン」ノ啡哩特力無禮ナルヲ以テ之レヲ措キ、更ニサプリ
 ンブルク侯撒遜尼ノロテールヲ選舉シタリキ、ロテールノ位ニ即クヤ、
 其ノ兄弟スワビヤ侯啡哩特力フランコニヤ侯コンラド、其他「ホーヘン
 ストヘン」家ノ黨與ト相争ヒシカバ、帝ハ法王ノ援ヲ求メンカ爲メニ、彼
 ノウオルムスノ約ヲ廢シ、帝王ヲ廢立スルノ權ヲ法王ニ與ヘタリ、法王
 乃チ之ヲ無窮ニ傳ヘント欲シ其宮壁ニ畫クニ曼帝ノ法王ノ足下ニ跪
 ク狀ヲ以テシ之ニ題シテ、曰ク、
 國王永ク法王ノ臣屬トナレリ
 、「(“Rex home fit papae” that is “The king becomes the popes man (or vassal)”)

ロテール在位ノ間ハ常ニ啡哩特力及ヒコンラトト兵ヲ構ヒシカ千百
 三十五年ニ至リ、初メテ約ヲ結ヒテ兵ヲ解キタリキ、後二年ロテールハ
 亞爾伯山ノ一農家ニ於テ崩シ日耳曼全國之レヨリ兩黨ニ分裂シ一ハ
 「ウエルフ家」ノ一族ニシテ巴威里兼撒遜尼侯「ヘンリー」セプラオトヲ助
 ケ法王モ亦之ニ與セリ、一ハ「ウエーブリンゲル」家ノ一族ニシテ「ホーヘ
 ンストーヘン」家ヲ保護セリ、「ウエーブリンゲル」族ユブレングズニ於テ會
 議ヲ開キ「ホーヘンストーヘン」ノコンラドヲ選ヒテ日耳曼王ト爲シケ
 レハ、ヘンリーセプラオド大ニ失望シ、コンラドニ抗スヘキ乎、之ニ從フ
 ヘキ乎、暫ク其進退ヲ決スルヲ能ハザリシガ、遂ニ帝璽ヲコンラドニ獻
 シ永ク位ヲ争ハザルヲ表シタリキ、然ルニコンラドハ令シテ諸侯ノ兩
 國ヲ兼有スルヲ禁ジ、ヘンリーヲ命スルニ撒遜尼ヲ棄テソトヲ以テセ
 シカバ、ヘンリー大ニ怒リ之ト君臣ノ義ヲ絶テタリ是ニ於テコンラド
 令ヲ發シテヘンリーノ所領ヲ沒收シ、巴威里ヲ埃太利ノレオポルトニ

與へ、サキソニ一チアシハルトノアルベルト、ゼ、ビールニ與へタリキ、然ルニ巴威里、及スワビヤ兩國ノウエルフ家ノ臣屬ハ、皆力チ君家ノ爲ニ盡シ、ウエープリングル家ト兵チ構へ、ヘンリーノ弟ウエルフハ、ウルテシブルグノウエースホルグ府ニ入り、之ニ守レリ、コンラト之チ圍ミケレ、凡ク下スヲ能ハザリシカ、己ニシテ城中力盡キテ降チ乞ヒ、且ツ約シテ曰ク——府中ノ婦女ハ一切之チ殺スヲナク、且ツ毎婦其力ニ應シテ所有物チ負擔ソ出ルヲ得ン——トコンラト之チ容レケレハヘンリーノ夫人及ヒ其他ノ婦人モ各々其夫チ負ヒテ出テヌ、コンラドノ兵之チ見テ大ニ憤リ、コンラトニ謂テ曰ク——彼レ取テ陛下チ欺ク請フ之チ捕ヘン、——トコンラト性寛厚其ノ夫妻相愛ノ情ニ感シテ之チ用ヒス、曰ク——帝王ハ言チ食マス——トテ、之チ却ケタリキ、後幾モナクシテヘンリー崩シ、日耳曼再ヒ治平ニ至リケリ、』

コンラトハヘンリーノ子ヘンリー、ゼ、ライチンノ心チ慰メント欲シ之

チ撒遜尼ニ封シ、兼テ地チアルヘルト、ゼ、ビールニ與へ其地チサキソンマ一チスト稱ス、千百四十九年、ホワイト、サンデイ祭ニ當リ、コンラド十字軍ヨリ歸ル、後三年、ウエルフ、那不見ノローゼルトト共ニ反チ謀リシカハ、コンラド之チ征セント欲シ、偶々毒ニ中リテ死セリ、コンラド常ニ自ラ戒ムルノ銘アリ曰ク——少ク言ヒ多ク省ル——……“Pauca cum aliis, multa tecum loquere”——Speak little to others, much to thyself……

第十三章

第二十字軍

曼國ハ、紛々擾々トシテ内乱ニ苦ムモノ、大約五十年ノ久シキニ至リケレハ、人民皆聖地ノ事チ忘ル、ニ至リシガ、千百四十四年聖地ヨリ速ニ十字軍チ起スニ非ズンハ、醜夷ノ爲ニ再ヒ聖地チ蹂躪セラル、ニ至ル

ベシトノ檄ニ接シタリキ、是ヨリ先キ、バルドウ、サント一世及ヒ二世ノ時ニ於テ撒拉生人耶蘇教徒ノ已カ卿里ニ殖民スルヲ見テ大ニ之ヲ惡ミシモ、默シテ耻ヲ忍ヒシカバルドウ、サント三世位ニ即クニ及テ、年少ニシテ駕御スルノ術ヲ知ラス、諸將校互ニ權ヲ爭ヒ諸侯驕傲ヲ極メ神堂武社不遜ヲ極メ、兄弟牴ニ鬩キシカハ、撒拉生人機ニ乘シテ起ント謀レリ、此時ニ當リ、回教徒ハ四方ニ巡回シテ、耶蘇教徒ヲ掃蕩センヲ論セシカハ、土耳其機人大ニ奮起シ諸所ニ結社ヲ設ケ、其目的ヲ達センヲ期シタリキ、就中最モ著シキモノヲ刺客社ト云ヒ、長チオールドマン、チブ、マオンテント稱ス、常ニ耶蘇教徒ヲ刺殺スルヲ以テ目的トセリ、又拔克達士ノ蘇爾丹ヲゼンキト稱ス、桀驁ニシテ武略アリ、千百四十二年遂ニ大軍ヲ率井テイデツサヲ拔ケリ、イデツサ既ニ陥リ、耶路撒冷モ亦危急ノ域ニ陥リシカハ、其報歐洲諸國ニ傳ハリ、人心洶々タリ、法王ユージェニユス三世ハクレール、ヴオーノペルナルドヲ遣シ、耶蘇教徒ヲ説キ第二十

字軍ヲ擧ケンヲ勉メタリキ、佛王路易七世ハ直ニ之ニ應セシモ曼帝コンラドハ白ラ決スルヲ能ハス、會議ヲスパイルスニ開テ、之ヲ貴族ニ謀リケルニ、ペルナルドハ自ラ之ニ臨ミ、神壇ノ下ニ立テ、耶蘇ノ洪恩無量ナルヲ説キ、醜夷ヲ掃フハ其教ヲ奉スルモノ、義務ナルヲ論セシカハ、コレラ大ニ感激シ覺エズ呼ンテ曰ク、我正ニ神恩ノ至大ナルヲ知ル、豈傍觀スルモノナランヤ、ト千百四十七年ノ春チ以テ師ヲ出ス、トニ決セリ、發スルニ及テ、コンラドノ兵大凡六万ニ至リ、其保護ニ依テ聖地ニ詣ルノ禮拜者ハ實ニ夥シカリキ、既ニ匈加利ヲ過キ、ヘルレスボンド海峡ニ達セシ時、該地ノ風光明媚愛スヘシ、因テ暫ク陣ヲ止メ、聖母降誕祭ヲ行ハントセシニ、忽チ暴雨沛然トシ驟ニ至リ、河流悉ク漲溢シテ、十字軍ノ陣營ハ、一大湖水ト爲リ、兵馬糧食殆ント流失シ、禮拜者ノ死スルモノ、千ヲ以テ數フルニ至レリ、幾モナクシテ十字軍ハ、其軍旅ヲ整ヒ、亞細亞ノ地ニ入リシニ、嚮導者ノ欺ク所トナリ、曠地ニ路ヲ失

セシカハ、糧水兩ラ絶ヘテ飢渴ニ迫レリ、加フルニ炎熱熾クカ如ク、爲ニ死スルモノ甚タ多カリキ、十字軍ハ斯ノ如ク辛苦ヲ嘗メテ、僅ニアイコニユームノ近傍ニ達セシニ、忽チ土耳其人ノ圍ム所ト爲レリ、此日會々日蝕シテ四顧凄冥殺氣空ニ横ハル、十字軍更ニ屈セス、勇ヲ鼓シテ數倍ノ敵兵ニ當リ、遂ニ圍ヲ破リシカ、奮戰ノ間死スルモノ甚タ多ク、殘兵僅ニ七千人ヲ剩セシノミ、コンラドモ今ハ力盡キテ敗兵ヲ収メテナイスニ退ケリ、此時佛王路易ハ曼軍ノ大捷ヲ小亞細亞ニ得タルヲ聞キ共ニ功名ヲ競ハント欲シ、兵ヲ進メテナイスニ在リ、厚クコンラドノ勞ヲ慰メシカ、佛軍ハ痛ク曼軍ノ敗レタルヲ嘲笑セリ、然ルニ數日ノ後佛軍モ亦土人ノ破ル所トナリテ兵ヲ退ケシカハ却テ曼人ノ爲メニ笑ハル、ニ至リス、此時コンラドハ病ヲ得テ、憂悶措クヲ能ハス、遂ニ君士但丁堡ニ退キ、次テ路易ト共ニ海ヲ航シテ、アンテオクノ側ニ上陸シ、兵士甚タ少ナカリシモ、兩王更ニ屈セス兵伏ヲ把テ巡禮者ニ帶ハシメ、クマスカ

スノ堅城ヲ擊テ一撃勝ヲ得タリシモ、軍紀嚴肅ナラズシテ、士卒相爭ヒ、希臘ノ亦反ヲ謀リシカハ、已チ得ス、圍ヲ解クニ至レリ、

第十四章

啡哩特力一世

コンラド三世病篤シ、其子猶幼ナリシヲ以テ、選定官ニ勸メテ其甥啡哩特力ヲ選舉セシメタリキ、
啡哩特力ハコンラドノ兄弟スワヅヤ侯啡哩特力ノ子ニシテ、母ハ巴威里ノヘンリー、ゼ、ブラツクノ女チユデスナリ、父ハ即チウエーブリンゲル家ニシテ、母ハ即チウエルフ家ナリ、是ヲ以テ、人民啡哩特力ヲ選テ位ヲ嗣カシムルキハ、多年兩家ノ紛擾モ亦解クヘシト信シ、遂ニ之ヲ選舉セリ、後五日、即位ノ禮ヲユース、ラ、シヤヘルニ於テ執行セリ、實ニ千五

百五十二年三月十日ナリキ、

啡哩特力狀貌魁偉、白哲美髮、一個ノ美丈夫ナリキ、清眸炯々、一見敬畏ノ念ヲ生セシムルモ、風采爛雅、亦掬スルニ足ルモノアリ、即位ノ時年正ニ三十少ニシテ十字軍ニ從ヒ、万苦ヲ嘗メ功ヲ奏スルヲ數々ナルヲ以テ名聲夙ニ高シ、性臨機果斷事ヲ處スルニ敢テ人ヲ恃マズ、常ニ曰ク、我カ發スル命令ハ決シテ一朝ノ暴慮ニ出ツルモノニアラス、必ス熟思、後ニ發ス、ト其一クビ令スル所ハ必ス之ニ從ハシメ毫シモ假借スルヲナカリキ、

啡哩特力ハ宗教ヲ信セリ、然レトモ法王ノ人心ノ自由ヲ束縛シ、天下ヲ統御セントスルヲ喜ハサリキ、然ニ遠ニ争フノ不可ナルヲ知り、内國ヲ平定シテ後伊太利ニ入ラントシ、其世讎タル撒遜尼侯ヘンリ、ゼ、ライオンニ巴威里ノ地ヲ與ヘ、以テ内訌ヲ斷テ、遂ニ法王ニ抗セントシ、兵營ヲコンスタンヌニ設ケタリキ、瑞士國ノ人民來テ軍ニ從ヒ、朗罷地ノ

ロデー府モ亦使ヲ遣シテ、ミラン人ノ殘暴ヲ訴ヘ、之ヲ征センヲ乞ヘリ、啡哩特力先ツ使ヲミランニ遣ハシテ之ヲ責メ、ロデー人ノ損害ヲ償フヘキヲ命シケルニ、ミラン人之ニ從ハザリケレバ、其翌年大軍ヲ引率シ、亞爾伯山ヲ越ヘテロンガグリヤ原ニ陣ヲ張り、令ヲ傳ヘテ曰ク、日耳曼帝國ノ臣屬タルモノハ速ニ來リテ臣禮ヲ行フヘシ、若シ命ヲ用ヒズンハ、直ニ其地ヲ収ムヘシ、トミラン人大ニ恐レ使ヲ遣シテ銀四千「マルクス」ヲ獻シ、別ニ請フ所アリシカ、啡哩特力之ヲ聽カズ、ミランノ同盟トルトナ府ヲ陷レシカハ、朗罷地ノ諸府皆來リテ臣禮ヲ執レリ、乃チ兵ヲ進メテ羅馬ニ入り、帝冠ヲ受ケントフ、時ニ羅馬人民兩黨ニ分裂シテ相争鬪セリ、一ハ即チ法王黨ニシテ、一ハ共和黨ナリキ、共和黨ノ首領ヲブレシヤノアルノルドト稱セリ、兩黨互ニ使ヲ遣シテ援ヲ求メシニ、啡哩特力素ト法王ノ驕傲ヲ惡ムト雖、宗敎ヲ信スルノ念ハ深カリシカハ、遂ニ法王ニ與ミシ、羅馬ニ入ルノ後、一日ニシテアルノルドハ

縛ニ就キタリ、啡哩特力ノ羅馬ニ入ルヤ、府民皆色ヲ失ヒ、敢テ抗スルモ
 ノナシ聖彼得寺ニ於テ法王ヨリ帝冠ヲ受ケ即位ノ禮ヲ行ヘリ、啡哩特
 カ一日宮ニ入リロテイルノ法王ノ足下ニ跪拜スルノ圖ヲ見テ直ニ之
 ナ毀テ、法王ニ謂テ曰ク、上帝我カ帝國ヲ興シ、命シテ寺院ヲ支持セ
 シム、寺院之ヲ察セス、却テ帝國ヲ覆サントナ謀ル、卿既ニ是ヲ以テ我ヲ
 踐マント欲シ、之ヲ盡ニ寫シ、書ニ筆ス、果シテ何事ゾ、若シ永ク好ヲ結ハ
 ント欲セハ、此書此書ヲ毀ツヘシ、ト偶マ府民ノ叛スルアリ、啡哩特
 力之ヲ征シ、進ミテ諾曼人ヲ征シ、歸テ亞爾伯山ニ伊太利ノ兵ヲ破リ、日
 耳曼ニ歸レリ、

既ニシテ日耳曼全國靜謐ニ歸シタリケレハ、啡哩特力ハボルコンデー
 侯ノ女ヲ娶リ、疆域ヲ四方ニ拓開セリ、又波蘭王噠馬王ヲシテ臣禮ヲ行
 ハシメシカハ、啡哩特力ノ名四方ニ轟キ、日耳曼ノ隆盛前代未ダ嘗テ其
 比ヲ見サリキ、遂ニ英國王顯理二世ノ如キモ書ヲ送リテ兩國ノ交誼ヲ

厚クセシメテ請ヒ、臣禮ヲ取ルモ厭フ所ニアラス、ト云フニ至ル然ルニ
 獨リ以太利ハ未ダ全ク服從セサリシカハ、千百五十八年大軍ヲ率テ
 ミラン府ヲ圍ミ、遂ニ臣禮ヲ行ハシメタリ、已ニシテ法王アドリヤン四
 世漸ク啡哩特力ノ寺院ヲ壓制スルヲ憤リ、僧侶ヲ煽動セシニ由リ、上以
 太利ノ僧侶往々之ニ應シ、ミラン府民モ、啡哩特力ノ重斂ヲ怒リテ叛セ
 リ、啡哩特力又之ヲ攻撃シテ二年ニ涉リシガ、ミラン人糧盡キ力竭キテ
 遂ニ軍門ニ降レリ、
 啡哩特力ノ以太利ヲ征スルヤ、法王アドリヤン薨セシガ宗門上院兩黨
 ニ分レ、ウエーアリンゲル黨ハヴヰクトル四世ヲ選ヒ、ウエルフ黨ハア
 レキサンドル三世ヲ選ヒシニ、啡哩特力ハヴヰクトルノ選ヲ允可シタ
 リキ、是ヲ以テ其後アレキサンドル三世ノヴヰクトル四世ニ嗣テ法王
 ト爲ルヤ、令ヲ發シテ啡哩特力ノ宗門ヲ禁セシカバ、千百六十七年啡哩
 特力兵ヲ率テ羅馬ニ入リ、アレキサンドルヲ廢シ、ヴヰクトルヲ立テ

タリ時ニ蒸暑焚シカ如ク瘧疾流行シ、兵士死スルモノ多カリシカハ、啡哩特力大ニ其兵員ノ減セシコトヲ憂ヒ、兵ヲ退ケテ亞爾伯山ニ至リシニ、朗罷地人叛キテ、其歸路ヲ絶チ、大ニ啡哩特力ノ兵ヲ窘メケリ、一夜スルニ次セシニ夜闌ニシテ敵兵俄ニ襲ヒ、刺客數人直ニ啡哩特力ノ寢處ニ迫リシガ、啡哩特力僅ニ虎領ヲ脱シテ曼國ニ歸リタリキ、千四百七十四年、啡哩特力又兵ヲ率テ伊太利ニ侵入シ、朗罷地人和ヲ媾シ、伊太利遂ニ平和ニ歸シケレハ、マエンスニ於テ頗ル壯麗ナル「ホワイト、サンダイ」祭ヲ行ヒタリキ、翌年啡哩特力其ノ子ノ爲ニ那不兒、西齊里國ノ嗣女コンスタスヲ娶リ、遂ニ其二國ヲ併セ、伊太利ノ南部ヲ掌握シ、以テ法王及ヒ朗西地ヲ制セリ、法王大ニ憤リ將ニ爭端ヲ啓カントスル勢ニ迫リシカ、偶々耶路撒冷既ニ外教徒ノ爲ニ奪ハレタリト聞キ、遂ニ戰爭ニ及ハザリキ。

第十五章

第三十字軍

初メ耶蘇教徒ハ、漸ク儉安ニ慣レ、優柔風ヲ爲シ全ク往古ノ氣象ヲ失セリ、而シテ土耳其機ノ兵勢、日ニ盛大ニ赴キタリ、時ニ埃及兼ダマスカスノ蘇爾丹サラデン性急激ナレトモ善ク道ヲ守リ、軍ニ臨テ勇敢亦善ク禮節ヲ重ンセリ、當時耶蘇撒冷ノ王ヲガイ、ド、ルシグナント稱ス、一日サラデンノ母耶路撒冷ノ兵ノ爲ニ捕ハレシカハ、サラデン大ニ怒リ使ヲ遣シテ其兵士ヲ刑セシコトヲ要求セシニ、耶路撒冷王之ヲ容レザリシヲ以テ、サラデン兵ヲ發シテ耶路撒冷ヲ伐チ、途上耶蘇教ノ兵ヲ破リ、斬首千百級進ミテ耶路撒冷王ヲ擒ニシ、彼ノ加害者ヲ斬リ、千百八十七年十月三日、全軍吶喊シテ耶蘇教徒ノ建テタル神殿上ノ十字ヲ拔ケリ、耶蘇教徒ノ耶路撒冷ニ入リシヨリ、此ニ至テ八十八年ナリキ、耶路撒冷陥落ノ報歐洲諸國ニ達スルヤ、英佛兩王主トシテ兵ヲ起セリ

啡哩特力齡既ニ七旬ニ達セシモ豪氣猶未タ衰ヘス書ヲカラデシニ送
 リテ戰ヲ挑ミ、君士但丁堡ニ至リ海ヲ涉リテ土耳其人ト戰ヒ大ニ之ヲ
 破リ、斬首無算ナリ、キ啡哩特力進ミテアルメニヤニ至リシ時川アリ、一
 小橋ヲ架セリ、幅狹クシテ兵ヲ渡スニ時ヲ費ス、久カリケレバ、啡哩特
 力倦ムニ堪ヘズ自ラ馬ニ鞭チテ川ヲ涉ラントセシニ憐ムベシ忽チ水
 底ニ沈溺セリ、兵士大ニ悲ミ、愁傷慈母ヲ喪ヒタルガ如クナリキ、巴威里
 侯啡哩特力兵ヲ整ヒ、進テ戰ヲ開キシカ是レ亦病ニ罹リテ死シ、其兵皆
 曼國ニ歸リタリキ、

爾後曼國ハ、寺院ノ威權日ニ加ハリ、人民ノ迷信益々甚シク殊ニ貴族ハ
 外軍ニ從ヒ僧侶ハ内ニ止マリシカハ、寺院ノ勢實ニ全國ヲ壓セリ、然レ
 凡十字軍ノ後ハ、貴族皆簾節ヲ貴ヒ、風俗爲ニ一變シ、又亞細亞ノ物産ヲ
 知リシカハ、大ニ貿易ノ道ヲ開キ、曼國南北兩所ニ亞細亞物産貿易所ヲ
 設ケ、市府繁盛、人民殷富、漸ク貴族僧侶ノ抑壓ヲ制シ、各自其權利ヲ全ク

スルニ至リタリキ、

第十六章

顯理六世 非立夫及オソ一世

啡哩特力一世ノ十字軍ヲ起シテ外征スルヤ、其長子顯理ヲシテ一切ノ
 政ヲ攝行セシム、是ヨリ先キニヘンリー、ゼ、ライオンハ罪ヲ得テ他郷ニ
 アリ、期滿チテ曼國ニ歸リシカ、自ラ以爲ラク我罪ヲ得テ流サレタリト
 雖、我有スル所ノ地ハ、乃チ我地ノミ、帝モ亦之ヲ奈何トモスヘキノ理
 ナシ、然ルニ今ヤ之ヲ掠奪ス、彼等ノ無狀此ノ如シ、我誓ヲ破テ自ラ之レ
 カ罪ヲ問ント内地ニ進入セシニ、漢堡等ノ人民壺漿シテ之ヲ迎ヘタリ、
 是レヨリ、バルデウ、井ツク、府ヲ屠リ、其勢實ニ容易ナラザリシカハ、顯理
 軍ヲ發シテハノーブルヲ破リ、ブルンスウ、井ツキ、園ミ、未タ之ヲ陥ル

顯理六世 非立夫及オソ一世

コト能ザリシガ、那不兒里斯本ノ僧侶貴族輩、相謀リテローセルノ庶子
 ナ立テ伊太利王ト爲セリ、(ローセルハ顯理ノ妻父ナリ)顯理兵ヲ轉シテ
 羅馬ニ至リ、法王ヲ要シテ帝冠ヲ受ケ、進テ那不兒里斯本ヲ圍ミシニ、瘡
 疾流行シテ士卒死スルモノ、千ヲ以テ數フルニ至リシカハ、已ムヲ得ス
 兵ヲ退テ、曼國ニ歸リケリ、時ニ先帝啡哩特力ノ弟、コンラド、女アリ、其名
 ナアグチスト稱ス、頗ル容色アリ、アグチスノ母之ヲヘンリー、ゼ、ライオ
 ンノ子、ブルンスウヰツキ侯ニ嫁セシメ、顯理之ヲ許セシニヨリ、(ホーヘ
 ンストーヘン)家ウエルフ家ノ争ハ茲ニ至テ永ク歇ムニ至レリ、ヘンリ
 ー、ゼ、ライオンハ一切世務ヲ抛テ、餘生ヲ風月ニ寄セ、幽居ヲ樂ミ居リシ
 ガ幾モナクシテ死セリ

此時那不兒里斯本ノ僭王タンクレット死セシカハ、顯理之ヲ聞キ兵ヲ
 率テバレルモニ入り、西齊里兼アプリヤ王ノ位ニ即キ、日耳曼ホルゴン
 デー、朗罷地、羅馬、西齊里五國ノ位ヲ踐ムニ至レリ、時ニ千禧百九十四年

ナリキ、顯理、西齊里王ノ位ニ即クヤ專ラ陽ニ寛仁ヲ粧ヒ、政治ヲ施セリ、
 曾テ一僧侶アリ、簡牘數通ヲ携ヘ、王ニ訴ヘテ曰ク、此書ハ皆貴族僧
 侶ノ臣ニ送ル所ナリ、ト顯理之ヲ見、己レヲ弑スルヲ謀ルノ書ナリ
 ケレハ、未タ其書ノ眞贋ヲ知ラサルニ早クモ逮捕シテ以テ之ヲ死ニ致
 セリ、爾來益々酷虐ヲ逞クセシカハ、西齊里人皆恐怖シテ、一人モ抗抵ヲ
 試ムルモノナカリキ、

顯理帝位世襲ノ望ヲ遂ケント欲シ、千百九十五年曼國ニ歸リ、選帝官ヲ
 會シ、賄賂ヲ用ヒ巧辯ヲ逞クセシガ、遂ニ其志ヲ果ス、能ハサリキ、後希
 臘帝位ヲ其弟ニ篡ハレシガ使テ顯理ニ遣シテ請テ曰ク、若シ之ヲ
 諾セハ、帝位ハ其女婿非立夫ニ與フヘシ(非立夫ハ顯理ノ弟)ト顯理
 之ヲ容レ、兵ヲ起シテ之ヲ兩軍ニ分テ、親ラ其一軍ヲ將トシテアプリヤ
 ニ至リ、一日メツシナノ側ニ獵シケルニ、此日炎熱甚クシカリカハ、顯理
 水ヲ掬シテ之ヲ飲ミ、眩暈地ニ倒レテ死ス、訃報至ルニ及ビテ、西齊里、ア

アリヤノ人民大ニ之ヲ祝シタリキ
 顯理六世ノ後ヲ承クヘキモノハ其子啡哩特力ナリシモ、年僅ニ三歳ナ
 リシヲ以テ、物情洵々タリ、千百九十八年三月コログチ、トレーヴスノ兩僧
 侶、ウエルフ黨ノ首領ト爲リ、議シテ曰ク、
 啡哩特力ハ未タ洗禮ヲ受
 ケス、是レ異教ノ人ナリ、宜シク帝位ヲ襲ク可ラス、宜シク聰明雄武ノ人
 ナ選テ曼國ノ政ヲ掌ラシムヘシ、
 又ホーヘンストーヘン家ニ於
 テハ、啡哩特力ノ叔父非立夫其族人ナ會シテ曰ク、
 王子猶幼冲ナリ、
 我將ニ傳トナリテ政ヲ攝行セン、卿等我志ヲ助ケヨ、
 衆皆之ヲ容
 レシモ、尙更ニ熟思スレハ、非立夫ヲシテ攝政セシムルモ、其權猶重カラ
 サレハ、爭乱四ニ起リ、ウエルフ黨機ニ投シテ起タン、如カス啡哩特力ヲ
 廢シ、非立夫ヲ推シテ即位セシメ、ウエルフ黨ヲ制センニハト之ヲ非立
 夫ニ圖リシガ、非立夫大ニ驚キタリシモ事止ムヘカサルヲ知リ、遂ニミ
 ニルホーセンニ於テ、公選ヲ受ケ、立テ王ト爲レリ、然ルニウエルフ黨ハ、

ヘンリー、ゼライオンノ三子ブルンスウヰツキノオソヲ立テタリ、初メ
 羅馬ニ於テハイノセント三世法王トナリシカ、英邁果敢、功名ノ念燃
 エルカ如ク、常ニ曼國ノ圍牆ヲ窺ヒ、心竊ニ之ヲ喜ヘリ、偶々オソ來リテ
 曰ク、
 曩ニ臣カ祖先漫ニ陛下ノ權ヲ殺キ陛下ノ所有ヲ奪ヘリ、臣今
 盡ク之ヲ還シ仰テ臣カ國土ノ主ト爲サン、
 トインノセント答テ曰
 ク、
 王我ニ許ス、此ノ如シ、我豈ニ命ヲ奉セザルヲ得ンヤ、
 ト直
 ニ戰ヲ挑ミシカ、數年未タ兵鋒ヲ接セザリキ、千二百八年ヒリツフ刺客
 ノ爲ニ殺セラレタルヲ以テブルンスウヰツキノオソ曼國ノ王位ニ登
 リ先ツウエープリンケル家ノ心ヲ得ント欲シ、ヒリツフノ女ヲ娶リ、又
 法王ノ心ヲシテ鑿カシメト欲シ、大ニ法王ノ威權ヲ擴張セリ、法王大ニ
 喜ヒ、オソヲシテ即位ノ禮ヲ行ハシメタルニ、府民ハ大ニ怒リテオソヲ
 驅逐セリ、法王傍觀シテ之ヲ制セザリシカバ、オソ大ニ之ヲ怨ミタリ、法
 王初メ之ヲ辯シ且ツ恐嚇手段ヲ用ヒタリシモ、オソ遂ニ命ヲ拒ミシカ

ハ法王遂ニオソノ宗門ヲ禁シ、使テ遣シテ顯理六世ノ子啡哩特力ヲ選
フテ許可セリ。オソ西齊里ニ渡ラントシテ纜ヲ解クニ當リ、曼國既ニ啡
哩特力ヲ選ヒタルノ報ニ接シヌ、實ニ千二百十一年ナリキ。

第十七章

啡哩特力二世

啡哩特力ノ選ハル、ヤ、年甫メテ十八、初メ父顯理ノ死スルヤ、幾モナク
シテ母亦逝キ、孑然タル孤兒ト爲レリ。法王インノセント三世之カ傳ト
ナリ、獎勵誘掖、專ラ其力ヲ用ヒシカハ、百科ノ學悉ク之ヲ習ヒタリキ。啡
哩特力西齊里ヨリ日耳曼ニ至ルヤ、ミラン人兵ヲ伏セテ之ヲ要撃セシ
カハ、僅ニ身ヲ以テ免レ漸ク、マエンスニ達セリ。曼國ノ貴族之ヲ聞キ來
リテ臣子ノ約ヲ結ビタリキ、但シ啡哩特力ノ即位ハ全ク法王ノ力ニ在

リシヲ以テ法王ノ欲スル所ハ皆之ヲ聽カザルヲ得サリキ。即チ寺院ニ
許多ノ權利ヲ附與スルヲ約シ、又法王ノ曼國及ヒアブリヤ兩國ノ王
位ノ一人ニ屬スルヲ欲セサルニ由テ已ムヲ得ズ。西齊里ヲ分テ幼子顯
理ニ與フルヲ約シタリキ。
ブルンスウヰツキ、ノオソハ初メ啡哩特力ノ即位ヲ拒ミタリシモ、遂ニ
抗ス可ラサルヲ察シ、其ノ所領ニ退キ、英王約翰ノ助ヲ得テ、佛軍トブラ
ンデルスニ戰ヒテ敗績タリキ。是ニ於テ益々曼人ノ望ヲ失セリ。法王イ
ソノセント宗門議會ヲ開キテ曰ク、
「オソハ我命ヲ用ヒ其位ヲ失フ、
固ヨリ其所ナリ、啡哩特力ハ能ク我ニ順從ス、宜シク位ヲ與フヘシ、
トオソ之ニ抗スルコト能ハスノ退キシモ、猶帝璽ヲ啡哩特力ニ傳フル
チ肯ンセサリキ。後千二百十八年ニ至リ死ニ臨ミ、遺命シテ之ヲ啡哩特
力ニ贈レリ。啡哩特力既ニ王位ニ即キ、選帝官ニ説キ、其子顯理ヲ以テ儲
貳ト爲シ、後羅馬ニ入リテ帝冠ヲ受ケ、其舊居タルアブリヤニ至レリ。時

ニ法王ヨリ兵ヲ聖地ニ出サンヲ促カサレシカハ千二百二十七年兵
 ヲ募リテ將ニ發セントスルニ當リ、瘡疾大ニ行ハレ兵士死スルモノ多
 カリシヲ以テ已ムヲ得スシテ兵ヲ止メタリキ、時ニ法王亦死シシレゴ
 〇九世嗣キシカ、啡哩特力ノ違約ヲ責メ遂ニ其宗門ヲ禁セシカハ啡
 哩特力大ニ之ヲ憤リシカ、既ニ十字軍ヲ出シタル後ナリケレハ勢中止
 スルヲ得ス遂ニ巴勤斯坦ニ向テ出帆シ耶路撒冷ニ達セシカ啡哩特力
 ハ固ト法王ノ世敵タルホーヘンストヘン家ニ生レ、今法王ノ爲ニ禁門
 ノ苛罰ニ處セラレシカハ心ニ介帶ナキヲ能ハス、是ヲ以テ管ニ戰端ヲ
 開カザルノミナラス、却テ窃ニ回教ノ蘇爾丹ケイメルト相約ノ曰ク、
 〓自今以後、耶蘇教徒回教徒トテ區別セズ、全シク聖墓ニ詣ルヲ得ヘ
 シ、ト啡哩特力外教ヲ待スルヲ甚タ寛厚ナリシカハ、耶路撒冷ノ教
 師長及ヒ神堂武社等皆之ヲ悦ハサリシカ、既ニシテ漸ク平安ニ歸シ啡
 哩特力ハ伊太利ニ歸レリ、是ヨリ先キ法王ハ啡哩特力ノ不在ヲ幸トシ

備兵ヲ募リ、聖僧ベートルノ十字軍ヲ以テ記號ト爲シ、耶路撒冷ノ前王
 シヨンヲ以テ將トシ、兵ヲ率テアブリヤヲ畧シタリシガ、此ニ至テ大
 ニ畏怖ノ念ヲ生シ、先テ爭テ逃レタリ啡哩特力容易ニアブリヤヲ回復
 シタレトモ、法王ノ歡心ヲ得ザレハ事ノ成ラザルヲ知リ舊好ヲ尋カン
 〇ヲ請ヒリ、法王之ヲ拒ミ、且ツ書ヲ日耳曼ノ貴族ニ寄セテ啡哩特力ト
 君臣ノ義ヲ絶ダン〇ヲ命セシニ、一人モ之ニ應スルモノナカリケレト
 法王ハ策ノ出ル所ヲ知ラス遂ニ辭ヲ卑クシテ禁門ヲ解クニ至リタリ
 キ、
 是時ニ當テ、啡哩特力ノ威武赫々トシテ四海ヲ震撼セリ其ノアブリヤ
 ニ居ルヲ數年、其宮殿壯麗ヲ盡シ其園囿艷美ヲ極ム而シテ群臣皆碩學
 茂才多ク啡哩特力亦頗ル詩ヲ善シス、是ヲ以テ花晨月夕諷詠唱和、風流
 ナ樂メリ、啡哩特力嘗テ業ヲミチエール、スコットニ受クスコット才識
 絶世、人或ハ之ヲ魔術者ト稱スルニ至レリ、

啡哩特力、曼國ニ居ラザルヲ十有五年、此間敵國ノ邊境ヲ犯スナク、外
 大ニ疆域ヲ拓開セリ、蓋シ其功、兩武社ハ力ニ由ル、當時武社ニアリ其一
 ナク、クロスエンドス、ウオールド社ト稱スリ、ヴオンヤノ僧正アルベルトノ
 立ツル所ニシテ、イシヨニヤヲ略セリ、一チテウトン社ト稱ス、普漏士ヲ徇
 ヘテ其民ヲ化セリ、當時普漏士ハ蒙昧野蠻ニシテ、馬ヲ食ヒ酒ヲ飲ミ、沈
 醉飽食以テ日ヲ終ヘリ、性慥悍暴虐ニシテ、好ミテ人ヲ殺シ、屢々隣國波
 蘭ヲ窘メリ、波蘭人之レヲ愛ヒ援テ、テウトン社ニ乞ヒケレハ、即チ兵ヲ
 遣シテ之ヲ略有セリ、千二百三十七年、クロスエンドスナルド社モ亦チ
 ウトン社ニ合併セリ、曼國ハ斯ノ如ク、啡哩特力ノ不在中外、大ニ疆域ヲ
 擴張シタリシト雖、内諸侯相闘ヒ争乱止ム時ナク、加フルニ法王亦非
 常ニ暴威ヲ逞タシタリキ、

此時、啡哩特力ノ子顯理父ニ代リテ政ヲ攝セシカ、諛者之ニ説テ曰ク、
 諸侯乱ヲ爲シ、僧徒橫暴ヲ縱ニスルハ、威權ノ重カラザルニ由ル、若カス

自立シテ王ト爲リ、内乱ヲ平ケンニハ、ト顯理之ヲ信シ、千二百三十
 四年、太利侯ノ勇武ヲ聞キ、之ト相結托シ、諸侯ヲ菜因河畔ニ會シ、啡哩
 特力ニ叛カンヲ説キシニ之ニ應スルモノ少ナカリケレハ、事ノ成ラ
 ザルヲ知り、去テ伊太利ニ入り、法王及ヒ朗罷地人ヲ説キシニ、法王其大
 逆ヲ鳴ラシテ之ヲ拒ミ、顯理モ亦兵ヲ率テ曼國ニ歸リシガ、自ラ爲ス
 所ヲ知ラス、千二百三十五年罪ヲ謝ノ爲ニ赦サル、トチ得タリ、後又毒
 チ父ニ進ムルノ罪ヲ得タリカラブリヤニ流サレシカ、千二百四十二年
 遂ニ獄中ニ死セリ、啡哩特力嘆シテ曰ク、我膝未ダ曾テ強國ニ屈セ
 ス、然レトモ今我兒ノ死ヲ聞キ、覺エス心動ク、夫レ人不孝ノ子ヲ生ミ、其
 生ケルヤ其害ヲ蒙リ、其死スルヤ其墓ニ泣ク古今皆然リ、何シ獨リ我ノ
 ミナランヤ、ト

千二百三十五年、啡哩特力、英王顯理三世ノ妹イザベラヲ娶ルイサベラ
 容色秀麗ナリ、三月二十二日ウオールスニ於テ、壯大ナル婚禮ノ式ヲ行ヘ

リ、婚儀了ルノ後、メンツコ於テ議會ヲ開キ、長子顯理ヲ廢シ、第二子コン
 ラドヲ以テ儲貳ト爲シ、令ヲ全國ニ下シテ曰ク——今國家平安ニ屬セ
 リ、自今以後凡ソ他人ノ害ヲ蒙ル者ハ、細大トナク官ニ訟ヘテ處分ヲ請
 フヘシ。私ニ怨ヲ報ユルヲ許サズ、且ツ舊律人ヲ殺スモノハ金ヲ以テ贖
 罪スルヲ得タレトモ、今改メテ凡ソ人ヲ殺スモノハ死刑ニ處スヘシ
 〓ト此令ハ日耳曼文ヲ以テ記シタル公書ニシテ、今世ニ存スルモノ
 之ヲ以テ最モ古シトス

翌年啡哩特力、朗罷地ヲ攻メントシ、回教兵士一万人ヲシテ伊太利ニ入
 ラシメ、又親ヲ兵ヲ率ヰテ之ニ繼キ、ウエープリングル黨ノ兵ト相合シ、
 千二百三十七年十一月二十七日、ミランノ兵トコルテマローワニ戰ヒ之
 ヲ敗ル。是ニ於テミラン人大ニ恐レ使ヲ遣ハシ請テ曰ク——自今以後
 臣永ク陛下ヲ奉シテミランノ王ト爲シ、且ツ兵士一万ヲ募リテ、十字軍
 ニ出スヘシ、希クハ陛下臣等カ既往ノ罪ヲ容サレシトナシ——ト然レモ

啡哩特力ハミランノ久シク命ヲ聽カザリシヲ怒リ、之ヲ聽カザリシカ
 ハミランモ亦帝意ノ回スベカラザルヲ知り、死ヲ以テ諸所ノ城砦ヲ守
 リシカハ、啡哩特力未ダ全捷ヲ得ル能ハザルニ、偶マ法王ト爭テ生シ、遂
 ニミランヲ平クル能ハズシテ止ミタリキ、法王啡哩特力ノ威勢日ニ盛
 ナルヲ見テ之ヲ妬ミ、頻ニ其過失ヲ求メ居リシ適々啡哩特力羅馬寺院
 領ナル薩地厄ヲ征服セシカハ、之ヲ機トシテ使ヲ遣シテ之ヲ讓メタリ
 啡哩特力之レヲ聽カズ、却テ其使ヲ辱メシカハ、法王ハ遂ニ宗門ヲ禁セ
 ノト欲シ、宗門議會ヲ開クノ準備ヲ爲セシカハ、亦啡哩特力ノ爲ニ妨ケラ
 レテ之ヲ果サザリキ、後數月法王薨ス、齡殆ト百歳ナリ、
 此時蒙古人、露西亞、普漏士ヲ蹂躪シ進テシレシヤニ入り、プレスロー府
 ヲ燒ケリ、下ヲレシヤ侯ヘンリ、ゼ、バイオス兵三万ヲ率ヰテ四十五万
 ノ蒙古軍ニ當リ、毫モ屈セス奮戰兩日、尸ヲ戰場ニ曝シ、兵士亦盡ク殲ク
 ルニ至レリ、然レトモ蒙古人顯理ノ兵ノ勇武ニ畏レ敢テ兵ヲ進メス兵

ヲ轉シ南出シ、千二百四十一年、多瑙河上ニ於テ、啡哩特力ノ兵ト會戰セシカ大ニ敗走セリ、法王インノセント、四世、グレゴリー九世ニ嗣キテ法王ト爲リ、啡哩特力禁門ノ令ヲ發シ、千二百四十三年、宗門會議ヲ開キ、議員ヲシテ、皆テデウム、ロータマスノ章ヲ歌ヒ、諸高僧ヲシテ燈ヲ消シ之ヲ呪セシメテ曰ク、啡哩特力カ地上ニ於テ稟クル所ノ榮譽幸福ノ滅スルヲ猶、此燈ノ如ケン、ト啡哩特力之ヲ聞キ、其受クル所ノ冠ヲ集メ、手ヲ其上ニ加ヘテ曰ク、法王ト雖、豈能ク之ヲ奪ハンヤ、ト法王頻リニ金ヲ散シテ貴族ヲ説キ、スリンヂヤ侯ヘンリーヲ選ハシメシカヘンリー俄ニ死シタルヲ以テ和蘭ノ維廉之ヲ嗣ケリ、啡哩特力在世中ハ維廉ヲ助クルモノ甚ク僅少ナリキ、爾來啡哩特力ハ頻リニ災害ニ罹リ、嘗テ埃太利ヲ以テ世々其ノ家ノ有ト爲サンコトヲ謀リシカ、法王及ヒ波希米王オトカルノ爲ニ妨ケラレテ其志ヲ成スコト能ハザリキ、又庶子インジョーハ故アリテポログチ人ノ

爲ニ終身禁獄ノ刑ニ處セラレ、又閣老ペートル、ド、グイテースハ平生ノ恩寵ヲ忘レ、啡哩特力ニ毒ヲ進メ、コトヲ謀リ、發覺シテ獄ニ下サレ、壁ニ觸レテ死セリ、是ヨリ啡哩特力ハ居常快々トシテ喜ハサリシカ、千二百五十年十二月十三日、遂ニヒレンズーラニ於テ愛子マンフレットノ手ニ倚リテ死セリ、啡哩特力在世中受クル所ノ冠合シテ、七曰ク、羅馬帝冠曰ク、日耳曼帝冠曰ク、朗龍地王鉄冠曰ク、ボルゴンデー王冠曰ク、西齊里王冠曰ク、撒地尼王冠曰ク、チヨセーレム王冠是ナリ、

第十八章

ハンサ社

千二百四十一年、曼國諸府力ヲ戮シテ貿易ニ從事セント欲シ、社ヲ立テ、ハンサ社ト名ツク、ハンサハ同盟ノ義ナリ、古來商社ノ數多シト雖、

未タ此社ノ如ク盛且ツ大ナルモノアラズト云フ
 抑モハンサ社ノ起源ヲ尋ヌルニ北海及ヒ波羅的海ノ沿岸府都十字軍
 以來、人口繁殖シ、貿易日ニ盛ナリシカハ、各府相議シテ海軍ヲ備ヘ戰艦
 ナ地中海ニ駛セテ屢々セノア、ビローサ威内斯ノ軍船ト相戦ヒタリキ、當
 時未タ社ヲ結ハス臨時相援フノミナリシカ、此ニ至テ公然社ヲ結ヒ、北
 海ノ海賊其他總テ貿易ノ障害ヲ爲スモノヲ制シタリキ、千三百年代ヨ
 リ、千四百年代ニ至リテ、ハンサ社ノ勢極メテ盛ニシテ之ニ與セル市府、
 凡ソ七十、兵艦三十隻、兵員一万二千人ニ下ラス、而シテ頻リニ北海ヲ橫
 行セシガ、當時ノ強國モ尙ホ之ヲ制スル能ハザリキ、ハンサ社ハ專ラ北
 海ノ商權ヲ得ント欲シ、屢々斯干的那維亞諸國及ヒ英國ト兵ヲ構シ英
 國ト雖モ頗ル之ガ爲ニ制セラレタリ、千二百四十九年、該社ノ將ル
 ツクノ人アレキサンドル、ウオン、ソルトメダルト云フモノ、コッペンハ
 ーゲンヲ掠ノ、當時噠馬領ナルストナルサンドヲ燒ケリ、又同百年代末

「ハンサ社戰艦ヲ送リテ諸威ノ諸港ヲ鎖シ、其ノ軍艦ヲ奪ヘリ、千二百八
 十五年遂ニカルマルノ會ニ於テ專商免狀ヲ得テ、和ヲ講シ、千三百六十
 一年又瑞典噠馬ヲ蹂躪シ噠馬ヲノハンサ社ノ承諾ヲ得ス、其王ヲ選
 フヲ禁シ、又瑞典女王マルガレットヲ要シ、該社ノ舊權ヲ復セシメタリ
 キ、千五百二十八年ルーベツクノ議院ニ於テ路傍ノ著書ヲ集メ悉ク之
 ナ燒ケリ、後二年府民皆豪家ノ專權ヲ怒リシカハ、議院ハ之ヲ恐レテ、宗
 門自由ノ令ヲ發セリ、府民尙慊ラス、直ニ豪家ヲ襲ハントス、議長ニゴラ
 スブルームセルモ之ヲ制スルヲ能ハス去テ援テルーベツクニ求メシ
 カハ、府民ハ議院ヲ廢シテ賤工ヲユールセン、ウルレンウエベルヲ推シ
 テ議長ト爲セリ、ウルレンウエベル既ニルーベツクノ議長ト爲リ、全ハ
 ソサ社ヲ統轄セリ、ウルレンウエベル、勇敢ニシテ大畧アリ、大ニハンサ
 社ヲ振起サント欲シ、波羅的海ノ諸府ト相聯結シテ噠馬ヲ覆シ、其廢
 王クリスタン二世ヲ立テン、ヲ圖レリ、又瑞典王ガスタヴス、ザノ曾

テ「ハンサ社」ノ力ヲ籍リテ位ニ登リタルニモ拘ハラズ、同社ニ反シケレハ之ヲ廢セント欲シ先ツマキスマイヤルヲ瑞典ニ遣シ、人民ヲ煽動シテヴサチ廢シ王族ノ幼兒スチユールヲ立ンテ謀ラシメシモ事全ク齟齬シ志ヲ達セスシテ歸レリ、更ニ命ヲ受ケテ噠馬ニ入り、初メ志ヲ得テ噠馬諸嶋ヲ掠奪シタリシカ、社中ノ豪家ニ奸策ヲ謀ルモノアリテ、全ク其功ヲ奏スルニ至ラザリキ、此ニ至テ曼國政府ハ令ヲ發シテ、ルーベツクヲ國敵トシ、若シ其共和政府ヲ廢セスンハ、直ニ兵ヲ加フヘシト布告セリ、時ニブレメンノ僧正偽計ヲ設ケテウルレンウエベルヲ虜ニシ之ヲブルンスウツキノ暴君顯理ニ與ヘシカハ、顯理之ヲ斬ル、マイヤル又噠馬人ニ降リ乃チ之ヲ斬ル、

「ハンサ社」ハ諸府ヲ四部ニ分チ、每部一首都ヲ置ケリ、第一部ヲ「ウエント」部ト云ヒルーベツクヲ首都トシ、漢堡ブレメン、ロストク、キール、グレーフスハルト、ステツチン、ゴスラント、ウイスハイ等此ニ屬シ、第二部ヲ「ウ

「エステルリング」部ト云ヒコログチヲ以テ首都ト爲シ、和蘭ウエストハリヤノ諸府之ニ屬シ、第三部ヲ撒遜部ト云ヒ、ブルンスウツキヲ首都ト爲シ、アグテベルグ、ハルレハノーフル、イルアルト、ブランデンホルク、ブレスロー、及セオートル河畔ノ扶蘭克佛等之ニ屬セリ、第四部ヲ「イーステルリング」部ト云ヒダントツクヲ首都ト爲シ、フロン、キエーシグス、ボルグライカ等之ニ屬セリ、「ハンサ社」ト諸府ノ外ニ外國ノ四貿易場ヲ有セリ、曰ク「ノブゴロド」曰ク「倫敦」曰ク「ベルゼン」曰ク「アルーデス」此四場ニ出テ、貿易ヲ營ムモノハ多ク特別ノ權利ヲ有シ、商利ヲ壟斷セリ、後チ六百三十年ニ至テ漸ク衰殘ニ歸シ約ヲ解キテ分散シルーベツ漢堡ブレメンノ三府相結シテ更ニ新社ヲ起スニ至レリ、

第十九章

日耳曼空位ノ時代——ロドルフノ治蹟

腓哩特力二世崩スルニ臨ミ遺命シテ其子コンラドヲ以テ羅馬帝兼日
 耳曼王ト爲シ其餘ハ之ヲ族戚中ニ分與シ又法王ニ約シテ曼國諸王ノ
 侵略シタル地ヲ法王ニ返却セリ然レテ法王ハ之ヲ以テ怨ヲ解カス直
 ニ乞僧社ニ命シテ十字軍ヲ起シ之ヲ伐タシメタリキ時ニ荷蘭王維廉
 モ亦コンラドヲ傾ケントシオウベンペームニ於テ奮戰セリ後チ幾モ
 ナクシテコンラド病ニ罹リテ死セリ(或ハ云フ鳩毒ニ遇ヒタリト)コン
 ラト一子アリコンラドセヨンケント稱ス後チ佛王查理斯ノ爲ニ害セ
 ラル維廉ハ勝ヲオツベンペームノ戰ニ得タリシモ其ノ後勢威少シモ
 振ハス曼人ノ爲ニ輕侮セラレテ遂ニ荷蘭ニ退キ千二百五十六年フリ
 ーランド人ヲ征セントシ氷上ヲ涉リ氷破レテ溺死セリ

此時曼國君主ナク選帝官皆利欲ニ迷ヒ王位ヲ賣ラントセリ英王顯理

八世ノ弟コロンケニルノ理查士巨萬ノ金ヲ散シラマエノスノ大僧正
 及ヒ其黨與ニ與ヘ己レヲ選舉セシメタリ當時ノ史ニ徵スルニ理查士
 ノ曼國ニ入ルヤ車三十二乘每車載スル處ノ金概テ一石半馬八頭ヲシ
 テ之ヲ曳カシントリシト云フ曼國ノ狂詩家レオンマル詩ヲ作りテ嘲
 テ左ノ如ク云ヘリ

Die venediger ho'n vernommen,

Dass das Rom'sche Reich ieil sey:

Da sind sie mit Briefen kommen,

Sie wollen gern auch ihre Steuer geben,

Dass es komme in iere Gewalt.

Komm du selber, Antichrist.

Komm, es braucht weiter keiner Frist—

Du findest feile Fürsten, feile grafen,

Gibst du ihnen silber und gold, so wernen alle vein.

And when the men of Venice heard
 The Crown was to be sold,
 Thy sent right trusty messengers,
 Nith babs well filld with gald.
 Nag, had the excursed Antichrist
 His coffers open wide,
 Full many a pines and counts enob
 Hod voted on his side.

日耳曼王位を賣リ、
 威尼斯之を買はんを欲し、
 使を送る皆賢良なり、
 金を貯らす知る幾番ぞ
 如何せんや基督の敵、
 早く既に黄金を散し、
 王公と侯伯と、
 牌を投して此賊を選びしことを。

亦以テ當時士氣ノ腐敗シタル實況ヲ想見スルニ餘リアリトス、
 又カスタイルノアルホンツハ、トレイヅギスノ大僧正及び其黨與ニ各
 銀二万^二マルク^三ヲ與ヘ、已チ選舉セシム、是ニ於テ法王ハ理查土アルホ
 ンツノ争訟ヲ斷スルヲ約セシモ荏苒決セズ、數年ヲ閱セシカバ、日耳曼
 ノ人民其ノ奉スル所ヲ知ラス、民心瓦解シテ曼國百年ノ帝業、一朝地ニ
 墜チントセリ是ヲ曼國空位ノ時代トス、
 千二百七十三年十月二十一日ロドルフ選ハレテ位ニエーズ、ラシヤベ
 ルニ即ケリ、禮ニ陪スルモノ、武士凡ソ二萬人、農商其數ヲ知ラザリキ、是
 ヨリ先キ啡哩特力二世死セシヨリ統御其ノ人ナク、諸侯相争ヒ、争擾已
 マサリシカバ、遂ニ曼國帝璽ノ所在ヲ失スルニ至レリロドルフ乃神壇
 ノ十字ヲ取リ以テ帝璽ニ代ヘ、誓ヲ爲シテ曰ク、
 十字ハ救世ノ表ナ
 リ、自今之レチ以テ帝璽ニ代フ、
 是ニ於テコログチノ大僧正ロド
 ルフヲ法王ニ薦メテ曰ク、
 ロドルフ克ク教ヲ奉シ、能ク寺院ノ友マ

リ、正チ助ケ邪チ伐ツ、獨リ其兵ノ強盛ナルノミナラス、結フ所ノ諸侯亦強大ナラサルナシ、ト法王之ヲ聽キ親ラルルサンチニ來リロドルフヲ見ルロドルフ、法王ノ足下ニ伏シ、細大唯命是レ從フヲ誓ヒタリキ、初メロドルフノ選ハル、ヤ、兵ヲ波希米ニ出シ、オットカルノ不敵ヲ懲罰スルヲ約セシヨリ、千二百七十六年兵ヲ出シテ之ヲ伐タリシニオットカル事ノ危キヲ知リ、敢テ兵ヲ構セズ、埃太利、スタイリヤ、カリンシヤ、カルニヨラヲ割キテ、之ヲ獻シ、臣屬ノ禮ヲ行ハントチ乞ヒシカバ、ロドルフハ、速ニ之ヲ聽納セリ、是ニ於テオットカル多惱河ノ一島ローボニ來リ、ロドルフニ謁シ跪キテ臣禮ヲ行フニ當リ幕ヲ去ラシメシカハオットカル大ニ之ヲ怒リ、再ヒ兵ヲ起シテロドルフト維納ノ側ニ戰ヒ、衆寡甚懸絶セルニモ拘ラズ、縱横奮闘未タ嘗テ敗レサリシカ、適々其ノ嘗テ殘殺シタル所ノ諸侯ノ二子、反シテ之ヲ弑シ、以テ父讎ヲ報セリ、是ヨリ曼國外敵ノ患ヲ絶チ國家漸ク無事ト爲レリ

ロドルフノ勵精治ヲ圖リ、全國ヲ巡遊シテ以テ諸侯ノ暴虐ヲ禁シ、人民ノ冤苦ヲ除キ又羅甸語ヲ以テ政令ヲ行フノ不便ナルヲ廢シ、代フルニ日耳曼語ヲ以テセシカハ、人民皆其德ヲ頌セザルナシ、ロドルフ千二百九十一年七月十五日ヲ以テ崩ス、百姓哀悼シテ已マヌ、今ニ至ルマテ尙ホ其德ヲ慕ヒ其治ヲ稱スト云フ、

第二十章

アドルフス || アルベルト

ロドルフノ長子スワビヤノロドルフ蚤ク死シ、其ノ子約翰嗣位ノ權ヲ有セサリシカバ、選帝官ハ他人ヲ選テ帝ト爲スコト決セシモ、當時選帝官ノ腐敗甚シク、其一人ナルマエンスノ僧、正ゼラルドハ金ヲ同僚ニ賄ヒ、其從弟ナソノアドルフスヲ選舉セシメタリ、アドルフス能ク兵ヲ

用ヒシカトモ、性酷虐殘忍ニシテ常ニ其慾ヲ逞クスルヲ得サルヲ恨
 ミ醉飽度ナカリキ、嘗テ英國王義德瓦爾特一世ヨリ鉅萬ノ金ヲ得、佛國
 ナ攻ムルコトヲ約セシカ、後其約ニ違ヒ、其金ヲ以テアルベルト、ゼ、デセ
 ナレトニ與ヘ地ヲ得テ其世邑ヲ増シタリキ、アドルフス、啡哩特力ニ
 世ノ女マルガレットヲ娶リ殘酷ヲ以テ之ヲ遇シ其所生ノ近ツクヲ
 禁セシカハ、マルガレット別ニ臨ミ其長子ノ頬ヲ噬ミ、其創痕ニ由リテ
 父ノ殘忍ニ報ユルヲ忘レサシメタリキ、後幾モナクシテ死シ、諸子逃
 レテ父ノ殘虐ヲ避ケシモ捕ハレテ獄ニ投セラレ、食ヲ得ス、殆ント餓死
 ニ濱セシカハ、近臣之ヲ哀ムモノアリ、後遂ニ獄ヲ出ルヲ得タリ、諸子
 年猶少シト雖、性雄武ニシテ直ニ兵ヲ擧ゲシカハ、曼國人民ハ皆來リ
 テ軍ニ從ヘリ、アドルフス來リ攻メフレイボルクヲ圍ム、周年地俄ニ沈
 沒シテ多ク兵士ヲ失ヘリ、然レモアドルフスノ兵遂ニ勝ヲ得、諸子支フ
 ルヲ能ハス、逃レテ國ヲ去リヌ、

初メマエンスノ大僧正ゼラルドハアドルフスヲ選フニ盡力セシモ、今
 ヤ其制スベカラザルヲ知リ之ヲ傾ケントテ、選帝官ニ賄ヒマエンスノ
 議院ニ於テ煥太利侯アルベルトヲ選ハシメシカハ、アドルフス遂ニ枕
 ナ高クスルヲ能サリキ、アルベルトハ匈加利王ト相結ヒ先ツ其ノ根據
 ナ固クシ、佛王ヨリ鉅萬ノ金ヲ得テ英曼兩國土ヲ伐タンヲ約シ、大軍
 率非テアドルフストウオルムスニ戰ヒ、伴リテ敗レタルマテシテ退
 キ、却テ之ヲ反撃セシカハ、アドルフスモ今ハ事ノ既ニ破レタルヲ知リ
 縱橫馳突シテ自刎セリ、是ヨリアルベルトハ曼國ノ王タルヲ得タリシ
 ガ、亦酷虐シテ頗ル專制ノ政ヲ喜ヒ、常ニ是ヲ以テ曼國ヲ統御セント欲
 シ僧官及市府ノ權利ヲ剝奪シ、且ツ宮中貴族百人ヲ置キ近衛ト爲セリ
 アルベルト荷蘭ヲ徇ヘント欲シ事成ラス、又波希米、ボルゴンチヲ併
 吞セント欲シテ亦成ラス、後大僧正ゼラルドノ己レヲ嘲ケルヲ怒リ、ゼ
 ラルド及ヒ萊因侯ロドルフヲ傾ケント欲シ、兵ヲ起セリ、ゼラルド大ニ

恐レテ救ヲ法王ニ乞ヘシカモ聽カレザリキ時ニスリンヂヤノ啡理特
力再ビ曼國ニ歸リ、ワールーボルグ城ニ據リシカ、アルベルトノ攻ムル所
トナリテ之ヲ去リシモ、後アルベルトノ兵ヲ破リ、千三百七年遂ニ其國
ヲ恢復セリ、

是時ウリ、スクウヰツ、オンテルウルデンノ三郡兵ヲ擧ケテ反セリ、アル
ベルト大ニ怒リ之ヲ征セントセシカ偶マ其甥約翰ノ爲ニ弑セラレタ
リ初メ約翰其舊地ヲ返サント王ニ求メシニアルベルト之ヲ返サズ、却
テ數々之ヲ辱メシヲ以テ約翰憤怨ノ情禁スルヲ能ハス遂ニ同志ト謀
リテ之ヲ弑セリト云フ、

是ヨリ先キ瑞士蘭諸郡ノ内ウリ、スクウヰツ、オンテルウルデンノ三郡
ハ曼國ノ所屬ナリシカ、アルベルトハ之ヲ以テ、已レノ本領埃太利ニ合
セントセリ、郡民後之ヲ願ハザリシニ埃太利ヨリ遣ハセルウリノ知事
ゲスレル數々之ヲ辱メケレハ、人民憤恚ニ堪ズ漸ク反形ヲ示セリゲス

レル之ヲ輕侮シテ曰ク、
奴輩何事ヲカ爲サソ
ト更ニ人民ヲ憐
服セシメントシ、千三百七年セントヨソノ祭ノ日アルドルンノ市ニ
於テ帽ヲ竿頭ニ掲ケ、令シテ曰ク、
帽ハ是レ曼帝ノ代員ナリ、人民タ
ルモノ、來リテ之ヲ拜セヨ若シ夫レ令ヲ用ヒザレハ其財産ヲ収メ其生
命ヲ絶タソ、
ト一日ゲスレル馬ヲ郊外ニ驅リ、新家ヲ見ル、乃チ主人
ウエルチル、ストーナクニ新家ハ誰ノ有ゾト問ヒシニウエルチル禍ヲ
受ントナテ恐レ辭ヲ卑クシ答テ曰ク、
帝ト閣下トニ屬シ臣ハ之ヲ帝
ト閣下トニ受ク、
トゲスレル之ヲ聞キ我ハ農夫ノ告ケスシテ新家
ヲ作り自ラ主長ノ体ヲ爲スニ惡ムト痛ク之ヲ罵レリ、ウエルチル素ヨ
リ銳敏ナリ、不平ノ黨ト謀リ專制ノ羈轡ヲ破リ、國民ヲ塗炭ニ救ハント
欲シ、ウリノ人ワルテルフルストノ名聲ヲ聞キ、往テ共ニ志ヲ談シ、遂ニ
會ヲ開テ暴吏ヲ逐ハント約シタリキウリノ農夫維廉、
爾方正ニシ
氣力アリ、亦此會ニ與レリ、初メゲスレルノ帽ヲ掲タルキ、數回帽下ヲ過

テ禮セサリシカハ、ゲスレル之ヲ責メシニ、惕爾答テ曰ク、——野民蒙昧ニシテ閣下ノ令ヲ知ラス、此ノ不敬ヲ致セリ、閣下之ヲ察セヨ、——ト惕爾答ヲ用テ名アリ、ゲスレルソノ不敬ヲ罰セントテ、梨實ヲ其子ノ頭上ニ置キ之ヲ射ラシム、惕爾其許サレシヲ請ヒシニ許サザリシカハ、已チ得ス、督ヲ執リ之ヲ射ル、鳴箭一聲其梨ヲ貫テ毫モ兒ヲ傷ケサリケレハ觀者覺ニス、喝采セリ、惕爾猶手ニ一箭ヲ留メシカハ、ゲスレル訝テ之ヲ詰ル、惕爾答テ曰ク、——一矢兒ヲ殺サハ一矢ハ直ニ閣下ヲ射ラント欲スノミ、——ゲスレル大ニ怒リ之ヲ縛シテ小船ニ載セ以テ之ヲ他國ニ送ラントセリ、其纜ヲ解クニ當リ暴風俄ニ至リシカハ、舟師船ヲ行ルヲ能ハス、惕爾素ト舵ニ巧ナリケレハ縛ヲ解テ舵ヲ取ラシム、其ノ岸ニ達スルヤ俄ニ督ヲ取り躍テ陸ニ上リ、其船ヲ蹴ル、ゲスレル及ヒ從者皆水上ニ漂ヘリ、乃チ走テ官道ニ出テ木窟中ニ伏ス、ゲスレル久シク水上ニ漂ヘシカ、辛クシテ上陸スルヲ得、惕爾ヲ索メシニ、惕爾窟中ヨリゲス

レルノ來ルヲ窺ヒ、督ヲ發シテ之ヲ殪セリ、スリウイズノ壯士之ヲ聞キ兵ヲ擧ケテサルチン、ロツベルグノ兩城ヲ拔ク、事ウリニ聞ユケレハ、其人民亦ズウイング、ウリノ新城ヲ毀テ、盡ク埃太利ノ兵ヲ境外ニ逐ヒ、一月六日ブルンチンニ於テ同盟ノ約ヲ定メ、戮力協心、同盟ノ自由ヲ保護シ、兼テ曼帝ニ事アルヲ約セリ、

第二十一章

顯理七世

ルーイス、ゼ、バワリヤン
アルベルト一世ノ死スルヤ、佛王非立夫四世其弟查列斯ヲ立テ、其後ヲ繼ガシメシト欲セシモ、選帝官皆之ヲ拒絕シ、ルキセンホルグ侯、顯理ヲ選ビ、萊因河ノ左岸ブローバクノ傍ナルレーンズノクニグスタルト名クル一小院ニ於テ、曼帝即位ノ禮ヲ行ヒタリキ

顯理深ク諸先帝ノ貪婪ヲ惡ミ、絶テ己ノ所有ヲ増サス、專ラ查列曼啡哩
 特力(ハルハロツサ)啡哩特力二世ヲ以テ標準トシ、全國ヲ統一シ、國力ヲ
 強大ナラシムルヲ期セリ、然レモ、帝室式微諸侯ノ驕横得テ制スヘカ
 ラサルヲ知リ、急ニ諸侯ヲ征シテ力ヲ費サンヨリハ軍口兵ヲ伊太利
 ニ出シ之ヲ助ケテ佛人ノ侵地ヲ復シ名譽ヲ外國ニ振ヒ勢ニ乗シテ歸
 國シ全國ヲ統一スルニ加カズト、將ニ兵ヲ出サントセシニ内事多端遂
 ニ果スヲ能ハザリキ、然レトモ千三百十年ニ至リテ遂ニ伊太利ニ入リ
 シガウエルブリングル黨食壺漿シテ之ヲ迎ヘ佛羅稜斯ノ詩人ザン
 テモ亦來リ速ニ南下センヲ勸メシカ、顯理之ヲ聽カズ、久シク北邊ニ
 留リ、朗罷地ノ諸府ヲ徇ヘ、千三百十一年ノ冬セノアニ至レリ、オーガス
 ナン寺庵ノ僧來リテ罪ヲ宥メンヲ請フ、之ヲ見レハ先帝ヲ弑セシ波
 希米ノ約翰ナリケレハ顯理叱シテ之ヲ去ラシメタリキ、顯理ノゼノア
 ニ在ルヤ遷延兵ヲ進メザリシカハ那不兒王ロベルト兵ヲ羅馬ニ遣シ、顯

理ヲ防カシム、顯理之ヲ聞キ、僅ニ兵二千ヲ携ヘ南進ノ羅馬ニ入り、カピ
 トルトヲ攻撃セシカ、多ク兵士ヲ失ヒタリキ、是ニ於テ聖彼得ノ寺院ヲ襲
 ヒ以テ其敗ヲ償ハントセシカ、軍再ヒ敗レ、己ムヲ得ス、セントデヨン、ラ
 テナン寺院ニ於テ帝冠ヲ受ケタリ、時ニ敵兵之ヲ圍ミ矢降ルヲ雨ノ如
 シ、顯理毫モ動カズ兵ヲ西齊里、ゼノア曼國ノ諸所ニ募リ又先帝ノ女ハ
 フスボルグノカサリント婚ヲ約シ、長子約翰ヲシテ之ヲ迎ヘ且ツ兵ヲ
 募ラシメ其ノ歸ルヲ待ナシカ、一日聖餐ヲ食スルニ當リ、一桑門毒ヲ進
 メ遂ニブオンコンウエントニ崩セリ、實ニ千三百十三年八月二十四日
 ナリキ、

顯理七世ノ死スルヤ、ウエルフ黨ハルーイスセパヅリヤンヲ推シ、ウエ
 ルブリンケル黨ハ埃太利侯啡哩特力ヲ選ヒ、相爭テ久シク決セス、啡哩
 特力ハルーイス黨ト、サルズボルグノ側ムールドルフニ對陣シ、其弟レ
 オボルドノ來援ヲ竣タズ突然敵軍ヲ衝キシカ、兩軍共ニ奮闘シ、日己ニ暮

ル、ニ臨テ一軍急ニ戰場ニ向テ來ル者アリ、啡哩特力之ヲ望ミ、レオボ
 ルドノ兵ナリト思ヒ、更ニ之ガ備ヲ爲サズ、漸ク近クニ及テ初メテ其然
 ラザルヲ悟リシカトモ、事既ニ迫リ、敵兵四面ヨリ攻撃シ、啡哩特力ノ兵
 ナ斬ルヲ恰モ草芥ヲ薙クカ如クナリキ、埃國貴族ノ勇武ナル者、殆ド此
 戦ニ殲キ、甚シキハ一族ニシテ二十三人死セシモノアルニ至ル、啡哩特
 力亦敵ノ爲ニ捕ハレタリ、雄略一舉以テ天下ノ事ヲ定メタルモノハ誰
 ソ、ヌーレンヘルクノ人セ、フリードスクウエツペルマンナリルウイ
 ス、啡哩特力ヲ延キ、嘲テ曰ク、我大ニ汝ノ來ルヲ喜フ、ト乃チ之
 ナト、ロースニツツニ送リテ獄ニ下セリ、
 翌年羅馬法王命ヲ傳ヘテルウ井スヲ召セシニ、遂ニ之レニ赴カサリシ
 カハ、法王命ヲ發シテ曼國ノ宗門ヲ禁セリ、佛王力ヲ盡シテ法王ヲ助ケ
 必リシモ、フランシスカン社ノ僧徒ハ多ク、ルーイスヲ助ケ、或ハ民間ニ
 游説シ、或ハ文章ヲ以テ法王ノ無狀ヲ論シタリキ、是時ルーイスハ啡哩

特力ヲ獄ニ訪ヒ、其幼時ノ經歷ヲ述ヘ、共ニ國家ヲ安ゼザルヘカラザル
 一ヲ語リ、爾后蜂鷁ノ争ヲ止メ、帝權ヲ兩分メ、各々其一ヲ保タン一ヲ謀
 リシカバ、啡哩特力深ク然リト爲シ、各々印璽ヲ製シ、毎日交換シテ威權
 ナ平均セリ、是ニ於テルーイス、千三百二十七年伊太利ニ入り、ミランニ
 於テ朗罷地王ノ鐵冠ヲ受ケ、那不兒王ノ罪ヲ鳴ラシ、又法王ヲ廢シ、更ニ
 「フランシスカン社」ノ僧ヲ立テ、尼哥拉五世ト名ツケ、以テ帝冠ヲ受ケタ
 リキ、千三百三十年啡哩特力死シ、ルーイス獨リ曼王ト爲リ、千三百三十
 八年萊因河畔ノレインズニ於テ議院ヲ開キシガ、選帝官議ヲ決シテ曰
 ク、曼帝ノ至尊、天下之ニ加フルナシ、自今以后帝ヲ選フハ、日耳曼諸
侯ノ特權トシ、他人ノ容喙ヲ許サズ、ト乃チ扶蘭克佛其他ノ僧徒ノ
 ルーイスヲ奉戴セサル者ヲ罰シ、盡ク其官職ヲ奪ヒシニ、フランシスカ
 ン社ハ中道ニシテルーイスノ爲ニ疎ンセラレシカ、此ニ至テ其怨ヲ忘
 レ著書遊説其他ノ手段ヲ以テ、ルーイスヲ助ケタリ、ルーイスハ斯ク人

民ノ助ヲ得タリシモ猶足レリトセズ、英王義德瓦爾特三世ト謀リ佛國
 ナ製ハントシ、後故ナクシテ其約ニ背キ却テ其國讎タル佛國ト和シ、
 レウ非スチシテ兵ヲ率非テ英國ヲ伐クシメ、又其妻マルガレットノ荷
 蘭侯ノ妹タルノ故ヲ以テ荷蘭ヲ収メテ己レカ家ノ領地ニ加ヘ、後子ノ
 爲ニマルカレットトワイドマオスト云フ女ヲ娶リタイロルヲ得、亦己レ
 カ私有ト爲シタリキ是ヨリ全國皆レウ非スノ所爲ナ惡ミ、選帝官ニ説
 キ、之ヲ廢シテ波希米王ノ子查列斯ヲ立テシメタリキ、ルーイス幾モナ
 クシテ崩セリ

第二十一章

查列斯四世

佛王非立夫羅馬法王ト謀リ、波希米王查列斯ヲ立テ、帝位ニ即カシメ
 曼國ノ政治ヲ專ラコセント欲セシニ英王義德瓦爾特三世ハ之ヲ沮ミ
 兵ヲ佛國ニ出セシガフランドルス諸府皆之ヲ助ケタリ、時ニ查列斯非
 立夫及ヒ法王ノ力ニ由テ位ニ即テ直ニ兵ヲ率非テ佛國ニ應援セシモ
 シレセリノ戰ニ一敗地ニ塗レテ走リ歸リヌ、查列斯即位ノ初メヨリ專
 ラ其私有ヲ増サンコトヲ謀リケレバ、人民大約之ヲ奉スルコトヲ欲セス、選
 帝官ハ帝位ヲ英王ニ與ヘント欲シタレバ英國議院ハ之ヲ拒ミシヨリ
 選帝官其嘗テスリシヂヤノ戰ニ名ヲ著シタル勇將スクワルズボルグ
 侯ガソナルヲ選ヒ又波蘭人ヲ説キ、舊怨ヲ棄テ、共ニ查列斯ヲ傾ント
 謀リタリ又查列斯ハ英王ノ援ヲ得、之ト同時ニガンサルノ侍醫ニ賄ヒ、
 其主ヲ毒セシメントセリ、

查列斯幼時佛王ノ爲ニ養ハレ後又アヴヰグノニ於テ法王ニ事ヘ法王ノ痛ク佛王ノ抑制ヲ厭ヒ常ニ之ヲ排セント欲スルモ曼帝世々法王ヲ苦メタリシヲ想ヒ佛ニ背キ日ニ就クモ是レ暴ヲ去リテ暴ニ就クヲ愛ヒ敢テセサルヲ洞察シケレハ專ラ奇計ヲ用ヒテ法王ト佛王トノ間ヲ破ラント欲シ直ニ羅馬ニ入リ帝冠ヲ受ケ其ノ曼帝選舉ハ選帝官ノ特權ニシテ法王ノ之ニ與ルヲ許ササルノ決議ハ己レ毫モ關セザルヲ表シ又帝王ノ儀仗ヲ用ヒス庶人ノ行裝ヲ以テ即位ノ禮ヲ了リ直ニ府ヲ去リテ以テ法王ヲ敬禮スルノ意ヲ表シタリキ是ヨリ先キ羅馬人民ハ法王ノアヴヰグノニ在ルヲ機トシ兵ヲ擧テ貴族ニ叛キ共和政府ヲ起セリ查列斯ノ來ルヤ古羅馬帝國ヲ復シ法王及ヒ貴族ノ暴橫ヲ停止スルヲ豫想シ其首領リーシデハ直ニ來謁セシモ查列斯之ヲ捕ヘテ法王ニ送致シ其ノ歡心ヲ買ヒタリ查列斯ノ伊太利ニアルヤ毫モ曼國ノ威ヲ懼カヌヲ務メス唯諸侯ヲシテ金ヲ出シテ

各々其君權ヲ恣ニスルヲ許セシカハ其去ルヤ府民ハ大ニ之ヲ嘲罵セリ然レトモ查列斯ハ心竊ニ諸侯ノ鬪墻ヲ謀シ法王ノ羽翼ヲ殺キ且大ニ己ノ金囊ヲ滿シタルヲ喜ヒ少シモ之ヲ意ト爲サバリキ千三百六十七年查列斯再ヒ羅馬ニ入リ法王オルバン二世ニ勸メテ都ヲ遷サシメ益々法王ト佛王トノ關係ヲ破リタリキ後一年ニシテオルバン其ノ生國ニ歸リ法王グレゴリ十一世其後ヲ繼キシカ再ヒ都ヲ羅馬ニ遷セシヨリグレゴリノ死後ハ法王兩立シ一ハ羅馬ニ居リ一ハアヴヰグノニ居リ寺院ノ威權統一スル所ナク曼帝獨リ漁父ノ利ヲ專ニシタリキ已ニシテ查列斯ハ金詔…… Golden bull……令ヲ發シテ選帝官ヲ七員ト確定セリ此令ハ千三百五十六年ヌーレンホルグノ議院ニ於テ之ヲ草シ同年耶蘇ノ生日ヲ以テ之ヲ發布シタリキ其ノ金詔ト稱セシハ詔令ノ印章ヲ金紐中ニ藏メシヲ以テナリ詔令凡ソ三十章選帝ノ法即位ノ禮及ヒ波希米王ノ權限并ニ貴族ト市府トノ權限ヲ確定シ税法ヲ掲ク

而シテマエンス、コログ子、トレーグニスノ三大僧正ノ選帝官タルヲ故
 ノ如クナリキ、俗選常官中波希米ハ查列斯ノ世襲ノ所有ニシテ、
 ンボルグモ亦查列斯ニ屬セントスル勢アリテ二國ノ權威強盛ナリシ
 カトモ、サキセウヰツテンボルグ及ヒ萊因侯國ハ各孤立シテ振ハザリ
 ケレバ、查列斯金詔ニ明記シテ曰ク、——選帝官ハ各々獨立シテ其領地
 ノ君主トナリ、領地ノ人民ハ其裁判ヲ以テ最上ト爲シ、他ニ控訴スル
 ナ許サズ、——ト專ラ選帝官ノ權ヲ己カ家ニ歸シ、且己カ領地ニ他人ノ
 隊ヲ容ル、コトヲ拒キタリキ是ニ於テサキセウヰツテンボルグ侯萊
 因侯ハ選帝官ノ員ニ備ハリシト雖トモ尸位ニシテ更テニ威權ナカリ
 シナリ因テ世人ハ查列斯四世ヲ目シテ「帝國ノ養父」ステツプアザリ、
 オフゼ、エムパイア、フアザリ、オブ波希米ノ實父ト稱スルニ至レリ、查列
 斯人ト爲リ、身材矮小、骨格雄健、額骨出テ毛髮疎ナリキ、幼ヨリ佛王ノ養
 フ所ト爲リ、諸良師ノ薰陶ヲ受ケ、數國ノ言語ニ通シ、才藝秀絶ナリ、

千三百四十八年其ノ家有ニ風スル波希米王國ノ國法ヲ制定シテ大ニ
 自由ヲ人民ニ與ヘ、親ラ工事ヲ監シテプレークノ美府ヲ建テ、多ク造家
 工、彫刻工、書工等ヲ集メ、其文飾ヲ壯麗ニシタリキ、又カルス、バットニ於
 テ温泉ヲ發見シ己カ名ヲ取リテ名ツケシレシニ於テ製造ノ事ヲ起サ
 ント欲シ、當時世界ニ冠タルフランドルスノ職工ヲ招キテ、此地ニ移住
 セシメ更ニ、巴里ノ大學校ニ法トリ、プレーグニ於テ大學校ヲ起シタリ
 是ヲ日耳曼大學校ノ權輿トス、後之ニ倣ヒ各所ニ大學ノ設立ヲ見ルニ
 至リタリキ、查列斯ハ此ノ如ク力ヲ波希米ニ盡シ國勢ノ振興ヲ謀リシ
 カレ日耳曼全國ハ、政令弛緩シ、盜賊横行セリ、查列斯之ヲ憂ヒ勦討ニ從
 事セシモ全ク其功ヲ奏セザルヨリ遂ニ諸都府ヲシテ互ニ同盟ノ約ヲ
 爲シ以テ自ラ之ヲ防禦セシメタリキ、是ニ於テ府民ハ漸ク獨立ノ氣象
 ナ發揮シ、皆兵備ヲ整ヒ諸侯ノ兇暴ヲ防キ、僧官モ亦之カ凌辱ヲ免ルル
 一能ハサルヲアリ、然レモ時運未ダ至ラス、協心戮力ノ法未ダ行ハレス、

甲府既ニ羈絆ヲ脱スルモ、乙府猶舊習ニ安ンシ、聯合共同ノ自由ヲ唱ヘサルヲ以テ永ク其事ヲ成スヲ能ハサリキ
 查列斯ハ金詔ニ明記セル賄賂ノ嚴禁ヲ犯シ、十万フローリンヲ散シテ、選帝官ニ賄ヒ、遂ニ其子ウエンセスロースヲ選舉セシメタリ、千三百七十八年查列斯佛國ニ至リテ、和ヲ約シ、將ニ歸ラントスルニ當リテ路ニシテ崩シタリキ、

第二十三章

ウエンセスロースニシヂスモンド

ウエンセスロースハ、其氣象全ク父ト相反シ、即位ノ初メヨリ波希米人權利ヲ剝奪シ、専ラ日耳曼人ニ高位高官ヲ與ヘタリシカハ、波希米人皆怨望シテ暴君ト稱セリ、又ウエンセスロースハ、曾テ曼國ニ來リシトナ

ク、議院ヲ開キシトナカリシヲ以テ、政令弛滯シ、國家乱兆ヲ萌シタリキ、然レモウエンセスロースハ却テ之ヲ以テ滑稽ノ談柄ニ供セシカハ、曼人モ亦之ヲ怨望セリ

ウエンセスロース性狂暴殘虐、桀紂モ亦管ナラサリキ、曾テ波希米ニ於テ貴族ヲ戮シ、三天幕ヲ張り、幕毎ニ其色ヲ異ニシ、一ハ白、一ハ黒、一ハ赤ト爲シ、ウエンセスロースハ黒幕中ニ在リ、貴族ヲシテ次ヲ追ヒテ一人ツツ其中ニ入ラシメ、之ヲ要ノ其領地ハ帝ノ有ナルヲ以テ、之ヲ取リ返サント誓ハシメ、此誓ヲ爲スモノハ、延キテ白幕ニ入ラシメ、盛宴ヲ張リテ之ヲ饗シ、之ヲ拒ムモノハ、直ニ赤幕ニ入ラシメ、劊手ヲシテ之ヲ斬ラシメタリキ、亦一日宴ヲ設ケ賓客既ニ入リシ時一人ノ壯士、大劍ヲ執リテ令ヲ聞カハ、直ニ斬ルノ狀ヲ爲スヲ見テ、色ヲ失ヘリ、ウエンセスロース壯士ヲ顧ミテ曰、我カ饗ノ終ルヲ待チ、然ル後汝カ職ヲ盡スヘシ、ト此時ノ賓客ハブレীগノ令尹及ヒ議員等ナリシカ、ウエンセ